

琵琶湖博物館業績目録

10号

2005年度



LAKE BIWA MUSEUM
琵琶湖博物館

琵琶湖博物館業績目録

第 10 号

2005 年度

滋賀県立琵琶湖博物館 編

滋賀県立琵琶湖博物館

2006 年 10 月

Performance Records of the Lake Biwa Museum, No. 10

From April 2005 to March 2006

Edited by the Lake Biwa Museum

Published by the Lake Biwa Museum

Oroshimo-cho 1091, Kusatsu, Shiga 525-0001, Japan

© *Lake Biwa Museum, October 2006*

All rights reserved

Printed in Japan

目 次

館長

川那部 浩哉	KAWANABE, Hiroya	5
--------	------------------	---

研究顧問

嘉田 由紀子	KADA, Yukiko	8
--------	--------------	---

環境史研究領域

中島 経夫	NAKAJIMA, Tsuneo	12
高橋 啓一	TAKAHASHI, Keiichi	16
牧野 久実	MAKINO, Kumi	19
山川千代美	YAMAKAWA, Chiyomi	21
橋本 道範	HASHIMOTO, Michinori	24
里口 保文	SATOGUCHI, Yasufumi	27
宮本 真二	MIYAMOTO, Shinji	30
桒永 一宏	MASUNAGA, Kazuhiro	33

生態系研究領域

前畑 政善	MAEHATA, Masayoshi	36
杉谷 博隆	SUGITANI, Hirotaka	40
松田 征也	MATSUDA, Masanari	42
武部 強	TAKEBE, Tsuyoshi	46
金子 修一	KANEKO, Shuichi	48
孝橋 賢一	KOUHASHI, Kenichi	50
草加 伸吾	KUSAKA, Shingo	53
楠岡 泰	KUSUOKA, Yasushi	57
中井 克樹	NAKAI, Katsuki	61
桑原 雅之	KUWAHARA, Masayuki	70
牧野 厚史	MAKINO, Atsushi	73
芳賀 裕樹	HAGA, Hiroki	76
亀田佳代子	KAMEDA, Kayoko	79
矢野 晋吾	YANO, Shingo	83
大塚 泰介	OTSUKA, Taisuke	85
スミス, ロビン.J	SMITH, Rbin James	89

博物館学研究領域

布谷 知夫	NUNOTANI, Tomoo	92
グライガー, マーク J.	GRYGIER, Mark J.	99
用田 政晴	YODA, Masaharu	104
秋山 廣光	AKIYAMA, Hiromitsu	108
戸田 孝	TODA, Takashi	111
八尋 克郎	YAHIRO, Katsuro	113
谷口 雅之	TANIGUCHI, Masashi	118

中村 公一	NAKAMURA, Koichi	123
芦谷美奈子	ASHIYA, Minako	128
中藤 容子	NAKATO, Yoko	129
嘱託職員等		
青木 伸子	AOKI, Nobuko	133
荒井 文子	ARAI, Tomoko	135
磯野なつ子	ISONO, Natsuko	136
大川 聡	OKAWA, Satoshi	137
太田 佳恵	OOTA, Yoshie	138
堀田 桃子	HOTTA, Momoko	139
特別研究員		
北村 美香	TITAMURA, Mika	141
野嶋 宏二	NOJIMA, Koji	143
藤田 裕子	FUJITA, Yuko	144
堀田 桃子	HOTTA, Momoko	146
水野 敏明	MIZUNO, Toshiaki	147
総合研究・共同研究成果による印刷物		149
2005年度の研究活動をふりかえって		152

収録内容

1. この業績目録には、滋賀県立琵琶湖博物館の学芸職員および嘱託員、特別研究員等の2005年4月から2006年3月までの内容が収録されています。
2. この業績目録には、次の項目に該当する業績を収録しました。

一年間の研究

印刷物

- 【学術論文】
- 【専門分野の著作】
- 【一般向けの著作】
- 【これまでの業績集に掲載されていない著作】

研究活動に関する業績

- 【学会・研究会での発表】
- 【インターネットページでの公表】
- 【研究プロジェクト等への参加】
- 【学会等の役職・運営、論文の査読など】
- 【大学の講義・実習、学生の指導など】
- 【受賞など】

博物館事業に関する業績

- 【交流・サービス事業】
 - 琵琶湖博物館の主催行事
 - 他の博物館・機関等主催行事
 - 視察対応
 - メディアへの協力
- 【情報整備活動】
 - 琵琶湖博物館の活動
 - 他博物館・機関の活動

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動
他博物館・機関の活動

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動
他博物館・機関の活動

【企画調整活動】

【研究部関連事業】

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

【海外渡航】

【館外の活動】

印刷物

【一般向けの著作】

- 川那部浩哉 (2005) 心洗われる文章. *石牟礼道子全集不知火月報*, 7, 藤原書店, 東京: 5-6.
- 川那部浩哉 (2005) はじめに; みんなで楽しんだうおの会—身近な環境の魚たち—. *琵琶湖博物館研究調査報告*, 23: 1-3.
- 川那部浩哉 (2005) メッセージ. *本の文化を育み未来に伝える歴史都市・京都の創生をめざして*, 京都創生百人委員会事務局, 京都.
- 川那部浩哉・入澤 誠 (・今森光彦) (2005) 魚も鳥も虫も人も. *ひととき*, 5 (5): 14-17.
- 川那部浩哉 (2005) 「外来生物規制法」に寄せる. *野生生物保全論研究会会報*, 1: 4-5.
- 川那部浩哉・秋道智彌・鎌田美智子 (2005) 再考・コイを食べる—コイ食の歴史と文化—. *ビオストーリー*, 3: 24-33.
- 川那部浩哉 (2005) 私にとっての水俣病と生態学. *阿賀よ伝えて; 103人が語る新潟水俣病*, 新潟水俣病40周年記念誌出版委員会, 新潟: 206-208.
- 川那部浩哉 (2005) 壮絶な、そして、心豊かな御人生でした. *動き草の根; 松下竜一追悼文集*, 草の根の会, 中津: 98.
- 川那部浩哉 (2005) はじめに: 歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見—. *琵琶湖博物館企画展示解説書*: 2-3.
- 川那部浩哉 (2005) 野生生物をめぐる「再読」したい本. *野生生物保全論研究会会報*, 2 (27), 野生生物保全論研究会: 27.
- 内藤正明・川那部浩哉 (2005) 対談; 琵琶湖を救う手だて—多様な豊かさに支えられた循環型社会をこそ—. *うみんど*, 36: 4-5.
- 川那部浩哉・広中孝至・佐藤知幸 (2005) 淡海と人と; 10年目の琵琶湖博物館、<5>展示通じ議論起されば; 川那部館長に聞く. *京都新聞*: 2005年12月6日.
- 川那部浩哉 (2005) ごあいさつ. *琵琶湖博物館年報*, 9: 1.
- 川那部浩哉 (2006) びわこのうちそと 国際湿地再生シンポとはの巻; 川那部浩哉・琵琶湖博物館長に聞く. *朝日新聞*: 2006年1月8日.
- 川那部浩哉 (2006) 水の中の生きものと話をしよう. *伝えたい大切なこと*, 東洋経済新報社, 東京: 154-160.
- 川那部浩哉 (2006) 2005年読書アンケート. *みすず*, 535: 90-91.
- 川那部浩哉 (2006) ごあいさつ; 展示室におけるコミュニケーション—展示と人・人と人—. *琵琶湖博物館研究調査報告書*, 24: 1.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 山田家正・大場秀章・川那部浩哉・久万田敏夫・佐々木正峰・田口正夫・土井茂子・古沢 仁・前川公美夫・矢野義和・山中一郎 (2004) 北海道大学総合博物館外部点検評価. *北海道大学総合博物館外部点検評価報告書*, 北海道大学総合博物館点検評価委員会, 札幌: 4+6+60.
- 川那部浩哉 (2004) ごあいさつ. *琵琶湖博物館年報*, 8: 1.
- 川那部浩哉 (2005) 柿田川のおもしろさ. *静岡新聞*: 2005年3月8日.

研究活動に関する業績

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005 年度後期，滋賀県立大学大学院環境科学研究科，「生物多様性理論」。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，8 件。

他の博物館・機関等主催行事

2005 年 4 月 19 日，琵琶湖と私，びわ湖の水と環境を守る会，「琵琶湖の水と環境を守る会」創立 10 周年記念 第 11 回びわ湖問題講演会，ピアザ淡海（滋賀県），講演。

2005 年 5 月 27 日，植物園はいま，京大植物園を考える会，第 2 回京大植物園を考える会シンポジウム，京都大学 百周年時計台記念館（京都市），司会。

2005 年 10 月 24 日，第 26 回水環境とくらしの調和部会，地球環境関西フォーラム阪急ターミナルビル（大阪府），座長。

2005 年 11 月 30 日，琵琶湖と魚が語ること，日本水質環境研究会，講演会—よりよい水環境を次世代に残すために—，ヤクルトホール（東京都），講演。

2005 年 12 月 14 日，第 26 回水環境とくらしの調和部会，地球環境関西フォーラム京都センチュリーホテル（京都市），座長。

2006 年 1 月 28 日～29 日，国際湿地再生シンポジウム 2006，国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会大津プリンスホテル（滋賀県），実行委員長。

2006 年 2 月 1 日，水族館研究の夢と可能性，水族館技術者研究会，水族館技術者研究会第 50 回記念フォーラム，大阪国際交流センター（大阪府），講演。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2005 年 7 月 23 日～7 月 31 日，フランス，企画展（フェアブル展）締結式、打合せ。

【館外の活動】

滋賀県総合保全学術委員会，副委員長。

世界自然保護基金ジャパン（WWF），常任理事。

日本自然保護助成基金，理事。

国際生態学日本センター，理事。

野生生物保全論研究会, 理事.
日本自然保護協会, 評議員.
日本学術振興会 21世紀 COE, プログラム委員会, 委員.
日本ユネスコ国内委員会, 人と生物圏小委員会, 委員.
京都府文化財保護審議会, 委員.
京都市文化財保護審議会, 委員.
生態学琵琶湖賞運営委員会, 委員.
滋賀県科学技術政策推進会議, 委員.
国際生物学賞委員会, 委員.
毎日出版文化賞委員会, 委員.
地球環境大賞顕彰制度委員会, 委員.
北海道大学総合博物館運営委員会, 委員.
島根大学汽水域研究センター研究推進協議会, 委員.
科学技術審議会理解増進部会, 委員.
科学技術審議会基礎研究部会, 専門委員.
国土交通省琵琶湖とその周辺の河川環境に関する専門家会議, アドバイザー.
日本 BICER 協議会, 名誉会長.
京都市青少年科学センター, 学術顧問.
応用生態工学会, 名誉会員.
京都賞審査委員会, 委員.
地球環境関西フォーラム, 企画委員会, 委員.
地球環境関西フォーラム, 地球環境 100 人委員会, 委員.
京都生涯教育研究所, 評議員.
生き物文化誌学会, 評議員.
山階鳥類研究所, 外部評価委員.
環境経済人委員会, 審議委員.

印刷物

【学術論文】

- 嘉田由紀子 (2005) 制御か共感か?—住民による環境調査に見る幸せの形. 先端社会研究, 2, 関西学院大学出版会: 269-300.
- 嘉田由紀子 (2005) 「水の公共性」をめぐる政策と知のあり方—「制御する知」と「共感を育む知」. 都市問題, 6 (96), 東京都市調査会: 46-55.
- 嘉田由紀子 (2005) 環境と暮らしの変遷—生活環境主義の考え方. 月刊NIRA 政策研究, 18 (8), 総合研究開発機構: 19-26.

【一般向けの著作】

- 嘉田由紀子 (2005) コミュナルな知恵と力の再生—見えなくなった日本の伝統を見えるようにする. *Insight*, 5, 関西電力: 12.
- 嘉田由紀子 (2005) 森は海の恋人—眺める森から関わる森へ. *社叢学研究*, 3, 社叢学会: 46-58.
- 嘉田由紀子 (2005) ひろば—科学者の目と詩人の心. *こどもの図書館*, 52 (3), 児童図書館研究会: 1.
- 嘉田由紀子 (2005) 「近代の毒」を問い続ける石牟礼さん. *石牟礼道子全集 不知火 月報*, 12 (8), 藤原書店: 7-8.
- 嘉田由紀子 (2005) アフリカ・マラウイ湖辺での水環境保全—食糧問題とエコ便所導入—. *第8回下水文化研究発表会講演集*, 日本下水文化研究会: 45-50.
- 嘉田由紀子 (2005) 身のまわりの風景には意味があります. *湖国風景づくりのてびき*, 滋賀県: 6-9.
- 嘉田由紀子 (2005) 制御か共感か?—水害エスノグラフィーの試み. *人間文化*, 2, 大學共同利用機関法人人間文化研究機構: 4-21.
- 嘉田由紀子 (2005) 湖の国から「70年の時を刻む海津の桜」. *みんなの滋賀新聞*: 2005年4月9日.
- 嘉田由紀子 (2005) 流域ルネサンス7「水田に魚戻せ、湖と結ぶ『水路』復活」. *福井新聞*: 2005年5月5日.
- 嘉田由紀子 (2005) 湖の国から「蛍は死者の霊魂?」. *みんなの滋賀新聞*: 2005年5月21日.
- 嘉田由紀子 (2005) ズバリ直言「農村風景は女がつくった!」. *農業経済新聞*: 2005年5月31日.
- 嘉田由紀子 (2005) 湖の国から「あっちたてればこっちがたたず」. *みんなの滋賀新聞*: 2005年6月25日.
- 嘉田由紀子 (2005) 知恵と経験で水害から守れ—12人死傷「鴨川大洪水」あす70年—京都精華大教授ら高齢者聞き取り. *京都新聞*: 2005年6月28日.
- 嘉田由紀子 (2005) 水俣病問題懇談会委員に聞く—近代化で幸せになれたか—自然に寄り添う暮らしを. *熊本日日新聞*: 2005年6月29日.
- 嘉田由紀子 (2005) 近江百声「洪水ハザードマップづくりを住民から求めよう」. *みんなの滋賀新聞*: 2005年7月10日.
- 嘉田由紀子 (2005) 湖の国から「カバタ」のトマト. *滋賀新聞*: 2005年7月30日.
- 嘉田由紀子 (2005) ズバリ直言「田んぼは魚のゆりかご」. *農業経済新聞*: 2005年8月3日.
- 嘉田由紀子 (2005) 受身やめ住民主体で「地域に学びまちづくりを考える—地元で学ぶ地域学」シンポ特集—基調講演から. *みんなの滋賀新聞*: 2005年8月7日.
- 嘉田由紀子 (2005) 研究室発 環境社会学「水と人のかかわりを調査」. *中日新聞*: 2005年9月27日.
- 嘉田由紀子 (2005) ズバリ直言「森・里・湖のミュージアム」. *農業経済新聞*: 2005年9月28日.

- 嘉田由紀子 (2005) 環境団体応援シンポ－自然の再生力と営み 110 年、多彩な生物育てる－神仙苑には琵琶湖固有種. *京都新聞*: 2005 年 10 月 31 日.
- 嘉田由紀子 (2005) 支局長からの手紙「思い出の写真」. *毎日新聞*: 2005 年 11 月 28 日.
- 嘉田由紀子 (2006) インタビュー 便利さと浪費はもう限界. *毎日新聞*: 2006 年 1 月 1 日.
- 嘉田由紀子 (2006) 「公共性」概念の検討－環境問題をめぐって－. *社会文化科学研究科研究プロジェクト報告書*, 87, 千葉大学大学院社会文化科学研究科: 45-52.
- 嘉田由紀子 (2006) 日本の知恵 水辺(上)生き物と寄り添って洪水ありきで暮らす. *朝日新聞*: 2006 年 3 月 11 日.
- 嘉田由紀子 (2006) 日本の知恵 水辺(下)生き物と寄り添って洪水ありきで暮らす. *朝日新聞*: 2006 年 3 月 18 日.

研究活動に関する業績

【研究プロジェクト等への参加】

- カーネギー財団「環境政策における価値観：日米中印4カ国比較」研究代表者, (2000～2005 年度).
- 文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「環境保全における地域システムの役割－コモンズ論・公共性論・生活環境主義の再検討を通して－」研究代表者, (2002～2005 年度).
- 文部科学省科学研究費補助金(基盤B)「人類学的視点から見る環境保全」研究分担者, (2000～2005 年度).
- 滋賀県湖西地域振興局「湖西の魅せ方フィールドワーク委託事業」研究代表者, (2004～2005 年度).
- 地球環境基金助成事業「子どもと川のかかわりの再生」研究代表者, (2003～2005 年度).
- 近畿地方整備局委託事業「三世代交流型河川調査」共同研究者, (2003 年度～2005 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2005 年度前期, 淑徳大学大学院生, 「現代社会学特殊講義」.
- 2005 年度前期, 京都精華大学文学部環境社会学会一回生.
- 2005 年度前期, 京都精華大学文学部環境社会学会二回生, 「地域計画演習 IIA」.
- 2005 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学会二回生, 「地域計画演習 IA」.
- 2005 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学会三回生, 「環境社会基礎 I」.
- 2005 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学会三回生, 「環境社会基礎 II」.
- 2005 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学会四回生, 「総合環境論 I」.
- 2005 年度後期, 京都精華大学文学部環境社会学会四回生, 「卒業論文指導」.
- 2005 年度後期, 滋賀県立大学集中講義.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

- 2005 年 4 月 23 日, 世界と日本の子どもと水環境－親和的つながりの回復・創造. 愛・地球博市民プロジェクト, まちの縁側大学 2005, 愛地球博瀬戸会場市民パビリオン対話劇場(愛知県), 講演.
- 2005 年 5 月 22 日, やさしい川こわい川－水害もふくめて川とのつきあいを深めるには. 特定非営利活動法人びわこ豊饒の郷, 特定非営利活動法人びわこ豊饒の郷通常総会, 守山市吉身会館(滋賀県), 講演.
- 2005 年 5 月 24 日, 防災の歴史と住民の防災. 淀川河川事務所, 平成 16 年度淀川水防連絡会(京都府域), 八幡市文化センター(京都府), 講演.
- 2005 年 5 月 29 日, こどもたちに伝えたい高島の風景とところ. 高島市, 高島市誕生記念式典たかしま「環の郷」フォーラム, 今津文化会館(滋賀県), 講演.

- 2005年5月30日、「森は海の恋人」パネルディスカッション。社叢学会，社叢学会2004年度総会，熱田神宮文化殿（愛知県），パネリスト。
- 2005年5月31日，世代交流でつなぐ水害史。淀川河川事務所，平成16年度淀川水防連絡会（大阪府域），守口文化センター（大阪府），講演。
- 2005年6月19日，環境社会学から自然災害へのアプローチ試論ー近代知の失敗とその修復実践研究からー。環境社会学会，環境社会学会第31回セミナー，日本海拠点館（青森県），報告。
- 2005年6月25日，制御か共感か？水害エスノグフィーの試み。人間文化研究機構，人間文化研究機構第2回公開講演会・シンポジウム，大阪国際会議場（大阪府），基調講演。
- 2005年7月2日，21世紀の滋賀の地域・環境政策を考える。滋賀自治体問題研究所，滋賀自治体問題研究所創立20周年記念シンポジウム，滋賀ビル（滋賀県），パネルディスカッション。
- 2005年7月12日，大阪で氾濫、あなたは？。産経新聞社，防災・減災フォーラム2005 in 大阪，ヴィアール大阪（大阪府），パネルディスカッション。
- 2005年11月19日，昭和三十年前後の生活写真のもつ可能性。人と自然を考える会，なつかしい写真を使って元気になろう！，東近江市立図書館（滋賀県），講演。
- 2005年12月3日，水害に強い地域づくり。京都府，第4回鴨川流域懇談会，京都府会館（京都府），講演。
- 2005年12月12日，水害をめぐる行政と住民の連携について。国土交通省淀川河川事務所・京都府・京都市，台風23号から考える緊急シンポジウムー水害に強い地域社会づくりにむけて，京都私学会館（京都府），コーディネーター。
- 2005年12月19日，社会学と民俗学をつなぐー環境知の形成ー。京都精華大学，京都精華大学大学院人間文化研究科連続講演会シリーズ2005，京都精華大学（京都府），講演。
- 2005年12月26日，人びとの社会意識と暮らしぶりを反映する治水政策へ。日本学術振興会，流域管理の新たな動向：流域委員会、自治体連携から考える，総合地球環境学研究所（京都府），話題提供。
- 2006年1月17日，世界の水事情「し尿忌避文化」と「し尿親和文化」。京都文教大学人間学研究所，京都文教大学人間学研究所公開講演会「京都の水世界の水」，京都文教大学（京都府），講演。
- 2006年1月22日，水害に対する備えについてーその社会的対応を考える。八幡市自治連合会，八幡市自治連合会10周年記念式典講演会，八幡市文化センター（京都府），講演。
- 2006年1月27日，水害史の環境社会学的調査からみた河川政策への提言。日本水環境学会，「水害と水環境」第11回情報ネットワーク講演会，人と防災未来センター「防災未来館」（兵庫県神戸市），講演。
- 2006年1月28日，水辺は誰のものか？ー公「共」私」、多層的な所有論を国際比較から考えるー。千葉大学，シンポジウム「風土論・環境・倫理・公共性」，千葉大学大学院（千葉県），講演。
- 2006年2月12日，『私の水辺』大発表会。『私の水辺』大発表会実行委員，府域合同大発表会，ドーンセンター（大阪府），審査員。
- 2006年2月20日，琵琶湖をめぐる、水と人の環境史ー住民主体調査から琵琶湖博物館へー。（社）日本河川協会，河川文化を語る会，厚生会館（東京都），講演。

メディアへの協力

- 2005年4月10日，NHK総合テレビ，地球大好き環境新時代・新たな農業、北の国から伝えたい，出演。
- 2005年6月11日，NHK総合テレビ，地球大好き環境新時代・大地にはばたくトキ、佐渡のトキをはなす，出演。
- 2005年12月20日，NHK総合テレビ，地球大好き環境新時代・砺波平野のカイニョ，出演。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2005年8月19日～9月19日，マラウイ共和国，京都精華大学海外調査演習。

【館外の活動】

2000年4月～，京都精華大学教授。

2001年4月～，環境省自然環境保全審議会，委員。

2004年6月～，滋賀県高島市，高島市エコミュージアム検討委員会，委員。

2004年6月～2006年5月，滋賀県環境審議会，委員。

2004年12月～2006年12月，滋賀県琵琶湖レジャー利用適正化審議会，委員。

2005年2月～2007年2月，京都府環境審議会，委員。

2005年4月～，滋賀県高島市，高島市景観計画策定委員会，委員。

2005年4月～2007年3月，環境省中央環境審議会，臨時委員。

2005年5月～2006年3月，滋賀県立大学，滋賀県立大学法人化準備委員会，委員。

2005年6月～2006年3月，京都市産業観光局，京都市産業科学技術振興計画策定委員会，委員。

2005年7月～2007年1月，文部科学省，科学技術・学術審議会，専門委員。

2005年8月～，環境省自然環境・野生生物合同部会，委員。

2006年4月～，国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所，国土審議会近畿圏整備部会，特別委員。

コイ科魚類の咽頭歯の研究を通じて、湖と人間のかかわりがどのように築かれてきたかを考えている。2005年度の研究活動は、琵琶湖博物館の研究プロジェクトとして、総合研究「東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類の展開を軸にしたーその環境史に関する研究」(以下総研「東アジア」)を中心に行ってきた。この研究は、2006年度が最終年度にあたり、2006年度、2007年度の企画展示、単行本の出版に向けて最後のまとめにはいつている。

2004年度末にうおの会の調査活動をまとめた琵琶湖博物館研究調査報告23号「みんなで楽しんだうおの会 身近な環境の魚たち」を出版したが、この報告書では、各種の分布図という生のデータをしめしただけである。うおの会の調査では、採集地点の環境データも同時に調査している。これらのデータと魚の分布との関係などまだ分析が行われていない。共同研究『「魚が確認できない」データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明」で、うおの会データの分析を進めている。また、うおの会は琵琶湖お魚ネットワークの中心的団体として調査活動や観察会の指導をおこなってきた。

咽頭歯研究のまとめとして、咽頭歯モノグラフ“Comparative studies on the pharyngeal teeth of cyprinids and their allies”の執筆に取りかかった。2009年度をめどに出版にこぎつけたいと考えている。

印刷物

【学術論文】

- 中島経夫・甲斐朋子・辻 美穂・鈴木恭子 (2005) 鳥浜貝塚貝層の定量分析についての予察的報告. *鳥浜貝塚研究*, 4・5: 1-8.
- 中島経夫 (2005) ワタカは琵琶湖の固有種?ーワタカをめぐる生き物文化誌. *Biostory*, 3: 102-109.
- Nakajima, T. (2005) Significance of freshwater fisheries during the Jomon and Yayoi periods in western Japan based on analysis of the pharyngeal tooth remains of cyprinid fishes. Grier, C., Jangsuk Kim, J. and Uchiyama, J. eds., *Beyond Affluent Foragers*, Oxford Press, Lonson: 45-53.

【専門分野の著作】

- 中島経夫 (2005) 赤野井湾遺跡出土の魚類遺体. 守山市市史編纂委員会編, *守山市史 考古編*, 守山市教育委員会: 10-11.
- 中島経夫 (2005) 人間の活動と魚の関わり. 守山市市史編纂委員会編, *守山市史 考古編*, 守山市教育委員会: 76-77.
- 中島経夫 (2005) 土からわかることー咽頭歯分析. 守山市市史編纂委員会編, *守山市史 考古編*, 守山市教育委員会: 248-249.
- 中島経夫 (2005) エコミュージアムの取り組みーうおの会の活動. 高橋隆博・森隆男・米田文孝編, *博物館学ハンドブック*, 関西大学出版部: 26.
- 中島経夫 (2005) 多様な形はどのようにできあがるかーコイ科魚類の咽頭歯. 松浦啓一編, *魚の形*, 東海大出版会, 東京: 69-113.

【一般向け著作】

- 中島経夫 (2005) びわとと調査隊 滋賀県立琵琶湖博物館における「地域子ども教室」について. *全科協ニュース*, 35(5): 3-5.
- 中島経夫 (2005) びわとと調査隊集まれ みんなで調べる水環境. 変わらぬ関係, 変わった関係 湖と人間, 連載

第8回, *みんなの滋賀新聞*: 2005年8月18日.

中島経夫 (2005) 科学欄コラム「波」在来種 人工水路が安住の地に. *朝日新聞*: 2005年8月19日.

中島経夫 (2005) 科学欄コラム「波」うおの会 市民も一緒に調査研究. *朝日新聞*: 2005年8月26日.

中島経夫 (2005) 科学欄コラム「波」コイ、フナ文化 縄文期西日本で開花?, *朝日新聞*: 2005年9月2日.

中島経夫 (2005) 科学欄コラム「波」オサムシ 飛べない「歩く宝石」. *朝日新聞*: 2005年9月16日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

中島経夫 (2005年7月30日) コイ科魚類の分布にみる先史時代、歴史時代の生業活動への影響. 第6回「個に宿る全体」研究会, 総合地球環境学研究所.

中島経夫 (2005年7月29日) 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類の展開を軸にしたーその環境史に関する研究」から見た NEOMAP と私のアプローチ. 総合地球環境学研究所.

水野敏明・中島経夫・琵琶湖博物館うおの会 (2006年1月28日) ラムサール条約登録基準による琵琶湖流域魚類の優先保全地域の評価. 国際湿地再生シンポジウム, 滋賀県.

中島経夫 (2006年1月29日) 琵琶湖地域の魚と人間のかかわりの歴史. 国際湿地再生シンポジウム, 滋賀県.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類の展開を軸としたー環境史に関する研究」, 研究代表者 (1996ー2006年度).

琵琶湖博物館共同研究『魚が確認できない』データに基づく魚類が脅威にさらされている地域の特定と要因の解明 (研究代表者: 水野敏明), 共同研究者.

琵琶湖博物館専門研究「コイ科魚類咽頭歯の研究」 (2005年度).

国立歴史民俗博物館総合研究「日本歴史における水田環境の存在意義に関する総合的研究」 (研究代表者: 安室知), 共同研究者.

総合地球環境学研究所研究プロジェクト FS「東アジア内海の新石器化と現代化: 文化的景観の形成史」 (研究代表者: 内山純蔵), 共同研究者.

【大学での講義・実習、学生の指導など】

2006年1月10日・16日, 滋賀県立大学大学院「生物多様性論」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ活動, うおの会, 咽頭歯倶楽部担当.

質問コーナー・フロアトーク, 12件.

2005年7月3日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 守山市民ホール付近の水路.

2005年7月17日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 能登川町立博物館付近の水路.

2005年7月23日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 近江八幡市千僧供の水路.

2005年7月27日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 野洲川水口大橋付近.

2005年7月31日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 高島市新旭の水路.

- 2005年8月4日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 和邇川.
- 2005年8月7日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 大戸川黒津橋付近.
- 2005年8月9日, 身近な環境の魚たちを調べよう, 観察会, 近江町道の駅「母の郷」付近の水路.
- 2005年11月20日, コイが来た道一時的に、空間的にコイ科魚類がやってきた道. 第8回琵琶湖博物館研究発表会, 「コイが来た道」総合研究「東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類の展開を軸としたー環境史に関する研究」の成果, 琵琶湖博物館.
- 2006年2月25日, 魚と人間の関わりの歴史, 指導者のための淡水魚類学専門講座 II, 琵琶湖博物館.

他の博物館・機関等主催行事

- 2005年4月2日, 春の水辺観察会, WWF・ブリヂストンびわ湖生命の水プロジェクト, 多賀町立博物館付近の水路.
- 2005年4月29日, お魚ネットワークおおつ第1回調査, お魚ネットワークおおつ, 田上地区大戸川.
- 2005年7月8日, 自然と人間の営みの重層的歴史からみた琵琶湖の魚のおいたち, レイカディア大学必修講座「郷土理解の分野」、レイカディア大学 (滋賀県), 講演.
- 2005年7月18日, 琵琶湖の魚のおいたちとその保全. 甲良町文化協会研修, 講演.
- 2005年7月28日, 石山スポーツ少年団 こどもの水辺会議1, 三田川子どもの水辺・水辺の楽校推進協議会, 大津市晴嵐町市民センター付近の水路.
- 2005年8月18日, 石山スポーツ少年団 こどもの水辺会議2, 三田川子どもの水辺・水辺の楽校推進協議会, 守山市法竜川.
- 2005年8月27日, 石山スポーツ少年団 こどもの水辺会議3, 三田川子どもの水辺・水辺の楽校推進協議会, 大津市三田川.
- 2005年9月10日, 白鳥川の観察会, 近江八幡水と緑の市民環境会議, 近江八幡市白鳥川.
- 2005年11月18日, 田んぼと「さかな」ーたんぼと魚の関係の歴史 人間とコイ科魚類の関わりの歴史, 滋賀県農林土木コンクリート協会 25周年記念シンポジウム「豊かな田園の生き物との共生をめざして」, 滋賀県農林土木コンクリート協会, 講演.

視察対応

琵琶湖博物館概要説明・展示案内, 8件.

メディアへの協力

- 2005年6月14日, 京都新聞, うおの会の調査から「アユモドキ」絶滅か?.
- 2005年8月17日, KBS ラジオ, あっちこっちほっかほかだより, うおの会紹介, 出演.
- 2005年8月23日, 読売新聞, うおの会紹介.
- 2005年9月11日, みんなの滋賀新聞, 外来魚増加に警鐘.
- 2005年11月5日, 毎日新聞, 琵琶湖お魚ネットワーク誕生
- 2005年11月29日, NHK ニュース, コイが来た道.
- 2005年12月17・18日, びわ湖放送、テレビ神奈川, ニッポン早わかり 科学館がスゴイ!, 学校連携の紹介.
- 2006年2月27日. 読売新聞, メダカ復活作戦.
- 2006年3月5日, 朝日新聞, びわこのうちそと.
- 2006年3月6日, 読売新聞, Nature lovers work to save killfish.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類標本データベースの整備.

研究・事業活動紹介のための個人インターネットページの開設および更新.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

魚類標本, 2,232 件登録 (累計 46,264 件登録).

魚理標本, 46,264 件の維持・管理 (貸出, 液交換等を含む作業).

館内人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

西日本自然史博物館ネットワーク, 理事.

本年度も昨年度同様、研究部長および環境史研究領域のグループリーダーとしての活動を中心に行った。

研究活動を活発化させるために、縮小してきた総合研究、共同研究の件数を回復させるように努力したが、その結果、総合研究においては申請が3件あり拡大の兆しがみえた。また、各研究領域のまとまりをつけるように定期的な会議を開催するようにした。専門研究においても内部審査を実施するようにし、個々の学芸員の研究上の質を高めるよう努力した。

研究事業においては、古琵琶湖層の時代でもある約500万年以降の脊椎動物化石の変遷を東アジア全体の環境史の中で捉えようとしている。この研究のために、総合研究、共同研究、専門研究を組み合わせで行っている。今年度は、昨年度後半に総合研究および共同研究の成果をもとに3つの論文と1つの報告書をまとめた。また、海外の国際的な雑誌へも1件受理された。その他、子供向けのマンモスゾウ関連の訳本を出版した。

外部研究費に関しては、科学研究費補助金基盤（C）に採択され、「後期更新世における動植物相の変遷と旧石器文化の関係解明のための学際的研究」という研究課題で外部の研究者と共同研究を行うことができた。外部の他分野の研究者と研究することで視野を一層広げるよう努力したい。

展示事業では琵琶湖のおいたち展示室内でトピック展示「マンモスゾウ化石と世界のゾウ化石」を企画し、開催した。愛知万博でマンモスゾウの展示が行われていることもあり、人気の展示となった。交流事業でははしかげグループの「ほねほねくらぶ」の担当学芸員を引き続き行った。

印刷物

【学術論文】

Izuho, M. and Takahashi, K. (2005) Correlation of paleolithic industries and paleoenvironmental change in Hokkaido (Japan). *Current Research in the Pleistocene*, (22) : 19-22.

高橋啓一・出穂雅実・添田雄二・張 鈞翔 (2005) 日本産マンモスゾウ化石の年代測定結果からわかったその生息年代といくつかの新知見. *化石研究会会誌*, (38) 2 : 116-125.

大島 浩・高橋啓一 (2005) 長野県上水内郡中条村から発見されたミエゾウ *Stegodon miensis* 頭蓋の形態学的研究. *化石研究会会誌*, (38) 2 : 90-97.

【専門分野の著作】

岡村喜明・高橋啓一・三枝春生 (2005) III. 足跡化石. *香住町足跡化石調査報告書* : 26-66.

【一般向けの著作】

高橋啓一 (訳) (2005) マンモスが地球を歩いていたとき. 新樹社, 東京 : 46p.

里口保文・高橋啓一・山川千代美・岡村喜明 (2005) 古琵琶湖層群下部の層序と足跡化石. *日本地質学会第112年学術大会見学旅行案内書* : 75-85.

高橋啓一 (2005) 移り変わる琵琶湖の生き物たち. *みんなの滋賀新聞* : 2005年6月9日.

高橋啓一 (2005) 太古の琵琶湖にはワニがいたって本当?. *京都新聞タブロイド版* : 2005年8月7日.

岡村喜明・高橋啓一 (2006) 足あと化石. *あど川ゾウの足あと化石調査資料集—今よみがえる100万年前のたかし—* : 5-20.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

高橋啓一（2005年6月4日）日本のマンモスゾウ研究のもつ意義，化石研究会第23回総会・学術大会シンポジウム化石研究会，京都教育大学，京都市，[口頭発表].

高橋啓一・里口保文・大橋正敏・北林栄一・大坪進吾（2005年6月4日）大分県安心院町から発見されミエゾウの頭骨化石，化石研究会第23回総会・学術大会，京都教育大学，京都市，[口頭発表].

Takahashi, K., Ferretti, M. P., Saegusa, H. and Shoshani, J. (2005年8月1日) Hyoid morphology in longirostrine and brevirostrine proboscideans : adaptive and phylogenetic aspect (poster), IX International Mammalogical Congress, 札幌コンベンションセンター，札幌市，[ポスター発表].

Takahashi, K., Inuzuka, Y., Kondo, Y. and Shoshani, J. (2005年8月1日) Notes on the systematics of Palaeoloxodon from Japan (poster), IX International Mammalogical Congress, 札幌コンベンションセンター，札幌市，[ポスター発表].

Shoshani, J., Ferretti, M. P., Lister, A. M., Saegusa H., Agenbroad, L. D., Mol, D. and Takahashi, K. (2005年8月1日) On the relationships within the Elephantinae using hyoid characteristics・2nd World of Elephants Congress Hotspring Museum South Dakota, USA, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類を展開の軸としたー環境史に関する研究」(研究代表者：中島経夫)，研究分担者 (1996～2006年度).

琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期の古地理・古生物復元」(研究代表者：高橋啓一)，(2004～2006年度).

琵琶湖博物館専門研究「大分県安心院から発見されたミエゾウ頭骨の形態復元」(2005年度).

科学研究費補助金基盤研究(C)「後期更新世における動植物相の変遷と旧石器文化の関係解明のための学際的研究」(研究代表者：高橋啓一)，(2005～2006年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本第四紀学会，編集委員，2001年9月～2005年8月.

日本第四紀学会，評議員，2005年8月～2007年7月.

日本第四紀学会，博物館連絡委員，2005年8月～2007年7月.

化石研究会，事務局長，2003年6月～.

東海大学博物館研究報告，「海・人・自然」，査読，1件.

日本第四紀学会，第四紀研究，査読，2件.

日本地質学会，巡検案内，1件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件.

はしかけ運営，ほねほねくらぶ，琵琶湖博物館，担当.

2005年7月24日，夏休み自由研究講座，講座，琵琶湖博物館，講師.

2005年10月2日，化石の観察会，観察会，甲賀市土山町，案内.

他の博物館・機関等主催行事

2005年7月10日、飯田市美術博物館特別展示「原人がいた頃のシカ」展、記念講演会、飯田市美術博物館（長野県飯田市）、講師。

2005年8月11日、体験学習、尼崎市中学校教育研究会理科部会、琵琶湖博物館、講師。

2005年12月8日、職場体験、新堂中学校2年生職場体験、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2005年6月26日、博物館活動の説明、京都大学大学院地球環境学舎環境マネジメント専攻修士課程学生。

2005年6月21日、展示案内、中国湖南省教育旅行視察団。

2005年8月9日、博物館活動の説明、根室市北方青少年少女派遣事業。

2005年12月13日、博物館活動の説明、湖南省洞庭湖博物館建設初期調査団。

メディアへの協力

2005年5月14日、北海道新聞、新たなマンモス化石探索、インタビュー、(2005年5月13日取材)。

2005年6月1日、読売新聞、太古の地球解く魅力知って、インタビュー、(2005年5月取材)。

2005年6月1日、京都新聞、マンモスの謎絵本で、インタビュー、(2005年5月取材)。

2005年6月27日、みんなの滋賀新聞、新刊紹介大人が読んで面白いマンモス通になれる絵本、インタビュー、(2005年6月取材)。

2005年7月13日、FM滋賀、Lake Side Mornig 77、平和堂 My Daily Life、マンモスが地球を歩いていたとき、出演。

2005年11月29日、京都新聞、淡海と人と「10年目の琵琶湖博物館・独創性」、インタビュー、(2005年10月取材)。

2005年11月30日、京都新聞、淡海と人と「10年目の琵琶湖博物館・環境・調査」インタビュー、(2005年10月取材)。

2006年1月5日、京都新聞、古代ゾウ進化の解明へ、インタビュー、(2005年12月取材)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー、講演、3回。

5月12日～9月10日、トピック展示「マンモスゾウ化石と世界のゾウ化石」、企画・展示。

【企画調整活動】

新任職員研修、説明、2005年4月12日、琵琶湖博物館。

【研究部関連事業】

研究計画の策定と調整・研究予算の編成と執行管理、環境史研究領域の研究推進、2005年度

琵琶湖の歴史環境を総合的に理解するために必要な各種情報を収集、分析することによって、世界史の中で琵琶湖を評価し、広い視野の中で「人と湖」の共存関係を考えるために調査研究を行いつつある。展示項目としては世界の水中考古学や世界の治水、利水の技術、漁具と漁法が関連している。

2005年度は、これまでに収集した基礎資料をもとに丸子船の形状の特殊性に関する研究を進め、いくつかの課題をとりまとめた論文を作成した。また、これらをベースにした今後の研究に備えて、特に走行性に関する研究計画をたてた。かつての琵琶湖の伝統的木造船については、これまで聞き取り調査や「滋賀県物産誌」の記述から全体の状況を概観し、琵琶湖の伝統船の地域性と多様性について明らかにしてきたが、その中でも湖東を中心とした湿地における田舟の機能と特徴について研究発表を行なった。これについては、引き続き研究を進めて行く予定である。さらに、琵琶湖における水運の研究の成果を参加にしながら、西アジアのキンネレット湖東岸のエン・ゲヴ遺跡の水運の特徴に関する研究を行ない、論文としてまとめた。この研究についても、さらに資料の精査を行ない、改訂版を近日中に執筆する予定である。

印刷物

【学術論文】

- 牧野久実 (2005) 丸子船の横断面に見られる和船の原型要素について. *史学*, 4 (73), 三田史学会, 東京: 109-129.
 牧野久実 (2005) 丸子船の舳先について. *史学*, 2・3 (73), 三田史学会, 東京: 34-49.
 牧野久実 (2005) ヌジ人名史料による家系図の作成について. *統計数理*, 2 (53), 統計数理研究所, 東京: 285-296.
 牧野久実 (2005) 古典時代のキンネレット湖における湖上輸送—琵琶湖研究の成果を参考に— . *史学*, 3 (74), 三田史学会, 東京: 217-247.

【一般向けの著作】

- 牧野久実 (2005) 琵琶湖の伝統的木造船の盛衰. *みんなの滋賀新聞*: 2005年6月23日.
 牧野久実 (2005) 琵琶湖各地の伝統的木造船の調査. *うみんど*, 34, 琵琶湖博物館: 7.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 牧野久実 (2005年5月20日) 丸子船の舳先の形状について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 [口頭発表].
 Ueda, S., Makino, K. and Itoh, Y. (2005年9月3日) Reconstruction of Family Tree in Ancient Population from the Nuzi Personal Names. The Japanese-German Joint Symposium on Classification, 日本分類学会、ドイツ分類学、日本統計学会、多摩大学ルネッサンスセンター, 東京都 [口頭発表].
 牧野久実 (2005年11月12日) ペルシャ—ヘレニズム時代のキンネレット湖の水運に関する一考察. 第3回イスラエル考古学研究会, イスラエル考古学研究会, 天理大学, 奈良県 [口頭発表].
 牧野久実 (2006年1月28-29日) 湿地における田舟の利用. 国際湿地シンポジウム, 滋賀県, 大津プリンスホテル, 滋賀県 [ポスター発表].

牧野久実（2006年1月28日）民俗学研究法. 連続講座, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館B展示室等, 12件.

2005年度, 丸子船探検隊, はしかけ, 琵琶湖博物館, 運営, 3件.

視察対応

2005年8月10日, 展示室案内, 韓国国立民俗博物館.

メディアへの協力

2005年, 読売新聞, 田舟の利用, インタビュー, (2005年12月5日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館学芸職員個人管理ページ, 運営・管理, 多数更新.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

船模型, 受け入れ, 2件.

船大工道具, 受け入れ, 1件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年, 展示活動全体, 管理運営

モーニングレクチャー, 講義, 3回.

【企画調整活動】

新任職員研修, 展示活動説明, 2005年4月14日.

博物館実習, 展示活動説明, 2005年8月1日.

【研究部関連事業】

インターネットページ, 改善.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2005年度, 高島市文化財保存活用委員会, 委員.

研究テーマは、「新生代の大型植物化石の研究」とし、植物化石の分類学的な視点で化石植物群の組成解析による古植生の復元、古植物相の変遷、古環境などを明らかにすることを目的としている。

今年度は、申請専門研究「古琵琶湖層群における植物相の変化と常緑広葉樹の衰退」を軸に、共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」に繋がる研究活動を行った。それ以外にも、滋賀県の地質に関連した新生代の植物化石を対象に、下記の課題に取り組み、次のような結果が得られた。

1. 畑層の大型植物化石

高島市畑に分布する古琵琶湖層群堅田累層に相当する地層（畑層）から、大型植物化石を採取し、古環境の推定を行った。畑層は、砂や泥の基質支持の礫層と泥層からなり、有機質な泥層部分に大型植物化石が含まれる。また、栗原II火山灰に相当する畑1火山灰層を挟在することから、年代は約70万年前と推定される。得られた大型植物化石は、落葉広葉樹ハンノキ、エゴノキ、ヤマグワ、モクレン、キイチゴ属、サワフタギ節が多く産出し、針葉樹は確認できなかった。また、日本から消滅するサイクロカリヤ属を含む。草本類では、スゲ属、タデ属、ヒメジソが多産するほか、ヒシヤコウホネ、ヒルムシロ属など水生植物が含まれている。このことから、畑層の堆積期には、水深数mのある沼のような止水域が存在し、水生植物や湿地性植物が生育していたと考えられる。畑層の大型植物化石群集は、局地的な植物相を反映していると思われる。なお、この研究は、千葉大学理学部地球科学科の学部生の卒論テーマの1つとして、共同研究を行ったものである。

2. 安曇川の足跡化石調査に伴う大型植物化石

高島市教育委員会と共同で、安曇川町長尾地先の安曇川河床に露出した足跡化石調査を行った。当時の環境を推定するために、足跡化石周辺に分布する立木化石をはじめ植物化石（大型植物化石・花粉化石）の調査も行った。立木化石は調査範囲内で6本確認でき、足跡化石の包含層である有機質泥層に含まれ、広葉樹で構成されていた。また、有機質泥層からコナラ亜属、ハンノキが多産し、ジャケツイバラの豆果が確認できた。砂層からはエゴノキが多く産出した。足跡が形成された当時は、河川の周囲にある湿地に落葉広葉樹主体の植生が存在し、温暖な気候に分布するジャケツイバラの存在から、間氷期だった可能性が高い。なお、この成果は「あど川ゾウの足あと化石調査報告会」で発表し、その資料集に掲載した。

3. 伊吹山麓の堆積物からみた古環境復元

昨年度で終了した総合研究のまとめとして、失われゆく地層情報の保存の観点から、現在露頭が消滅している伊吹山麓の堆積層に焦点をあて、2001年から地質、大型植物化石、花粉化石、昆虫化石の調査を行った結果を論文にまとめた（投稿中）。伊吹山麓の堆積物は、広域火山灰の阿蘇1火山灰直上にあたる火山灰2枚を含む約27万年前の地層であることが明らかになった。その地層に含まれる化石を基に、当時はコメツガ、チョウセンゴヨウ、ダケカンバなど亜高山に生育する常緑針葉樹・落葉広葉樹が優占する植生で温帯上部～亜寒帯気候であったと考えられる。これらの化石群集は、酸素同位体比曲線のステージ8.2に相当する氷河期から間氷期への移行期の環境を示すもので、日本では中期更新世後半の寒冷な環境を示す重要な記録となる。

印刷物

【学術論文】

里口保文・山川千代美 (2006) 伊吹山麓の米原市寺林地域に分布する礫質堆積層の年代. *第四紀研究*, 45 (1), 日本第四紀学会: 29-39.

【一般向けの著作】

- 山川千代美 (2005) 「琵琶湖生き物たんけん」 太古の琵琶湖にどんな生き物がいたのかは、どうやって調べるの？.
京都新聞タブロイド版: 2005年8月7日.
- 山川千代美 (2006) 植物化石. あど川ゾウの足あと化石調査資料集—今, よみがえる100万年前のたかしま, 高島市教育委員会: 23-24.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 山川千代美 (2005年10月21日) 古琵琶湖層群における後期鮮新世の化石林について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 山川千代美 (2006年12月11日) 生態, 古生態と環境変動. 第20回日本植生史学会, 日本植生史学会, 京都府立大学, 京都市, [座長].
- Yamakawa, C. (2006年1月28-29日) Reconstruction of the Plio-Pleistocene wetland vegetation around Lake Biwa and the correlation with the climate fluctuation. 国際湿地再生シンポジウム2006, 国際湿地再生シンポジウム2006実行委員会, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].
- 山川千代美 (2006年2月5日) 伊吹山南麓に分布する中部更新統の大型植物化石. 第17回地学研究発表会, 地学研究発表会, 滋賀大学大津サテライトプラザ, 滋賀県, [発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」(研究代表者: 里口保文), 研究副代表 (2005-2006年度).
琵琶湖博物館申請専門研究「古琵琶湖層群の植物相の変化と常緑広葉樹の衰退」, (2005-2006年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2005年4月-2006年2月, 千葉大学生卒論指導, 古琵琶湖層群の植物相の変遷.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館A展示室, 11件.
2005年9月11日・2006年2月5日, 地学研究発表会, 研究交流, 琵琶湖博物館・滋賀大学サテライトプラザ, 担当, 2件, (滋賀大学中野聡志氏共同).
2005年10月2日, 化石観察会, 観察会, 甲賀市土山町, 担当.

他の博物館・機関等主催行事

- 2005年10月8-10日, あど川ゾウの足あと化石調査, 高島市教育委員会, 安曇川町長尾安曇川河床 (滋賀県), 調査協力.
2006年3月4日, 植物化石から当時の様子を調べる, 高島市教育委員会, あど川ゾウの足あと化石調査成果報告会, 安曇川町藤樹の里ふれあいセンター (滋賀県), 発表.

視察対応

2005年10月，収蔵庫見学，帝京平成大学博物館学担当教授，琵琶湖博物館。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

寄贈図書資料（根来健一郎・石原丈実），受入担当，2件。

年報（収蔵資料），とりまとめ執筆。

IPM 関連整備，担当。

化石標本整備，購入担当，1件。

植物化石標本整備，同定。

化石標本同定依頼，依頼担当，2件。

地学標本特別観覧，受入担当，3件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう（メタセコイアについて），指導。

モーニングレクチャー，講演，2回。

大学院の史料講読演習から始まり、1995年からは研究会を組織して取り組んできた中世裁許状の研究が、ようやくまとまろうとしている。筆者も、「鎌倉幕府裁許状の歴史的位置－対問・勘判を引用する裁許状の広がり－に注目して－」、「東寺の裁許と裁許状－権門における鎌倉幕府裁許状の構成の受容－」の2論文を投稿し、「裁判の研究史－鎌倉幕府裁判－」をほぼ完成させた。

申請専門研究「日本中世における人工水系の展開とその歴史的意義－堀を中心に－」については、環境史研究の研究史整理を行った。その結果については、不十分ではあるが、「環境史をめぐる日本の歴史学の動向とその課題」と題して環境史研究会で報告させていただいた。課題は多く残されているが、今後とも引き続き環境史をどう構築していけばいいのかについて考えていきたい。

総合研究「東アジアの中の琵琶湖－コイ科魚類を展開の軸とした－環境史に関する研究」については、これまで取り組んできた十五世紀山科家関係の魚類消費史料の分析をまとめ、「魚は銭になった－十五世紀におけるコイ科魚類の消費実態－」として琵琶湖博物館研究セミナーおよび琵琶湖博物館研究発表会で発表した。今後、研究調査報告書および出版物への論文掲載に向けて努力していきたい。

すでに終了した総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」の成果をまとめた研究調査報告書の原稿として、「資料情報のネットワーク化について－歴史資料を素材として－」を執筆した。引き続き共同研究者との協議が必要であるが、来年度には刊行される予定である。

琵琶湖のエコトーンとの比較研究の一環として行っている備前国豊原庄の研究については、記録資料から現時点で解明できることを「王家領備前国豊原庄の基礎的研究」としてまとめた。今後考古資料なども併せて地域研究を深めていきたい。

最後に、来年度は琵琶湖博物館開設10年を迎える。大学・大学院・博物館開設準備室時代の成果と併せてこれまでの成果をまとめる作業を行いたいと考えている。

印刷物

【専門分野の著作】

橋本道範 (2006) 王家領備前国豊原庄の基礎的研究. *吉備地方文化研究*, 16, 就実大学吉備地方文化研究所: 17-48.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

橋本道範 (2005年6月18日) 荘園の中の庄・郷・保－王家領備前国豊原庄－. 就実大学吉備地方文化研究所歴史シンポジウム「荘園の風景－備作三国の事例から－」, 就実大学吉備地方文化研究所, 就実大学吉備地方文化研究所, 岡山県 [講演・シンポジウムパネラー].

橋本道範 (2005年7月24日) 環境史をめぐる日本の歴史学の動向とその課題. 第9回環境史研究会, 環境史研究会, 京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究科, 京都府 [口頭発表].

橋本道範 (2005年11月18日) 魚は銭になった－十五世紀におけるコイ科魚類の消費実態－. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 [口頭発表].

橋本道範 (2005年11月20日) 魚は銭になった－十五世紀におけるコイ科魚類の消費実態－. 琵琶湖博物館研究発表

表会，琵琶湖博物館 [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類を展開の軸としたー環境史に関する研究」(研究代表者：中島経夫)，共同研究者 (1996～2006 年度).

琵琶湖博物館申請専門研究「日本中世における人工水系の展開とその歴史的意義ー堀を中心にー」(2005 年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2006 年 1 月 23 日，滋賀県立大学大学院講義，生物多様性論・生物多様性論の講義になぜ歴史学者が登壇するのかー「生物の多様性論」における「伝統的知恵」ー.

2006 年 1 月 30 日，滋賀県立大学大学院講義，生物多様性論・「伝統的知恵」成立の実態ー琵琶湖のエリ漁を素材としてー.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，4 件.

2006 年 8 月 13・27 日，紙すきをしよう，体験学習，琵琶湖博物館，講師，2 件.

他の博物館・機関等主催行事

2005 年 9 月 20 日，中世甲良の歴史解明に向けてー文献史学の限界を越えてー，甲良町教育委員会，甲良町公民館 歴史講座，甲良町公民館 (滋賀県)，講演.

2006 年 3 月 11 日，野洲郡の庄・郷と村ー兵主郷を中心にー，野洲市教育委員会，第 2 回市史・郷土史学習会，野洲市歴史民俗博物館 (滋賀県)，講演.

メディアへの協力

2005 年 7 月 30 日，京都新聞社，トピック展示「紙の王様 雁皮紙」の紹介，(2005 年 7 月 21 日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫担当者会議，運営担当，3 件.

歴史資料修理保存処理委託，指導，東寺文書 30 点.

歴史資料撮影委託，指導，4 件 (15 点).

歴史資料購入，実施，2 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005 年 3 月 23 日～4 月 17 日，トピック展示「日吉山王祭礼図」，企画・調整・展示.

2005 年 7 月 20 日～9 月 25 日，トピック展示「紙の王様 雁皮紙」，企画・調整・展示.

2005 年 12 月 23 日～2006 年 2 月 26 日，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」，歴史資料展示・返却.
モーニングレクチャー，講演，3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004年11月～、瀬戸内市、邑久町史編集委員会、専門委員（中世史部会）。

主として、古琵琶湖層群とその同時代の地層（鮮新—更新統）にある火山灰層をもとに、広範囲で詳細な地層層序をあり、時空間的な地層形成環境の変化や、日本の鮮新—更新世の爆発的火山噴火活動史を明らかにすることを目的としている。

今年度から、共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」を3年計画で外部研究者との共同で始めた。この研究は、琵琶湖400万年の歴史の中で大きな変化がおきたいくつかの時期のうち、もっとも重要な時期の一つである出現期について、周辺地域に分布している同時代の地層（東海層群）とあわせて対象とすることで、当時の古環境や、古琵琶湖が出現した特殊性を理解しようとするものである。今年度はその1年目として、従来の層序の見直しを行い、東海層群の火山灰層との対比から、従来言われている400万年という年代よりももう少し古くなる可能性があることを検討した。その結果は学会大会にて発表し、調査地域を研究者と一緒に回りながら議論を行う巡検を企画し、巡検案内書を執筆した。

また、地層情報を博物館としてどのように残すことが可能か？についての研究を行っていた、総合研究「博物館資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」の最終的なまとめを共同研究者とともに執筆し、来年度出版を計画している。また、その一部研究として行っていた伊吹山山麓の堆積物の研究結果を学会誌に投稿し掲載された。

以上のような研究成果とこれまでの研究、これから行おうとする研究や、研究を元にした交流活動をはじめとする博物館活動の発信を、琵琶湖博物館インターネットページの個人管理ページで行っている。また、このページをみて直接地学の質問をしてくる利用者に対して回答をしたり、地域の情報を寄せてもらうなど、同時に交流も行っている。

また、滋賀県に関する地学関係者による情報交換や交流、研究の活発化などを目的として、琵琶湖博物館地学関係学芸員と共に事務局をもち、研究会を開いている。その第16回、第17回を行い、ニュースレターの発行も行った。この研究会の活動については、前述の個人管理ページにおいて研究会のページを作成して紹介している。

印刷物

【学術論文】

里口保文・山川千代美（2006）伊吹山山麓の米原市寺林地域に分布する礫質堆積層の年代. *第四紀研究*, 45 (1), 日本第四紀学会 : 29-39.

【専門分野の著作】

里口保文・高橋啓一・山川千代美・岡村喜明（2005）古琵琶湖層群下部の層序と足跡化石. *日本地質学会第112年学術大会（2005年京都）見学旅行案内書*, 日本地質学会 : 75-85.

里口保文（2006）房総半島を年代軸とした鮮新統—下部更新統の広域火山灰層序. *月刊地球*, 28 (1), 海洋出版株式会社 : 49-55.

【一般向けの著作】

里口保文（2005）移り変わる琵琶湖 地層の研究から見えるもの. *みんなの滋賀新聞* : 2005年5月26日.

里口保文（2006）工事現場は古環境情報の宝庫. *うみんど*, 37, 琵琶湖博物館, 草津 : 7.

里口保文（2006）調査地の地層. *あど川ゾウの足あと化石調査資料集—今、よみがえる100万年前のたかしま—*, 高島市教育委員会, 高島 : 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 高橋啓一・里口保文・北林栄一・大坪進吾（2005年6月4日）大分県安心院町から発見されたミエゾウの頭骨化石。化石研究会，化石研究会，京都教育大学，京都府 [口頭発表].
- 里口保文（2005年6月17日）古琵琶湖層群上部と上総層群上部の火山灰層対比。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館 [口頭発表].
- 里口保文（2005年8月26日）古琵琶湖層群の上仰木 II 火山灰層と上総層群の Ks10 火山灰層の対比，2005年日本第四紀学会大会，日本第四紀学会，島根大学，島根県 [ポスター発表].
- 里口保文（2005年9月18日）シンポジウム「社会に広がる地質学へ：地質学の普及と学会の社会的貢献」。日本地質学会第112年学術大会，日本地質学会，京都大学，京都府 [企画・座長].
- 里口保文（2005年9月19日）古琵琶湖層群最下部層序の再検討。日本地質学会第112年学術大会，日本地質学会，京都大学，京都府 [ポスター発表].
- 長橋良隆・小林聡子・奥平敬元・吉川周作・吉田武義・里口保文（2005年9月19日）近畿地方の第四紀テフラ層序に基づく大規模爆発的噴火の頻度。日本地質学会第112年学術大会，日本地質学会，京都大学，京都府 [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖出現期の古環境解析」，研究代表者（2005年4月～2008年3月）。
- 琵琶湖博物館共同研究「古琵琶湖誕生期の古地理・古生物復元」（研究代表者：高橋啓一），副代表者（2004年4月～2007年3月）。
- 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖ーコイ科魚類の展開を軸としたー環境史に関する研究」（研究代表者：中島経夫），研究分担者（1996年4月～2007年3月）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本地質学会，生涯学習委員会委員，2005年度。
- 日本第四紀学会，テフラ委員会委員，2005年度。
- 地学団体研究会，地球科学，査読，1件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 A 展示室，11件。

他の博物館・機関等主催行事

- 2005年9月22日，古琵琶湖層群に関する研究の最前線，滋賀県総合教育センター，SPP 連携教員研修 琵琶湖周辺の地形・地質・地史と地震防災，琵琶湖博物館，講師。
- 2005年10月4日，滋賀と地球の地学，平野小学校，実習，琵琶湖博物館，講師。
- 2005年10月11日，琵琶湖の歴史を学ぶ，真野公民館，高齢者学級講座，真野公民館（滋賀県大津市），講師。
- 2005年10月18日，琵琶湖のおいたちと400万年の環境変化，京都府私立中学高等学校保護者会連合会，実地研修

会，琵琶湖博物館，講師。

2005年10月25日，自然環境と大地，滋賀県総合教育センター，5年経験者研修，琵琶湖博物館，講師。

2005年11月15日，琵琶湖の自然史，近江八幡市金田小学校，琵琶湖博物館，講師。

2005年11月17日，火山灰実習，米原高等学校，講師。

2005年11月22日，自然環境と大地，滋賀県総合教育センター，5年経験者研修，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2005年6月18日，琵琶湖博物館活動紹介，京都教育大学学部学生，琵琶湖博物館。

2006年2月22日，琵琶湖博物館活動紹介，比治山大学学生，琵琶湖博物館。

メディアへの協力

2005年4月19日，NHK 大津，琵琶湖クローズアップ，出演，（2005年4月19日取材）。

2005年5月13日，京都新聞，トピック展示の説明，（2005年4月12日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

琵琶湖博物館学芸職員個人管理ページ，管理・運営，多数更新。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

ディスカバリーボックスの制作，内容検討助言など。

モーニングレクチャー，講演，3回。

展示交流員と話そう（鉱物は語る・岩石は語る），指導，1件。

【企画調整活動】

研究部連絡調整，担当者，2005年度。

新任職員等研修，担当者，2005年度。

業績目録出版，担当者，2005年度。

博物館実習，担当者，2005年度。

出版物管理，担当者，2005年度。

アンケート調査，担当者，2005年度。

【研究部関連事業】

研究セミナー，担当者，12件，2005年度，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2004年5月10日，大津市科学館，運営協議会，委員。

堆積物試料中の花粉化石群集の組成変化や、遺跡を対象とした環境考古学的手法をもちいて最終氷期以降の自然環境の変遷と人間活動との関係性を検討している。最近では環境考古学はもとより、フィールド科学の立場から環境研究について模索している。

琵琶湖博物館総合研究「東アジア」では、琵琶湖沿岸地域でのボーリング・コア堆積物の記載等をおこない、研究発表を行った。この研究は2003年から研究分担者として参加している科研費・基盤C「完新世における琵琶湖の水位変動過程の復元」(研究代表者：小松原 琢)と同時進行で行っている。

専門研究では、近江盆地や山城盆地において継続してきた先史時代以降の地形環境変遷の成果を各種遺跡報告書で公表した。引き続き各地の遺跡立地にかかわる調査などを継続している。本年度は、昨年度からの守山市、浮気南遺跡等の調査を中心に参加した。この研究テーマでは、科研費・若手研究B「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」(研究代表者・宮本真二)が配分されることになり、国内はもとより、台湾やインドでの予備調査をおこなった。

その他に、外部研究プロジェクトでは、科研費・基盤研究A「南部アフリカにおける「自然環境-人間活動」の歴史の変遷と現問題の解明」(研究代表者・水野一晴)に加わり、ナミビアなどで予備調査をおこなった。さらに、滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト研究(2005-2006年度)「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモングの変容に関する学際的研究」(研究代表者；滋賀大学教育学部・助教授：佐野静代)(研究分担者)や、2005年度総合地球環境学研究所共同研究「東アジアの新石器と現代化：大河水系の環境利用史」(研究代表者；総合地球環境学研究所・助教授：内山純蔵)(共同研究員)に加わり、プロジェクトを開始している。

また昨年度に申請していた学位論文「Vegetational Changes since the Last Glacial from the Pollen Influx in Hokuriku District, Central Japan (花粉流入量からみた北陸地域における最終氷期以降の植生変遷)」によって、東京都立大学より、博士(理学)の学位を得た。

これらの研究はA領域(環境史研究領域)を対象とするものであるが、環境考古学さらには環境史といった領域群は、既存学問分野においては境界領域に位置していることから、今後も、自然科学的方法論を手段としながらも、人文・社会科学の諸分野との「つながり」のなかから、「人と自然との関係性の歴史的検討」という主題の模索を行ってゆきたい。

印刷物

【専門分野の著作】

宮本真二・小松原 琢・河角龍典・森山宗保・原澤亮太・大塚夏子(2005)野洲川下流域平野、古高・経田遺跡における堆積物の層相と年代-生産遺構の成立基盤としての地形環境変遷-。古高・経田遺跡発掘調査概要報告書、守山市教育委員会：40-44。

【一般向けの著作】

宮本真二(2005)「関係性」を探る博物館。みんなの滋賀新聞：2005年5月17日。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 宮本真二（2005年7月20日）Vegetational Changes since the Last Glacial from the Pollen Influx in Hokuriku District, Central Japan. 東京都立大学大学院理学研究科地理科学専攻博士学位論文公聴会, 東京都立大学大学院理学研究科, 東京都立大学, 東京都, [口頭発表].
- 宮本真二（2005年9月17日）花粉流入量からみた北陸地域における最終氷期以降の植生変遷. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 宮本真二・中島経夫（2005年10月2日）縄文時代の日本列島における主要淡水魚の分布変化と人為との関係性. 第9回動物考古学研究集会, 動物考古学研究会, だて歴史の杜カルチャーセンター, 伊達市, [口頭発表].
- 宮本真二（2005年10月14日）水辺エコトーン of 自然環境変遷と人間活動. 第2回水辺エコトーン研究会, 水辺エコトーン研究会, 滋賀大学大津サテライトキャンパス, 滋賀県, [口頭発表].
- 小松原 琢・宮本真二・河角龍典・濱 修（2006年3月27-29日）琵琶湖周辺の内湖堆積物の層相と年代. 日本地理学会2006年度春季学術大会, 日本地理学会, 埼玉大学, 埼玉県, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖—コイ科魚類を展開の軸とした—環境史に関する研究」(研究代表者: 中島経夫), 研究分担者 (1996-2006年度).
- 琵琶湖博物館専門研究「野洲川流域平野における遺跡立地の環境考古学的研究」, (2004-2005年度).
- 文部科学省科学研究費補助金(若手研究B)(基盤C)「自然環境の変遷と人間活動の対応関係の解明」(研究代表者: 宮本真二), 研究代表者 (2005-2007年度).
- 文部科学省科学研究費補助金(基盤A)(基盤C)「南部アフリカにおける『自然環境—人間活動』の歴史の変遷と現問題の解明」(研究代表者: 水野一晴), 研究分担者 (2005-2008年度).
- 文部科学省科学研究費補助金(基盤C)「完新世における琵琶湖の水位変動過程の復元」(研究代表者: 小松原 琢), 研究分担者 (2003-2005年度).
- 滋賀大学環境総合研究センタープロジェクト研究「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモンスの変容に関する学際的研究」(研究代表者: 佐野静代), 研究分担者 (2005-2006年度).
- 総合地球環境学研究所共同研究「東アジアの新石器と現代化: 大河水系の環境利用史」(研究代表者: 内山純蔵), 共同研究員 (2005-2011年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 東京地学協会, 地学雑誌, 査読, 1件.
- 歴史地理学会大会実行委員会, 実行委員, 2005年-.
- 環境史研究会企画・運営, 2003年-.
- 高月町町誌史編纂委員会, 編纂委員, 2001年1月-.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2005年8月1・2・3日, 大阪明浄大学学部学生, 地理学II(自然).
- 2006年1月17日, 龍谷大学学部学生, 文化財実習.

【受賞など】

- 東京都立大学博士(理学)学位論文(論文博士), Vegetational Changes since the Last Glacial from the Pollen Influx in Hokuriku District, Central Japan. 2006年9月17日.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。

他の博物館・機関等主催行事

2005年5月15日，遺跡にみる自然環境の変遷と人間活動の対応関係の検討，京都大学自然地理研究会，第28回京都大学自然地理研究会，守山市浮気町・下之郷町（滋賀県），案内者。

メディアへの協力

2005年4月13日，あいあいAI 滋賀，湖国にとけこむ，掲載項目取材，（2005年4月5日取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

基幹機器の整備および維持管理，主担当。

情報利用室の運営に関わること，主担当。

来館者対応の情報機器に係わる将来計画に関わること，主担当。

メディアラボの運営に関わること，副担当。

端末機器の整備維持管理および利用方法の指導に関わること，副担当。

データ・ベースソフトウェアの管理に関わること，主担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

英文公開用データベースシステム開発，主担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年度，2007年度企画展示「東アジア」，副担当。

モーニングレクチャー，講演，3回。

【研究部関連事業】

研究助成に関わること，主担当。

電子顕微鏡の維持管理，主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2005年8月3日～8月17日，インド，現地調査・資料収集。

2005年9月3日～9月14日，台湾，現地調査・資料収集。

2005年11月19日～12月21日，レソト，ナミビア，イギリス，現地調査・資料収集。

水生双翅類昆虫の水辺環境への適応がどのように進化し、地理的に広がっていったのかについて、時間軸が導入できる分子系統学的手法と伝統的な比較形態学的手法を用いて解析し、その系統進化過程を解明することを目標として研究を行っている。この系統発生像に生物地理学的観点をも含めて考察し、東アジアの中での琵琶湖の成立過程や固有性を明らかにしようと考えている。

海浜性のアシナガバエは島ごとに種分化している種がみられ、それらのDNA解析をして進化速度を計算し、島の成立年代と摺り合わせて、これらの分岐年代の推定を行う。そこで得られた分子時計を用いて、直接地史が推定できない場所に分布している淡水性のアシナガバエの分岐年代の推定することを考えている。

本年度の学術論文の発表は英文・共著で6本行い、日本、台湾、中国、タイ、ボルネオの双翅目アシナガバエ科昆虫について未記載種を記載した。

琵琶湖博物館の共同研究「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化的研究」において研究代表者として、2005年8月18日から9月2日の間、中国広東省へ渡航し調査を行った。中国大陸固有種の数種が採集された。この他、多数の水生双翅類標本が収集され、現在、標本作製やDNAの解析を行っている。本研究成果の一部を、2005年10月17日から22日に韓国済州島で開催された第5回アジア太平洋昆虫会議 (Fifth Asia-Pacific Congress of Entomology) に参加し、口頭発表し国際的に成果を発信した。本大会では、共同研究者の一人である韓国延世大学のHan教授とともに、シンポジウム「New tools in Taxonomy」を共同で企画し、運営を行った。また、世界の分類学におけるDNAを用いた研究の動向や最新情報に触れ、海外の研究者と情報交換を行った。

印刷物

【学術論文】

- Masunaga, K., D. Yang and Saigusa, T. (2005) Taxonomy of the genus *Acymatopus* Takagi (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological Science*, 8 (3) : 301-311.
- Masunaga, K., Saigusa, T. and Grootaert, P. (2005) Revision of the genus *Thambemyia* Oldroyd (Diptera: Dolichopodidae) with description of a new subgenus. *Entomological Science*, 8 (4) : 439-455.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) A new *Diostracus* species from Sichuan China (Diptera: Dolichopodidae). *Aquatic Insects*, 27 (1) : 57-62.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) Notes on species of *Tachytrechus* from China (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 130 (4) : 449-503.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) Notes on species of *Paraclius* from Continental China (Diptera: Dolichopodidae). *Transactions of the American Entomological Society*, 130 (4) : 493-497.
- Zhu, Y., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) A review of the species of *Thambemyia* Oldroyd (Diptera: Dolichopodidae) from China. *Aquatic Insects*, 27 (4) : 299-307.
- Masunaga, K. and Saigusa, T. (2005) East Asian phylogeography of *Diostracus* (Diptera: Dolichopodidae) a torrenticolous genus of long-legged flies. *Proceedings Fifth Asia-Pacific Congress of Entomology*, Fifth Asia-Pacific Congress of Entomology : 14.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

Masunaga, K. and Saigusa, T. (2005年10月18日) East Asian phylogeography of *Diostracus* (Diptera: Dolichopodidae) a torrenticolous genus of long-legged flies. Fifth Asia-Pacific Congress of Entomology. Korean Society of Applied Entomology & Korean Society of Sericultural Science Ramada Plaza Jeju Hotel, Korea, [シンポジウムオーガナイザー、口頭発表].

梶永一宏 (2005年9月17日) 東アジアにおける溪流性アシナガバエの系統生物地理. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化的研究」(研究代表者: 梶永一宏), 研究代表者 (2002-2006年度).

琵琶湖博物館専門研究「双翅目アシナガバエ科昆虫の系統分類と生物地理」(2005年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 講師, 12件.

2005年7月23日, 虫から見た里山, 里山体験教室 II (夏編), 滋賀県日野町, 講師, (八尋克郎と共同).

2005年7月24日, 自由研究講座, 夏休み相談室, 琵琶湖博物館, 講師, (八尋克郎と共同).

2005年8月6日, 生き物飼いか講座, 昆虫相談, 琵琶湖博物館, 講師.

2006年3月25日, 琵琶湖地域の昆虫調査法, 琵琶湖地域をみんなで調べる実践講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2006年3月26日, 川虫探検, 観察会, 滋賀県大津市, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月24日, 水生昆虫観察会, 豊稜の郷, 水生生物調査の研修会, (滋賀県守山市), 講師.

2005年5月14日, 水生昆虫観察会, ホタルの学校, 千丈川を歩いて発見, (滋賀県大津市), 講師.

2005年6月18日, 水生昆虫観察会, 志賀町子ども週末活動支援ネットワーク, ルンルンさがしてみよう! わにのむしのたち, (滋賀県志賀町), 講師.

2005年9月10日, 水生昆虫観察会, ホタルの学校, 千丈川のいきものしらべ, (滋賀県大津市), 講師.

2005年11月5日, 水生昆虫探検観察, コープ滋賀自然観察シリーズ, 第2弾川探検, (滋賀県大津市), 講師.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫液浸標本データベース構築, 5000件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

日本、中国、韓国産の昆虫の収集・整理 (液浸乾燥とも), 一式.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回.

2005年度，企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫にふしぎ発見ー」，副担当.

2005年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」ライトトラップ，展示更新と維持管理.

2005年度，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」顕微鏡で虫を観る，展示更新と維持管理.

2005年度，研究最前線，3回.

【企画調整活動】

新任職員研修，講演，2005年4月19日，常設展示C展示室「川の生き物を調べる」.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2005年8月18日～9月2日，中国広東省，琵琶湖博物館共同研究の「東アジアにおける第三紀起源昆虫の分子進化学的研究」の調査.

2005年10月15～22日，韓国濟州島，第5回アジア太平洋昆虫会議への参加、発表.

【館外の活動】

2004年4月～2006年3月，滋賀県生きもの総合調査昆虫類部会，専門委員.

専門研究では、現在、北米産外来種2種が席卷している内湖においてそれらの在来種への影響を明らかにするため、これら2種の生息実態や食性調査を行った。また、琵琶湖産ナマズの繁殖生態についての論文を海外雑誌に投稿中である。

共同研究では昨年(2004年)に引き続いて「内湖-水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究」のフィールド調査を高島市内の内湖を対象として実施した。昨年度の研究では、(1)内湖では外来種2種(特にブルーギル、オオクチバス)が優先していること、また(2)内湖において在来種数種、特にフナ類が産卵し、多数の仔魚が生まれてはいるものの、その殆どが途中から姿を消していることを明らかにした。在来種仔稚魚が姿を消すのは、彼らが遊泳力をつける前に外来種に捕食されている可能性が高い。そこで、2005年度はこれを受け、外来種の在来魚の捕食圧を弱めるための一手法として、水田で一定サイズに育成し、遊泳力のついたニゴロブナ幼魚約8000余個体を内湖へ標識放流し、琵琶湖への流下個体数を調べた。その結果、たくさんのニゴロブナ幼魚が琵琶湖へ下ることが確認された。すなわち、フナ類やコイを水田へ遡上させ、産卵させることが在来種を復活させる有効な手段のひとつであることが確認された。

専門研究、共同研究の成果の情報発信、地域交流の一環として、研究成果の一部を調査地である高島市マキノ町の草の根ハウスにおいて地元の方々に紹介した。また、関西地区の研究者の交流の場である魚類自然史研究会、あるいは2005年度に大津市で開催された国際湿地再生シンポジウムにおいて発表した。また、さまざまな団体への講演会を通じて、水辺環境の由々しき実態と外来種(魚類)の生態系への悪影響等を解説した。

印刷物

【専門分野の著述】

前畑政善(2005) *琵琶湖、淡水魚類の重要生息地に関する調査報告書*. 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合(有限責任中間法人)水生生物保全研究会, 東京: 97-99.

【一般向けの著述】

前畑政善(2005) 博物館の研究と地域とのかかわり. *うみんど*, 36, 琵琶湖博物館: 7.

前畑政善(2005) ナマズ. *育てて調べる日本の生き物図鑑12*, 集英社, 東京: 40.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

阿部 司・小林一郎・近 雅博・前畑政善(2005年10月29日) アユモドキの卵発生と孵化仔魚の付着行動. 第41回魚類自然史研究会, 世界淡水魚園, 岐阜県, [口頭発表].

前畑政善(2005年11月18日) 水族館・博物館における系統保存. 水生生物保全シンポジウム, 水生生物保全研究会, 大垣市情報工房, 岐阜県, [口頭発表].

前畑政善(2005年12月5日) 水族館における希少淡水魚の保存. 東京大学海洋研究所共同利用シンポジウム「水生生物研究機関としての水族館、その研究資源活用の可能性」, 東京大学海洋研究所, 東京都, [口頭発表].

金尾滋史・前畑政善・澤田裕一(2006年2月4-5日) 琵琶湖周辺における水田利用魚類の生態とその保全. 国際

湿地シンポジウム 2006, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [口頭発表].

前畑政善・金尾滋史 (2006 年 2 月 4-5 日) 琵琶湖魚類の“ゆりかご”としての水田の機能. 国際湿地シンポジウム 2006, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [口頭発表].

前畑政善・金尾滋史・鷹見航多・鈴木規慈 (2006 年 3 月 4 日) 内湖 (西内沼) の魚類調査—水田育成魚の放流効果—. 田んぼ水辺研究会, 滋賀県高島市, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「水田利用魚類の生態と外来種の関連」(2005 年度).

琵琶湖博物館共同研究「内湖—水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究」(研究代表者:前畑政善), (2003 年—2008 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本魚類学会, Ichthyological Research, 投稿論文査読, 1 件.

日本魚類学会, 自然保護委員会委員, 2001 年 6 月—.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005 年 10 月 3 日—11 月 8 日, 滋賀県立大学院生, 生物多様性論.

2005 年 4 月 1 日—2006 年 3 月 31 日, 金尾滋史 (滋賀県立大学大学院博士過程 3 回生), 学位論文研究指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2005 年 7 月 30 日, 川の生き物を調べてみよう, 多賀町立博物館・多賀の自然と文化の館 (多賀町), 講師.

2005 年 8 月 1 日, 先生のための川の生き物調査, 琵琶湖博物館講座, 天神川, 滋賀県大津市, 講師.

2005 年 8 月 6 日, 生き物の飼い方講座「ザリガニの飼い方」, 教員 (幼稚園、保育園、小学校) 研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 8 月 29 日, 水族バックヤード探検ツアー, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 3 月 6 日, 水族展示の舞台裏, 琵琶湖博物館, 講師, (孝橋賢一・秋山廣光・松田征也・桑原雅之と共同).

他の博物館・機関等主催行事

2005 年 4 月 17 日, ナマズはなぜ田んぼにのぼるのか?, ぼてじゃこトラスト, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 6 月 10 日, 野外学習 西内沼の生き物, マキノ東小学校 3 年生, 内湖周辺 (高島市), 講師.

2005 年 6 月 19 日, 野外学習 田んぼ魚について, マキノ夢の森づくり委員会, 内湖周辺 (高島市), 講師.

2005 年 7 月 7 日, びわ湖の魚と水辺エコトーン, 淡海生涯カレッジ (長等公民館), 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 7 月 20 日, 水田環境と琵琶湖の魚, 空の会, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 7 月 22 日, 滋賀の魚—魚から琵琶湖の環境を考える—, 石部高校「琵琶湖探求」, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 7 月 27 日, 西内沼の魚—2004 年の調査から—, 夏期教員研修「総合的な学習・理科の指導に関する研修会」, 高島市立マキノ東小学校 (高島市), 講師.

2005 年 7 月 30 日, 湖国びわ湖の魚たち, 夏期講座, 多賀の自然と文化の館 (多賀町), 講師.

2005 年 8 月 2 日, 魚から見た琵琶湖の環境, 中部電力, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 8 月 5 日, 奥田沼の魚について, 「てんきクラブ」(草津市) 野外活動, 奥田沼周辺 (高島市), 講師.

2005 年 9 月 5・6・8 日, 淡水魚入門講座 I, NPO 法人シニア自然大学, シニア自然大学, 大阪 NPO プラザ (大阪

市), 講師, 3 件.

2005 年 9 月 12・13・15 日, 淡水魚入門講座 野外実習 I, NPO 法人シニア自然大学, シニア自然大学, 大戸川 (大津市), 講師, 3 件

2005 年 10 月 18 日, 琵琶湖の魚の現状から環境を考える, 札幌市立旭丘高等学校体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 12 月 9 日, 琵琶湖の魚から環境を考える, 熊本県立熊本高等学校, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 3 月 4 日, マキノ町の内湖における魚類調査結果, 海津地区研究報告会, 海津草の根ハウス (高島市), 講師.

視察対応

2005 年 4 月 21 日, アユモドキの増殖について説明, 岡山淡水魚研究会.

2005 年 5 月 14 日, 概要説明と館内ガイド, バイエレン州 (ドイツ) 環境省, 滋賀県商工観光労働部国際課.

2005 年 7 月 6 日, 概要説明と館内ガイド, イギリス・レスター大学.

2005 年 7 月 8 日, 概要説明と館内ガイド, 大連東北国際旅行・クラブツーリズムなど, (社) 琵琶湖ビジターズビューロー.

2005 年 8 月 2 日, 概要説明と館内ガイド, 愛知県農林水産部.

2005 年 8 月 23 日, 理念と概要説明, NHK 京都文化センター.

2005 年 10 月 16 日, 理念と概要説明, 北方四島交流事業.

2005 年 12 月 13 日, 理念と概要説明, 東京都北区議会共産党議員団.

2006 年 2 月 24 日, 交流活動の概要説明, 信州大学農学部附属アルプス圏フィールド科学教育研究センター.

メディアへ協力

2005 年 7 月 18 日, 月間フィッシュマガジン, イワトコナマズについて.

2005 年 8 月 9 日, みんなの滋賀新聞, カイツブリの給餌、スジシマドジョウ小型種について取材.

2006 年 1 月 19 日, BBC びわこ放送, インタビュー出演.

【展示活動】

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2003 年 5 月一, 滋賀県博物館協議会, 研修委員会, 委員.

【館外の活動】

2003 年 11 月 5 日一, 大津市立逢坂小学校, 逢坂小学校エコスクール委員会, 委員.

2002 年 9 月一, 滋賀県農政水産部, みずすまし構想推進委員会, 生態系保全専門部会員.

2003 年 1 月一, 滋賀県土木交通部河港課, 近江の川づくり検討委員会 (琵琶湖統合部会), 委員.

2003 年 5 月一, 滋賀県農政水産部, 早崎内湖周辺ビオトープネットワーク検討調査事業に関わる調査検討委員会, 委員.

2000 年 5 月一, 滋賀県琵琶湖環境部, 滋賀県生きもの総合調査委員会, 委員 (魚貝類部会長).

2003 年 5 月一, 滋賀県琵琶湖環境部, 移入種問題検討委員会, 委員 (水生生態系部会会長).

2004 年 10 月一, 淡水魚保全研究会, 常任理事.

2003 年 5 月一, (社) 日本動物園水族館協会, 種保存委員会 (技術部会 人工繁殖技術検討委員会), 委員.

- 1991年4月～2005年11月，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会(日本産希少淡水魚繁殖検討委員会)，委員。
- 2003年8月～，国土交通省近畿地方整備局・大戸川ダム工事事務所，大戸川ダム環境アドバイザー。
- 2004年4月～，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，丹生ダム環境保全対策懇談会，委員。
- 2004年4月～，国土交通省近畿地方整備局・琵琶湖河川工事事務所，琵琶湖および周辺河川環境に関する専門家グループ制度，委員。
- 2004年7月～，環境省自然環境局，希少野生動植物種保存推進委員。
- 2004年6月～，環境省自然環境局，平成16年度自然環境基礎調査検討会，検討員。
- 2004年8月～，環境省自然環境局，平成16年度絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会，検討員(淡水魚類作業部会)。

本年度の専門研究は、「滋賀県における生物多様性直接支払い制度について」というテーマで、昨年度に引き続き、県庁関係機関（農政水産部耕地課、農村振興課、環境こだわり農業課）と連携し設立した「生物多様性直接支払い政策研究会」を中心に、農村地域における生物多様性保全のあり方についての調査研究を進めた。

前半は、各種文献により「環境直接支払い制度」についての基本的な概念整理をおこなうとともに、国内・諸外国の制度を調査研究し、我が国における「生物多様性直接支払い制度」の実現のための課題の整理をおこなった。

後半には、上記に示した調査研究の成果を生かし、滋賀県の特色ある自然環境に配慮した「直接支払い制度」として、「ゆりかご水田」「冬期湛水」「通年通水」という三つの区分による制度内容を検討した。

上記調査研究結果を平成 18 年度県制度要求に反映させることができ、併せて生物的效果調査についても引き続き次年度以降も実施していく予定である。

印刷物

【学術論文】

杉谷博隆 (2005) 自然再生推進法から見た住民参加型ビオトープづくりの課題. *農業土木学会誌*, 73 (11), 農業土木学会 : 1061-1065.

【一般向けの著作】

杉谷博隆・秋山廣光・戸田 孝・芳賀裕樹・考橋賢一 (編) (2005) 琵琶湖博物館広報誌. *うみんど*, 35・36 37・38, 琵琶湖博物館 : 8p.

杉谷博隆 (2006) 特集 タガベエのため池探検一人と歩む歴史と未来-. *うみんど*, 37, 琵琶湖博物館 : 2-4.

杉谷博隆 (編) (2006) タガベエのため池探検一人と歩む歴史と未来-. *ギャラリー展示リーフレット*, 琵琶湖博物館 : 8p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

杉谷博隆 (2005 年 12 月 16 日) 滋賀県における生物多様性直接支払い制度について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「滋賀県における生物多様性直接支払い制度について」, (2005 年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアートーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。

視察対応

2005年10月14日，博物館展示案内，農林水産省農村振興局水利整備課。

2006年2月7日，ギャラリー展示解説・案内，香川県歴史博物館。

2006年3月5日，博物館展示案内，東京大学大学院農学生命科学研究科パリ＝グリニョン国立農学院。

メディアへの協力

2005年12月21日，FM滋賀，滋賀プラスワンインフォメーション，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」。

2005年12月23日，KBS京都ラジオ，知っとこ滋賀，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」，生放送。

2005年12月26日，京都新聞，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」，(2005年12月24日取材)。

2006年1月5日，朝日新聞，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」，(2005年12月25日取材)。

2006年1月20日，KBS京都テレビ，得だね！滋賀だより，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」，(2006年1月12日取材)。

2006年1月24日，NHKテレビ，6時NHKニュース，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」，(2006年1月20日取材)。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年度，実験工房・田畑の管理，副担当。

モーニングレクチャー，講演，3回。

2005年度，ギャラリー展示「タガベエのため池探検」，企画・実施主担当。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005年度，琵琶湖博物館広報誌「うみんど」，企画・編集主担当。

2005年度，滋賀県農政水産部耕地課企画調整担当，主幹を兼務。

【館外の活動】

2006年1月21日，ため池里山人のにぎわいフォーラム，滋賀県農政水産部農村振興課，実施。

専門研究では、1999年に守山市で確認された外来種であるコモチカワツボが、2004年に今津町内の水路に生息することを、当館資料整備の石田未基氏と確認したが、2005年にはその分布域を明らかにする目的で、今津町周辺の水路や河川での採集調査を実施した。この他、県内の希少貝類の継続的な調査を実施するとともに、環境保全のありかたについての研究を進めたい。

共同研究「日本国内における外国産シジミ類の分布動態把握のための基礎研究」では、外国産シジミ類の生息に関する報告がない北関東地域、九州の熊本県においてシジミ類の採集調査を実施した。採集したシジミのDNA量を分析したところ、両地域において外国産と考えられるシジミが生息することが確認できた。共同研究「貝類を指標とした湖底の酸素環境の把握について」では、セタシジミとタテボシガイについて、低酸素耐性についての実験を実施し、両種の酸素耐性を調べた。

総合研究「東アジアの中の琵琶湖」では琵琶湖南湖に設置されているエリ周辺での水の流れと魚の行動との関係を明らかにするため、近畿大学水産学科漁場学研究室と共同でバイオテレメトリーを用いた実験を実施している。

印刷物

【専門分野の著作】

近藤高貴・松田征也 (2005) 用水路のイシガイ類. *生態学からみた里山*, 講談社, 東京: 78-81.

松田征也・大原健一・小林 徹 (2006) フローサイトメーターを用いた外国産シジミ類とマシジミとの区別方法の検討. *国際湿地再生シンポジウム 2006 プログラム・アブストラクト集*, 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会: 37.

【一般向けの著作】

松田征也 (2005) 深刻 外来シジミ野生化. *京都新聞*: 2005年5月10日.

松田征也 (2005) おじいちゃんがボテという魚がいるっていつてたんだけど、それって何?. *京都新聞・タブロイド判*: 2005年8月7日.

松田征也 (2005) セタシジミは、瀬田川にすんでいるの?. *京都新聞・タブロイド判*: 2005年8月7日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

米山和良・金丸善紀・光永 靖・山根 猛・松田征也・平石智徳・山本勝太郎 (2005年3月31日～4月4日) 琵琶湖南湖エリ周辺におけるコイ科魚類の行動追跡. 平成 17 年度日本水産学会大会, 日本水産学会, 東京海洋大学品川キャンパス, 東京都, [口頭発表].

米山和良・光永 靖・山根 猛・松田征也・平石智徳・山本勝太郎 (2005年5月28日～5月30日) 琵琶湖南湖のエリ周辺におけるコイ・ブルーギルの集散状況について. 平成 17 年度日本水産工学会大会, 日本水産工学会, 東京海洋大学品川キャンパス, 東京都, [口頭発表].

Komeyama, K., Mitsunaga, Y., Yamane, T. and Matsuda, M. (2005年6月5日～6月11日) Spatial and temporal distribution of *Cyprinus carpio* near an endemic stationary set net ('ERI') in Lake Biwa. 6th conference

on fish telemetry held in Europe, INSTITUTO DE OCEANOGRAFIA, Portugal, [口頭発表].

Komeyama, K., Mitsunaga, Y., Yamane, T. and Matsuda, M. (2005年6月5日～6月11日) Influence fishing ground conditions on the appearance of common carp around a set net. 7th conference on fish telemetry held in Europe, INSTITUTO DE OCEANOGRAFIA, Portugal, [ポスター発表].

松田征也・大原健一・小林 徹 (2006年1月28日～1月29日) フローサイトメーターを用いた外国産シジミ類とマシジミとの区別方法の検討. 国際湿地再生シンポジウム 2006, 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館総合研究「東アジアの中の琵琶湖—コイ科魚類の展開を軸とした—環境史に関する総合研究」(研究代表者: 中島経夫), 研究協力者 (1997～2006年度).

琵琶湖博物館共同研究「日本国内における外国産シジミ類の分布動態把握のための基礎研究」(研究代表者: 松田征也), 研究代表者 (2005～2006年度).

琵琶湖博物館共同研究「貝類を指標とした湖底の酸素環境の把握について」(研究代表者: 芳賀裕樹), 研究分担者 (2004～2005年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 9件.

2005年8月6日, 水辺の貝を調べてみよう, 観察会, 琵琶湖博物館と烏丸半島, 主担当.

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月29日, 琵琶湖の水生生物, セタシジミ祭り実行委員会, シジミ祭り, 琵琶湖上 (滋賀県), 説明.

2005年8月9日, 琵琶湖の貝を調べてみよう, 滋賀県中学校教育研究会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 指導.

2005年10月23日, 博物館の説明, 近畿大学, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 説明.

視察対応

2005年4月12日, 淡水魚の繁殖について, JICA, 水族展示室・保護増殖センター.

メディアへの協力

2005年4月20日, びわ湖放送, うおーたんのこどもプラスワン, 琵琶湖の魚を調べてみよう, (2005年3月25日取材).

2005年7月12日, K B S 京都, らくらぶR, 展示の説明, (2005年6月26日取材).

2005年6月1日, 雑誌「家庭画報」海外版, 展示の説明, (2005年2月2日取材).

読売新聞, セタシジミについて, (2005年4月17日取材).

みんなの滋賀新聞, モリアオガエルの説明, (2005年6月27日取材).

2005年7月5日, NHK, ニュース番組, 魚は、なぜエリに入るのか, (2005年7月2日取材).

2005年7月14日, 京都新聞, ムサントミヨについて, (2005年7月14日取材).

朝日新聞, 保護増殖センターについて, (2005年8月3日取材).

2005年11月2日, NHK, ニュース番組, 富江家について, (2005年11月2日取材).

共同通信，ヒメタニシがブルーギルの卵について，(2006年1月5日取材)。
2006年1月19日，NHK，ニュース番組，黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月19日，共同通信黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月20日，朝日新聞黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月19日，讀賣テレビ，ニュース番組，黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月20日，時事通信黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月19日，ABC，ニュース番組，黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月19日，MBS，ニュース番組，黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月19日，関西テレビ，ニュース番組，黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月20日，中日新聞黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月20日，京都新聞黄色いビワコオオナマズ，(2006年1月19日取材)。
2006年1月24日，京都新聞黄色いナマズ，(2006年1月23日取材)。
2006年1月24日，読売新聞黄色いナマズ，(2006年1月23日取材)。
2006年1月23日，読売テレビ，ニュース番組，黄色いナマズ，(2006年1月23日取材)。
2006年1月23日，びわ湖放送，ニュース番組，黄色いナマズ，(2006年1月23日取材)。
2006年1月23日，NHK，ニュース番組，黄色いナマズ，(2006年1月23日取材)。
2006年1月24日，中日新聞，黄色いナマズ，(2006年1月23日取材)。
2006年2月15日，NHK，ニュース番組，黄色いビワコオオナマズデビュー，(2006年2月15日取材)。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水鳥写真，撮影，179件。

オオサンショウウオ関係写真，撮影，183件。

淡水貝類標本，採集・受入，111件。

他博物館・機関の活動

近畿大学，カワバタモロコ・スジシマドジョウ大型種・モツゴなど，分譲，74件。

岐阜県河川環境研究所，ウシモツゴのヒレ，分譲，20件。

東京都井の頭自然文化園，シナイモツゴ，分譲，20件。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回。

2005年5月18日～6月6日，水族トピック展示ミヤコタナゴ，調整。

2005年6月8日～7月4日，水族トピック展示ハリヨ，調整。

2005年8月10日～9月5日，水族トピック展示ニッポンバラタナゴ，調整。

2005年10月5日～10月31日，水族トピック展示ワタカ，調整。

2005年11月2日～11月14日，水族トピック展示カネヒラ，調整。

2006年1月25日～2月13日，水族トピック展示中国産タナゴ類，調整・資料提供。

2006年2月15日～3月6日，水族トピック展示中国産クルター類，調整・資料提供。

【企画調整活動】

観光キャンペーンへの参加，チラシ配布・説明など，3件，2005年4月23日・9月7・24日，JR京都駅。

観光キャンペーンへの参加，チラシ配布・説明など，2005年6月25日，名古屋市内。

企画展示オープニングセレモニー，司会・進行，2005年7月16日，琵琶湖博物館。
企画展示関連講演会，司会，2005年9月3日，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005年度，広報・経営戦略検討，全体調整，広報・経営戦略検討チーム。

【館外の活動】

2005年7月24日，琵琶湖ルール啓発活動。

1999年～，守山湖岸再生部会，南部振興局，委員。

2000年～，木浜内湖再生部会，南部振興局，委員。

2000年～，(社)日本動物園水族館協会，教育普及事業推進委員会，委員。

2005年度～，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，検討委員。

2005年度，(社)日本動物園水族館協会，種保存委員会・日本産希少淡水魚繁殖検討委員会，アユモドキ・イタセンパラ・ニッポンバラタナゴ種別調整者。

2005年度は、前年度に引きつづき「多自然型川づくりの評価手法」を専門研究のテーマとし、前年度策定済みの評価指標を用いモデル河川で試行評価を行い、課題を抽出するとともに、河川環境評価に加え、治水や利用等を加えた総合評価に向けた検討を進めた。

これに加えて琵琶湖博物館と滋賀県土木交通部河港課との共催でギャラリー展「淡海の川ー水害、そして川とともに生きるー」を実施した。この展示では、自分の生活の場でも起こりうる水害について、より身近に感じて頂くことで、今一度自分の地域の防災について考えて頂く機会が提供でき、万が一洪水が起きたときの減災に少しでもつながれば幸いである。

印刷物

【一般向けの著作】

武部 強 (2005) 特集 淡海の川ー水害、そして川とともに生きるー. うみんど, 34, 琵琶湖博物館: 2-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

武部 強 (2006年2月17日) 「滋賀県多自然型川づくり」の評価について. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「多自然型川づくりの評価について」(2005年度).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 8件.

2005年4月29日, 水害を語りつぐー被災者の体験談に耳を傾けてー. 琵琶湖博物館ギャラリー展示関連行事, 琵琶湖博物館, 主担当, (小坂育子氏共同).

2005年6月4日, あなたの川, 知っていますか?ー水害に強い地域社会づくりにむけてー. 琵琶湖博物館ギャラリー展示関連企画「車座会議」, 琵琶湖博物館, 主担当, (滋賀県河港課・水と文化研究会との共同).

視察対応

2005年5月31日, 展示解説, 琵琶湖・淀川流域ネットワーク.

2005年7月27日, 展示解説, 滋賀県親子砂防学習会.

2005年10月27日, 展示解説, 国土交通省.

2005年11月25日，展示解説，神奈川県河川協会。

メディアへの協力

2005年4月20日，「淡海の川」ギャラリー展の開催について資料提供，（2005年4月20日取材）。

2005年4月23日，京都新聞，水害の怖さ再認識し備えを，「淡海の川」ギャラリー展示解説，（2005年4月22日取材）。

2005年4月28日，「淡海の川」ギャラリー展関連行事「水害を語りつぐー被災者の体験談に耳を傾けてー」の開催について資料提供，（2005年4月28日取材）。

2005年5月6日，びわこ放送，「淡海の川」ギャラリー展示解説，（2005年4月29日取材）。

2005年5月6日，NHK 大津放送局，「淡海の川」ギャラリー展示解説，（2005年5月6日取材）。

滋賀ケーブルネットワーク，「淡海の川」ギャラリー展示解説，（2005年5月8日取材）。

2005年5月27日，みんなの滋賀新聞，水害は他人事ではない，「淡海の川」ギャラリー展示解説，（2005年4月22日取材）。

2005年6月2日，モーニング草津，水害体験を語り伝えよう，「淡海の川」ギャラリー展示解説，（2005年5月17日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年度，常設展示維持管理，主担当。

2005年4月23日～2005年6月26日，「淡海の川」ギャラリー展示，主担当。

モーニングレクチャー，講演，3回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005年度，滋賀県土木交通部河港課河川環境担当，副主幹を兼務。

【館外の活動】

2005年度，淡海の川づくり検討委員会（多自然型川づくり検討ワーキング），運営補助、ワーキングメンバー。

2005年度，琵琶湖岸保全対策研究会，運営補助。

2005年度，日野川多自然化計画検討会，検討メンバー。

私の専門分野は林学、研究のテーマは林木育種です。そして、その目的は、災害等に強い山をつくることです。つまり、山へ植える苗木の家系特性を調べ解明し、苗木生産用種子の改良を行うことにより、山の木をより優秀な木へと変えてゆくことです。

しかし、災害等に強い山をつくるのは、この方法だけではありません。不成績造林地において植栽木の樹種転換を図るのも一つの方法です。そこで、昨年今年度と、樹種転換を進めるための苗木生産を専門研究のテーマとし研究をしてきました。調査対象樹種は経済的価値が無ければ植栽されないことから、価値が高いケヤキ（有用広葉樹の1つ）を選びました。

調査結果としては、1：種子の播種時期がわかった。2：種子の色で採取時期がわかりそうである。ということである。2については、まだ発芽調査が出来ていないことから確定的なことは言えないので、来年度調査を行う予定です。

なお、「災害等に強い山を！」ということ、はげ山緑化の話や、「スギ花粉症問題への林木育種からのアプローチ」をフロアトークで披露しました。

印刷物

【一般向けの著作】

金子修一（2005）林木育種情報，*滋賀県森林センターだより*，15：2-3.

金子修一（2005）林木育種情報，*滋賀県森林センターだより*，16：3.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

金子修一（2004）有用広葉樹の育林技術の開発．*滋賀県森林センター業務報告*，38：40-41.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

金子修一（2006年2月17日）ケヤキ苗木生産に関する研究．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，5件．

はしかけ「里山の会」，7件，（楠岡 泰・里山の会共同）．

2005年5月14日～11月26日里山体験教室，日野町上駒月，主担当，4件．

視察対応

2005年8月4日，概要説明と案内，平成17年度森林環境部参加者.

2005年11月10日，概要説明と案内，諏訪市山林原野経営協議会.

2006年3月3日，研修会，淡海森林クラブ，琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005年度，林業専門技術員，滋賀県森林センター主査を兼務.

滋賀県水産試験場在職当時より琵琶湖漁業の主要漁業であるエリ漁の網に平成6～7年ごろより付着物が増加し、操業に支障を来している問題について現状把握のため各種調査を行ってきた。その結果、エリ網の付着物による汚損は南湖よりも、北湖で特に顕著であり、また付着物は南湖のものが主に緑藻が主体で構成されていたのに対し、北湖ではカビ臭を伴い、糸状性藍藻がエリ網にからみつき構成されたマットに土壌粒子やケイ藻などがトラップされたり、これらを栄養塩とし、糸状性藍藻等がマット上で増殖している現象であることが判明してきた。

そこで昨年度までの専門研究においては、昨年度までの知見や既知の文献などのデータを整理し、なぜ近年、急激にエリ網を汚損する付着物が増加してきたか、また南湖では少なく、北湖で多いのか等を検討する作業仮説を作成し、また一部、この作業仮説に基づき、底泥分布調査を行い、仮説の予備検証を行ってきた。とくに今年度は、琵琶湖沿岸帯の魚類相の変化によるトップダウン効果によって、エリ網の付着藻類の捕食圧が低下したため、増加したのではないかという仮説をもとに、初期条件を同一にした実験水槽に、ブルーギル、タナゴ類を収容し、その後の付着藻類量の変化を追跡した。その結果、水中のクロロフィルa量はタナゴ類を収容した方が多く推移したものの、付着藻類量はブルーギルを収容したもので多く推移した。これら観察結果は、琵琶湖沿岸帯で起きている異変と共通するものが多くあり、今後詳細な検討をしていきたいと考えている。

印刷物

【一般向けの著作】

孝橋賢一（2005）特集 第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見」。うみんど, 35, 琵琶湖博物館：2-4.

孝橋賢一（2006）研究最前線 漁師さんを悩ます「ソブ」の増加。うみんど, 38, 琵琶湖博物館：6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

吉川 徹・孝橋賢一・幡野真隆・須戸 幹（2005年3月18日）農薬がホンモロコ仔魚に及ぼす影響と琵琶湖北湖北部における残留濃度。第39回日本水環境学会年会，日本水環境学会，千葉大学西千葉キャンパス，千葉県，[口頭発表].

孝橋賢一（2005年12月16日）北湖でみられるエリ網付着物の増加原因をさぐるーとくに琵琶湖湖岸の魚類相の変化に着目してー，琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「内湖-水田間の水辺ネットワーク構築による在来魚復活に関する研究」（研究代表者：前畑政善），研究分担者（2003～2008年度）.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，12件。

2005年7月23日，漁船に乗ってビワマス魚を見てみよう，観察会，湖北町尾上，主担当，（桑原雅之と共同）。

2005年7月30日，先生のための陸水学基礎講座，博物館講座，琵琶湖上・館内，講義等，（芳賀裕樹・谷口雅之・中村公一と共同）。

2005年10月30日，ビワマスの採卵現場を見学してみませんか，観察会，マキノ町知内，副担当，（桑原雅之と共同）。

2006年3月5日，水族展示の舞台裏，見学会，琵琶湖博物館，主担当，（前畑政善・秋山廣光・松田征也・桑原雅之・水族飼育員と共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2005年9月25日，水環境クリーン・ウォーク（魚釣りコース），滋賀県南部地域振興局，草津市，講師。

2005年10月17日，博物館実習，近畿大学農学部，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2005年4月1日，滋賀県の水産業の概要，JICA研修生。

メディアへの協力

2005年5月4日，KBS 京都ラジオ，WATER FOREST21，琵琶湖博物館展示紹介，（2005年5月4日取材）。

2005年7月20日，あさひゆめほっと編集室，あさひゆめほっと，展示紹介，（2005年6月22日取材）。

2005年6月22日，FM石川，NATTY TIMES，展示紹介，（2005年6月22日取材）。

2005年7月19日，東海ウォーカー，展示紹介，（2005年7月1日）。

2005年7月30日，滋賀ケーブルネットワーク，企画展紹介，（2005年7月22日取材）。

2005年8月1日，NHK 大津，「ぐるっと関西プラス」，水族バックヤード探検紹介，（2005年8月1日取材）。

2005年10月頃，JR 広報誌秋号「琵琶湖特集」，展示案内，（2005年8月23日取材）。

2006年4月頃発行予定，るるぶ滋賀，展示・企画展示案内，（2005年9月13日取材）。

2005年10月8日，「ニュースワイド京都」，常設展示・企画展示案内，（2005年9月20日取材）。

2005年10月12日，CBC テレビ「そこが知りたい 特捜！板東リサーチ」，展示案内，（2005年10月27日）。

2005年10月19日，京都新聞滋賀本社湖南総局，水族トピック展示「ボタンウキクサ」紹介，（2005年10月18日取材）。

2005年10月21日，読売新聞大阪本社大津支局，水族トピック展示「ボタンウキクサ」紹介，（2005年10月18日取材）。

2005年11月18日，京都新聞滋賀本社，企画展示「歩く宝石オサムシ」の来館者7万人突破，（2005年11月16日取材）。

2005年11月11日，ソニーマガジン「リンカラン」，C展示室「富江家」，（2005年12月15日）。

2006年3月発行予定，決定版！！全国水族館ガイド2006，水族展示案内，（2005年12月25日）。

2006年4月発行予定，科学館へ行こう，展示案内，（2006年1月18日）。

2006年1月20日，産経新聞，黄色いビワコオオナマズ，（2006年1月19日取材）。

2006年1月19日，毎日新聞，夕方のニュース，黄色いビワコオオナマズ，（2006年1月19日取材）。

2006年1月19日，関西テレビ，夕方のニュース，黄色いビワコオオナマズ，（2006年1月19日取材）。

2006年1月19日，毎日放送，夕方のニュース，黄色いビワコオオナマズ，（2006年1月19日取材）。

2006年1月19日，びわこ放送，夕方のニュース，黄色いビワコオオナマズ，（2006年1月19日取材）。

2006年1月19日，よみうりテレビ，夕方のニュース，黄色いビワコオオナマズ，（2006年1月19日取材）。

2006年1月19日, NHK大津, 夕方のニュース, 黄色いビワコオオナマズ, (2006年1月19日取材).
2006年2月8日, 毎日新聞「Oh-Me!」, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月12日).
2006年2月8日, 産経新聞, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月12日取材).
2006年2月11日, びわこ放送, ニュース, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月11日取材).
2006年2月11日, 毎日放送, ニュース, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月11日取材).
2006年2月12日, 読売新聞大阪本社大津支局, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月11日取材).
2006年2月12日, 朝日新聞, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月11日取材).
2006年2月11日, 京都新聞湖南総局, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月10日取材).
2006年2月11日, 読売新聞大阪本社, 2尾目の黄色いナマズ, (2006年2月10日取材).
2006年2月11日, 京都新聞滋賀本社, 2尾目の黄色いナマズ, (2006年2月10日取材).
2006年2月11日, 朝日新聞, 2尾目の黄色いナマズ, (2006年2月10日取材).
2006年2月22日, あいあいAI 滋賀, 黄色いビワコオオナマズデビュー, (2006年2月11日取材).
2006年2月14日, NHK大津, ぐるっと関西お昼前, 黄色いビワコオオナマズ, (2006年2月11日取材).
2006年2月15日, NHK大津, おうみ発610, 黄色いビワコオオナマズ, (2006年2月15日取材).
2006年5月以降, BSフジ, 東京キッズクラブ, 水族展示案内, (2006年3月2日取材).
2006年5月号, JAFMATE 5月号, 水族展示案内, (2006年3月2日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 3回.

【企画調整活動】

湖南地域観光キャンペーン, PR活動・資料配付, 名古屋市栄.

滋賀県・湖南地域観光キャンペーン, PR活動・資料配付, 4件, JR京都駅.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005年, うみんど編集委員.

2005年, 琵琶湖博物館広報・経営戦略会議, 検討委員.

森林伐採の研究を通じて、人間の森林に対する管理、働きかけが、森林の物質循環や水質調節機能にどのような影響を及ぼすか、森林土壌や水、及び、下流域の琵琶湖に与える影響を明らかにすることを目的として研究を行っている。

これまで、対照流域法により、伐採前から伐採流域と、対照としての森林流域の水文観測を通じて、数年間にわたり普段の水と大雨の水の観測を続けてきた。月別、大雨時にサンプリングした降水、土壌浸透水、渓流水について、硝酸以外の他のイオン、主要成分についても分析を進め、その組成についての検討を行った。その結果、伐採前には伐採流域、森林流域共に組成が非常に類似しているのに対し、伐採後は、特に大雨時に組成が急変すること、伐採前には流出の少なかった富栄養化物質である硝酸イオンが、大雨時には伐採流域にのみ高濃度に流出することを明らかにした。森林伐採(皆伐)により表層土壌の吸着塩基が溶脱を起こし、伐採1年後、斜面平均で約7割に減少すること。また、斜面の上部、中部、下部という斜面位置の異なる土壌浸透水の解析から、硝酸が斜面中、下部でより多く形成され、それが台風などの大雨流出の際、高濃度に流出すること(渓流水最高濃度 10.54mg/l)。量として、この台風一雨で約10kg/haの硝酸が伐採地に流出し、森林流域の流出量0.26 kg/haの約40倍になることを明らかにし、斜面下部の保全の重要性を指摘したことなどである。

さらに、降水量、水位(流量)の水文データを入手し、水質と積算して得られる流出量についても検討を行っている。

専門研究では、混合による渓流水質の形成メカニズムを中心に、特に大雨流出時の水質の変化に焦点を当てて、研究を行った。それによると、大雨直接流出時の硝酸イオン濃度は、主に斜面中部及び下部の表層と下層の高濃度硝酸を含む土壌浸透水により、ピーク流出時に高い硝酸濃度が維持されていることを明らかにした。また、斜面上部は硝酸を発生しないことも明らかになった。このこととあわせ、斜面表層で硝酸が形成される環境条件について調べるために表層から下層の土壌水分量と温度について連続的なデータロガーによる観測を続けている。この要因究明は、応用的には、伐採しても硝酸化が起りにくい方法を見いだすために大変重要である。

人の森林管理の一形態としての伐採が森林の窒素循環を乱し、大量の富栄養化物質を流出する森林に変えてしまう結果となりつつあるが、どのような管理方法が下流や琵琶湖への負荷の少ない水環境保全的な森林につながるのか知見を得るために、館外研究者との共同研究を進めている。具体的には、これまで得られた知見を踏まえて、最も多く硝酸を発生する斜面下部を面的に切らずに残して、発生源とさせないと同時に、他所(より上部の斜面)からの流入分を吸収させる管理方法(下部残存法)を提案した。その有効性の検討や、また、発生した硝酸を吸収できる草本の播種導入や、萌芽再生樹木を積極的に残して植生に吸収させる従来型の管理方法、温度低下による硝化作用の抑制をねらった寒冷紗区の有効性を確かめること、などを目的として、10m x 10m コドラートを単位とした小面積伐採実験を共同で計画、開始し、2002年7月から伐採前の土壌浸透水水質の測定、土壌水分、土壌温度などの環境条件データの収集を行っている。その影響の違いを評価するため、2003年度冬に伐採処理して継続測定している。その結果、最も有効だったのは、下部残存区であり、伐採後2年間の間、コントロールとしての森林区に近い低濃度が維持された。他の処理も含め、今後とりまとめを行っていく。

また、植物標本、資料の研究として、滋賀県で故橋本忠太郎氏が過去に採集された標本のデータベース再構築に2002年から着手し、現在までに公開業務の方々の協力で新たに維管束植物約3,000点の素データ入力を行った。これには、主に大正時代から昭和初期にかけての人為的な影響が少ない時代の標本が含まれており、データ蓄積を進めている滋賀県の現在のフローラ(植物相)の解明に対応して、過去から現在への変化という視点で進めているものである。

また、2002年度から、モンゴル国フブスグル湖国立公園内において、近年多発している森林火災跡地の森林再生の緩慢さに驚き、長期コドラートを設置して定着実生の調査を継続している。その結果、ほぼ唯一の優占樹種シベリアカラマツの林が樹冠火災を受けた場合、十数年後でも、その実生による更新が非常に少ないことがわかってき

た。現地の気候的条件、森林構成種、更新の仕方、火災による環境変化、凍土の位置、放牧による影響等様々な要因を検討中である。2004年度は2003年度夏に設定した、実生初期定着についての実験のデータを取ることができた。その結果、実生定着に光の直射が最も阻害していることが明らかとなり、同時に「倒木遮蔽（へい）更新」という仮説も検証できる可能性が出てきたので、3月の第53回日本生態学会で発表するとともに、『森林環境2006世界の森林はいま』に紹介し、「モンゴル通信 No. 13」の日本語版、現地語版にも紹介した。

印刷物

【専門分野の著作】

吉良竜夫・草加伸吾（2006）モンゴル極北の森林をまもる（Ⅰ）—森林の特性と現況。森林環境2006世界の森林はいま。森林環境研究会編，森林文化協会発行，東京：170-179.

草加伸吾・吉良竜夫（2006）モンゴル極北の森林をまもる（Ⅱ）—自然更新を助けるための野外実験の試み。森林環境2006世界の森林はいま。森林環境研究会編，森林文化協会発行，東京：180-189.

草加伸吾（2006）第4章土壌浸透水質から見た各伐採処理の評価。籠谷泰行[編]平成17年度琵琶湖研究所委託研究報告書 小面積実験区における森林管理の影響評価。森林環境研究会：22-32+15.

【一般向けの著作】

草加伸吾（2006）現地報告3 フブスグル湖周辺のカラマツはなぜ一直線の列に並ぶのか？。モンゴル通信，13，現地報告：フブスグル湖周辺調査報告1～3，びわ湖・フブスグル湖交流協会事務局，大津：6-7

*モンゴル語版でも同時出版、地元配布した

研究活動に関する業績

【学会・研究会で発表など】

草加伸吾（2005年7月15日）伐採による硝酸流出を少なくするには—斜面伐採実験区における検討（中間報告）。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館。

草加伸吾（2006年3月25日）森林火災跡地での再生がなぜ困難か？—モンゴル北部フブスグル湖周辺のシベリアカラマツ林の場合。（2006年3月24-28日）第53回日本生態学会大会。日本生態学会，朱鷺メッセ，新潟県，[ポスター発表]。

草加伸吾（2005年11月29日）伐採処理の変化がいつから土壌浸透水に現れるか。小面積実験区における森林管理の影響評価研究中間報告会，森林環境研究会，滋賀県琵琶湖研究所，大津市。

草加伸吾（2006年3月10日）土壌浸透水質から見た小面積伐採実験での各処理の影響評価。森林プロジェクト2005年度成果報告会，集水域研究会，滋賀県琵琶湖環境科学研究センター，大津市。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「植生と水質調節：降雨流出時の水質変化の組成解析」（2001年度～）。

びわ湖・フブスグル湖交流協会研究プロジェクト「モンゴル・フブスグル国立公園からの環境情報発信と環境教育支援」，研究分担者（2005年度）。

琵琶湖環境科学研究センター委託研究「小面積実験区における森林管理の影響評価」，研究分担者（2005年度）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

質問コーナー・フロアトーク，琵琶湖博物館，13件。

2005年8月3日，博物館実習，植物さく葉標本の作り方、整理について，講師。

2005年11月20日，春いっぱい朽木で見つけてふれあおう，フィールド観察会，滋賀県高島市朽木麻生 森林公園
くつきの森 搦み谷周辺，（朽木ふれあいの里ネイチャーセンターと共同）。

他の博物館・機関等主催行事

2005年10月29日，おいしい水をはぐくむ森林と琵琶湖との関係，PL学園高等学校，琵琶湖博物館，講師。

2005年11月20日，自然の恵みと滋賀の環境問題～おいしい水をはぐくむ森林と伐採実験からわかること～，滋賀
県中小企業家同友会，琵琶湖博物館，講師。

2005年6月5日，森のはたらきについて知ろう！，志賀町水環境を守る生活推進協議会，琵琶湖博物館，講師。

視察対応

2005年10月16日，「モンゴルの環境を考える」シンポジウム開催と視察対応，びわ湖フスグル湖交流協会。

2005年12月8日，琵琶湖博物館のはしかけ制度について，ひめゆりの塔記念館。

メディアへの協力

関西国際広報委員会，滋賀の環境映像撮影出演および取材協力，（2005年12月9日取材）。

2006年1月4日，毎日新聞，湖国 みず ひと 暮らし 比良山系脅かす「ナラ枯れ」，取材協力。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

屋外展示植栽苗木由来調査。

植物標本資料収集整理（モンゴル国植物標本資料用30点）。

橋本忠太郎植物標本整理：700点の維管束植物データベース入力整理。

植物収蔵庫維持管理主担当者。

実験温室主担当。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年度，展示施設メンテナンス副担当。

2005年6月24日～，分類展示「多雪地域の植物たち」，植物標本展示。

2005年4月20日，新任職員研修，（C展示室：水をはぐくむ森林、森林、農地、市街地を通る水），解説。

2005年4月22日，新任職員研修，（屋外展示について），解説。

モーニングレクチャー，C展示室、屋外展示，6回。

展示交流員と話そう。「ミミズの不思議」、「おいしい水をはぐくむ森林」、「木を語ろう」，3件。

2005年度，屋外展示植栽維持管理業務（武部 強と共同）。

屋外展示植栽木（高木、亜高木）ラベル調査実施（追加：落下、読めないもの対応）。

館内の人事、館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県森林センター委員.

琵琶湖環境科学研究センター共同研究者.

琵琶湖にはさまざまな繊毛虫 (原生生物) が生息しているが、その生活史はおろか、存在すら報告されていない種が多い。琵琶湖の繊毛虫には細胞内に共生藻類をもつ種類が他の湖に比較して多く見られ、これは長い貧栄養の歴史をもつ琵琶湖の特徴の一つではないかと考えられる。共生藻類をもつことの意義を明らかにするために同じクローンで共生藻類をもつ繊毛虫ともたない繊毛虫を作り、飢餓に対する耐性などをしらべた。

2005年12月、ヨルダン・ハシミテ王国に JICA (国際協力機構) の専門家として、国立博物館などの建設に協力するために派遣された。JICA はヨルダンで「博物館活動を通じた観光振興」というプロジェクトを実施している。このプロジェクトはヨルダン国立博物館、死海博物館、カラク博物館、サルト博物館の4つの博物館の建設、または、リニューアルを JICA とヨルダン観光遺跡省とが協力して行うものである。ヨルダンでは琵琶湖博物館が行っている地域や学校との連携などの交流事業について博物館準備室および大学で講義した。また、現地の子どもたちや博物館関係者に対し、実際に体験学習のワークショップを開き、ヨルダンの博物館が独自に交流プログラムを開発できるようにアドバイスをした。

印刷物

【一般向けの著作】

- 楠岡 泰 (2005) エドヒガンを探してみよう。フィールドレポーター掲載板, 1 (35), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.
- 楠岡 泰 (2005) 「はじめに」一言。フィールドレポーター掲載板, 2 (36), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.
- 楠岡 泰 (2005) ミドリムシの虫のいい? 恋物語。京都新聞タブロイド板 : 2005年8月7日.
- 楠岡 泰 (2005) ヨシ帯のさまざまな機能と私たちの暮らし。みんなの滋賀新聞 : 2005年9月16日.
- 楠岡 泰 (2005) 怪しいおじさんのセミとり。フィールドレポーター掲載板, 3 (37), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.
- 楠岡 泰 (2005, プランクトンと妖怪の共通性。うみんど, 36, 琵琶湖博物館 : 6.
- 楠岡 泰, (2005), 湖国の住人 No. 18 ミジンコの仲間たち。ぱどタウンマガジン, 22, (株) ビイサイドプランニング : 34.
- 楠岡 泰 (2005) ミクロ生物館を訪れて。フィールドレポーター掲載板, 4 (38), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1.
- 楠岡 泰 (2006) ヨルダン博物館事情。フィールドレポーター掲載板, 5 (39), 琵琶湖博物館フィールドレポーター : 1-2.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 楠岡 泰 (2005年9月16日) インターネットを活用したプランクトンの図鑑および展示の製作。琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [講演].
- 楠岡 泰 (2006年2月28日) ヨルダン博物館事情。関西博物館研究会, 関西博物館研究会, 長岡京市中央生涯学

習センター，京都府，[講演].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「絨毛虫にとって共生藻類を持つ意義」（2005年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005年9月13日，JICA and ILEC Environmental education course focused on aquatic environments, Environment Education in the Lake Biwa Museum.

2005年12月6日，National Museum Project Managing Unit, Jordan , Building a New Museum: The Process of Planning the Lake Biwa Museum.

2005年12月8日，National Museum Project Managing Unit, Jordan , Participation of the Local People in Museum Activities.

2005年12月13日，Dead Sea Museum, Jordan, Practical Training of Hands On Education.

2005年12月14日，Dead Sea Museum, Jordan, Let's Make Plankton Models.

2005年12月18日，Faculty of Archaeology and Anthropology, Yarmouk University, Jordan, Building a New Museum: The Process of Planning the Lake Biwa Museum.

2005年12月20日，Queen Rania Institute for Tourism and Heritage, Hashemite University, Jordan, A New Role, Environment Education in Museums.

2006年3月2日，日本環境教育学会国際会議エクスカージョン参加者，Environment Education in Museums.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 10件.

2005年，フィールドレポーター，琵琶湖博物館，主担当.

2005年，JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館，主担当.

2005年，里山体験教室，蒲生郡日野町，副担当，3件，（金子修一共同）.

2005年，田んぼの生き物調査グループ，はしかけ，琵琶湖博物館など，主担当，（マーク・グライガー共催）.

2005年，里山の会，はしかけ，蒲生郡日野町など，主担当，6件，（金子修一共同）.

2005年4月27日，琵琶湖博物館ができるまで，JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館，講師.

2005年4月28日，琵琶湖博物館の展示紹介，JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館，講師.

2005年5月14日，博物館評価法，JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館，講師，（布谷知夫共同）.

2005年5月14日，びわたんプログラムの体験，JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館，補佐，（青木伸子共同）.

2005年5月17日，ヨシ博物館および秦荘町歴史文化資料館見学，JICA 博物館学集中コース，琵琶湖博物館，引率，（布谷知夫共同）.

2005年6月27日，フィールドレポーター制度およびレポーターとの交流，JICA 博物館学集中コース（個別研修：博物館における教育），琵琶湖博物館，講師，（フィールドレポータースタッフ共同）.

2005年6月28日，プランクトンビンゴの体験，JICA 博物館学集中コース（個別研修：博物館における教育），琵琶湖博物館，講師

2005年6月28日，プランクトンの模型作り，JICA 博物館学集中コース（個別研修：博物館における教育），琵琶湖博物館，講師

2005年6月29日，草津本陣およびMIHO ミュージアム見学，JICA 博物館学集中コース（個別研修：博物館における

教育), 琵琶湖博物館, 引率, (布谷知夫共同).

2005年7月1日, 外来魚を食べようの体験, JICA 博物館学集中コース (個別研修: 博物館における教育), 琵琶湖博物館, 引率, (秋山廣光, 青木伸子共同).

2005年7月9日, 琵琶湖のプランクトンを見ようー立体模型ー, 体験学習の日, 琵琶湖博物館, 講師, (びわたん共同).

2005年11月26日, 秋の里山を歩こう, 琵琶湖博物館観察会, 大津市千野, 主担当, (布谷知夫, カワセミ自然の会共同).

2006年3月4日, 田んぼの生き物調査法, 琵琶湖地域をみんなで調べる実践講座, 琵琶湖博物館, 講師, (前田雅子氏共同).

他の博物館・機関等主催行事

2005年5月29日, メダカ&田んぼ博士になろう!! , ぼてじゃことらすと, ウォーターステーション琵琶および周辺水田, 大津市, 講師.

2005年6月8日, 田んぼの生き物観察, 甲南第三小学校甲南第三小学校および周辺水田 (甲賀市), 講師.

2005年6月16日, プランクトン研修, 滋賀県教育センター, 理科教育講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年6月25日, 魚釣りおよび解剖実習, 大阪 北野高等学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年7月21日, プランクトンの観察, 石部高等学校, ミュージアムスクール, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月2日, プランクトンと付着微小生物の観察, 中学校理科部会, 自然調査ゼミナール事前研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月9日, プランクトンと付着微小生物の観察, 中学校理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月23日, プランクトンの研修, 滋賀県教育委員会, 理科大好きスクール研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月25日, プランクトンの研修, 守山市教育委員会, 守山市理科教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年9月29日, プランクトンの観察, 東大津高等学校1年, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年10月25日, プランクトンの研修, 滋賀県教育センター, センター5年次研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年11月1日, プランクトンの研修, 京都府私立中学高等学校理科研究会, 教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年11月17日, プランクトンの観察, 米原高校 理数科, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年11月22日, プランクトンの研修, 滋賀県教育センター, センター5年次研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2006年2月9日, プランクトンの観察, 志賀中学校, 体験学習, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.

視察対応

2005年6月9日, 概要説明および展示案内, びわこビジターズビューロー, 世界観光機関滋賀会議スタディーツアー.

2006年2月25日, 概要説明、展示案内、体験学習説明, JICA ヨルダン博物館研修.

2006年3月7日, 博物館における環境教育について説明, JICA ガラパゴス諸島海洋環境保全計画プロジェクト.

メディアへの協力

2005年11月26日, NHK 教育, ミクロワールドーツリガネムシ不思議な水中生活, 監修.

2006年2月26日, 読売新聞, 時代と世界をつなぐ縄文コースター, 取材対応, (2006年2月25日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小無脊椎動物標本整理, 指導, 192点.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006年3月21日～4月9日、ギャラリー展「はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」, 副担当.

2005年, 常設展示: 生き物コレクションプランクトンコーナー, 維持管理, 展示更新.

2005年, 常設展示: ミクロの世界, 維持管理.

2005年, 常設展示: どぶ川の生き物たち, 維持管理.

モーニングレクチャー, 講演, 3回.

【研究部関連事業】

研究交流, 主担当, 2005年度, 琵琶湖博物館.

試験研究機関連絡会議, 幹事, 2005年度, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2005年12月2日～24日, ヨルダン・ハシミテ王国, JICA 博物館学専門家として派遣.

【館外の活動】

2004年～, JICA 博物館学集中コース, 運営委員会, 運営委員.

2005年度は、外来生物をテーマとした専門研究の枠内では、これまでと同様、滋賀県立大学大学院生との共同で、琵琶湖北端部（西浅井町菅浦）におけるオオクチバスとブルーギルの繁殖生態の現地調査を継続した。このフィールドワークのうちブルーギルに関する部分は、本年度から2ヵ年計画で受託した「水産庁平成17年度健全な内水面生態系復元等推進委託事業」の「ブルーギル食害等影響調査」として、基礎的な生態的知見の収集だけでなく、駆除への効果的な応用を視野に入れたアプローチでの研究となった。具体的には、ブルーギルが形成する卵保護オスによる繁殖集団（コロニー）の動態を、コロニー単位での駆除の効果を高める側面からデータ分析する作業を行った。また、その過程で、ブルーギルの産卵床に巻貝類が寄り集まり、その貝が卵や仔魚を捕食していることを明らかにすることができた。これらの成果は、日本魚類学会大会や魚類自然史研究会で発表され、ブルーギルのコロニーの動態に関する論文は「魚類学雑誌」に受理された。また、巻貝類による卵・仔魚の捕食に関する論文も現在、同誌に投稿中である。

「内湖エコトーン」共同研究では、西内沼・奥田沼にオオクチバスの産卵を誘発するために人工産卵床を20基ほど設置し、水温からオオクチバス、ブルーギルの繁殖期と考えられる5月から7月にかけて週1～2度の頻度で調査を行った。オオクチバスが産卵床として利用したのは、もっとも泥深い水域に設置した1回のみであったが、毎回、内湖の岸沿いをスノーケリングによって巡回して、稚魚群の発見に努めた。その結果、オス親の保護下にある稚魚群を5例発見し、群れの稚魚をほぼ全数捕獲することに成功した。しかしながら、その後、これらの内湖からの流下魚サンプルの分析結果では、オオクチバス幼魚の個体数が昨年約2倍となったことが判明した。このことは、人工産卵床を設置して定期的に見回るだけでなく、それでは捕捉できなかった稚魚群もスノーケリングにより捕獲するという、最大限の生息抑制のための努力を行ったにもかかわらず、内湖では産卵床から育った複数の稚魚群が発見されることなく成長を続けたことを示している。水の透明度が低いというのに、人工産卵床以外にも産卵に好適な堅い基質が存在する水域では、人工産卵床を中心とした手法による生息抑制に限界があることが明らかになった。

参画2年目を迎えた環境省地球環境研究総合推進費「侵入種生態リスク評価研究プロジェクト」による研究では、琵琶湖のオオクチバス個体群に、大規模にフロリダバス遺伝子が浸透していることを解明した結果を論文として「Aquaculture Science」誌に発表した。また、全国的に近年急速に生息域を拡大しつつあるコクチバスの遺伝的特徴を解明するために、福島県、群馬県、茨城県、新潟県、長野県、富山県、岐阜県等の現地調査と水産研究者らの協力体制づくりに努めたほか、オオクチバスの新たな産卵抑制策に重要なヒントとなると考えられる福島県只見町田子倉湖の調査に赴いた。また、北海道のブラウントラウトの生息状況に関しても、現地研究者との意見交換や現地視察を行った。オオクチバス・ブルーギルの生息抑制のための新たな手法として注目されているエレクトリック・ショッカー・ボートを操業する現場作業にも何度か足を運び、その適用可能性等について検討を行った。

2005年6月に外来生物法が施行されたが、その施行を前にして、オオクチバス等防除指針検討会の一員として「オオクチバス等に関する防除の指針」を策定する作業に協力した。また、環境省が防除モデル水域を選定するにあたり、犬山市のため池群と琵琶湖に関する状況説明等を担当した。年度後半には、琵琶湖と犬山市において準備段階として開始された防除モデル事業を検討する場において、助言等を行った。無脊椎動物の専門家としては、特定外来生物の第2次指定種の選定作業にも携わり、貝類・甲殻類の特定外来生物指定に関する議論を行った。滋賀県においても外来種問題検討委員会の一員として、県における外来種対策を有効に進めるため、独自の外来種カテゴリーの立案にかかわり、「滋賀県外来種リスト」の編纂作業も分担した。

貝類の専門家の立場としては、『滋賀県で大切にすべき野生生物～滋賀県レッドデータブック2005年版』を年度末に発刊すべく、陸産貝類の部の手直しを行い、淡水貝類の見直しにも協力した。また、環境省の貝類レッドリストの再評価において、主に淡水産巻貝類を分担し、2006年度中の改訂版レッドリストの完成に向けた作業も行った。

印刷物

【学術論文】

- Yokogawa, K., Nakai, K. and Fujita, K. (2005) Mass introduction of Florida bass *Micropterus floridanus* into Lake Biwa, Japan, suggested by recent dramatic genomic change. *Aquaculture Science*, 53 : 145-155.
- 水野敏明・中井克樹・池田三郎 (2005) 外来生物リスク問題に関する市民の認知と社会的ガバナンスへの要件—早期警戒と事前対応型リスクマネジメントに向けて—. *社会技術研究論文集*, 3 : 269-278.

【専門分野の著作】

- 中井克樹 (2005) 貝類, 外来種, 移入種, 侵略的外来種, 遺伝的攪乱, 遺伝子 (遺伝的) 汚染, 棲みつき, 定着, 野生化, 遺存種, 氷期遺存種, 海洋遺存種, 固有種, 古代湖. 陸水の辞典編集委員会, *陸水の辞典*, 講談社サイテック.
- 中井克樹 (2006) 陸産貝類. 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編), *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005 年版*, サンライズ出版, 彦根 : 509-531.
- 松田征也・中井克樹 (2006) 淡水産貝類 [各種の解説 49 種]. 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編), *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005 年版*, サンライズ出版, 彦根 : 486-506.

【一般向けの著作】

- 中井克樹 (2005) 琵琶湖で増えた動物、減った動物は、なに? *京都新聞「琵琶湖生き物たんけん」*: 2005 年 8 月 7 日.
- 中井克樹 (2005) どうして琵琶湖にしかいない動物がいるの? *京都新聞「琵琶湖生き物たんけん」*: 2005 年 8 月 7 日.
- 中井克樹 (2005) 湖と人間: 変わらぬ関係・変わった関係: 連載・第 9 回 琵琶湖の外来魚. *みんなの滋賀新聞*: 2005 年 9 月 1 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中井克樹 (2005 年 5 月 11 日) 淡水魚類の主要外来種の生息域・生息環境と生態的影響. 地球環境研究総合推進費平成 16 年度開始課題「侵入種生態リスクの評価手法と対策に関する研究」平成 17 年度研究計画会合, (独) 国立環境研究所, (独) 国立環境研究所東京事務所, 東京都, [口頭発表].
- 中井克樹 (2005 年 5 月 27 日) 琵琶湖について. 環境省第 2 回オオクチバス等防除指針検討委員会, 環境省, 経済産業省, 東京都, [口述].
- 苅部治紀・中井克樹 (2005 年 5 月 27 日) 犬山市周辺のため池について. 環境省第 2 回オオクチバス等防除指針検討委員会, 環境省, 経済産業省, 東京都, [口述].
- 中井克樹・藤田建太郎・中尾博行 (2005 年 9 月 24 日) 都道府県版レッドデータブックに見る外来魚侵入の保全上の影響. 2005 年度日本魚類学会大会, 東北大学農学部, 宮城県, [口頭発表].
- 中井克樹・藤田建太郎・中尾博行 (2005 年 10 月 29 日) 環境省レッドデータブックにみる外来魚の影響〜レッドリストの 2 度目の見直しによせて〜. 第 41 回魚類自然史研究会, 岐阜県世界淡水魚園水族館, 岐阜県, [口頭発表].
- 藤田建太郎・高野裕樹・中尾博行・中井克樹・沢田裕一 (2005 年 10 月 29 日) 琵琶湖で発見されたコクチバス. 第 41 回魚類自然史研究会, 岐阜県世界淡水魚園水族館, 岐阜県, [口頭発表].

- 中尾博行・高野裕樹・藤田建太郎・中井克樹・沢田裕一（2005年10月29日）ブルーギル卵・仔魚に対する巻貝類の捕食. 第41回魚類自然史研究会, 岐阜県世界淡水魚園水族館, 岐阜県, [口頭発表].
- 中井克樹（2005年11月17日）希少魚種に対する外来魚の影響～各県版のレッドデータブックから～. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中井克樹・藤田建太郎・中尾博行・沢田裕一（2006年1月28日～29日）琵琶湖における侵略的外来魚の影響と対策. 国際湿地再生シンポジウム2006, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].
- 中尾博行・中井克樹・沢田裕一（2006年1月29日）琵琶湖におけるブルーギルの繁殖に関する新知見の紹介. 第1回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 高野裕樹・南野洋孝・兼頭 淳・中井克樹・沢田裕一（2006年1月29日）コクチバスを琵琶湖で確認- 発見の経緯と衝撃映像. 第1回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 藤田建太郎・中井克樹・沢田裕一（2006年1月29日）コクチバス確認- その後の対応と繁殖の可能性. 第1回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中井克樹（2006年1月29日）情報・知見を生かすために～まとめに代えて～. 第1回外来魚情報交換会, 琵琶湖を戻す会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中井克樹（2006年2月20日）ブルーギルの繁殖コロニーの動態とそれを単位とした繁殖抑制. 平成17年度ブルーギル被害等影響調査事業年度末報告会, 三会堂ビル, 東京都, [口頭発表].
- 中井克樹（2006年2月21日）移殖放流と外来魚問題～情報集約の必要性～, 2005年度外来魚研究会, 中央水産研究所上田庁舎, 長野県, [口頭発表].
- 水野敏明・中井克樹・池田三郎（2006年3月8日）外来生物リスク問題に関する市民の認知と社会的ガバナンスへの要件-早期警戒と事前対応型リスクマネジメントに向けて-. 第3回社会技術研究シンポジウム, 社会技術研究会, 東京工業大学工学部1号館, 東京都.
- 中井克樹（2006年3月11日）魚類寄生虫の中間宿主となる特定外来生物カワヒバリガイの生息域拡大. 第42回魚類自然史研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 中尾博行・中井克樹・沢田裕一（2006年3月12日）琵琶湖におけるブルーギル繁殖個体の摂餌生態. 第42回魚類自然史研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- Nakai, K. (2006年3月25日) Bio-invasion in Japanese freshwaters: a review in relation to the Invasive Alien Species Act. The Second Scientific Congress of East Asian Federation of Ecological Studies; Symposium 1 "Biodiversity and Bio-invasion", 朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター), 新潟県, [口頭発表].
- Wan, Fang-Hao and Nakai, K. (2006年3月25日) Symposium 1 "Biodiversity and Bio-invasion", The Second Scientific Congress of East Asian Federation of Ecological Studies, 朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター), 新潟県, [Organizers].
- 中井克樹（2006年3月25日）オオクチバス等をめぐる法施行後の動きと課題. 第53回日本生態学会大会自由集会「外来生物法の現状と課題 特定外来生物の選定と防除をめぐって」, 朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター), 新潟県, [口頭発表].
- 岩崎敬二・中井克樹（2006年3月25日）「要注意外来生物」の考え方 現在のリストが抱える問題点. 第53回日本生態学会大会自由集会「外来生物法の現状と課題 特定外来生物の選定と防除をめぐって」, 朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター), 新潟県, [口頭発表].
- 山田文雄・中井克樹・五箇公一（2006年3月25日）自由集会「外来生物法の現状と課題 特定外来生物の選定と防除をめぐって」. 第53回日本生態学会, 朱鷺メッセ (新潟コンベンションセンター), 新潟県, [企画責任者].

【インターネットページでの公表】

中井克樹(2005年5月27日)琵琶湖について. <http://www.env.go.jp/nature/intro/control/bass02/indexa.html>,

環境省「第2回オオクチバス等防除推進検討会 議事概要」。

荻部治紀・中井克樹(2005年5月27日)犬山市周辺のため池について。<http://www.env.go.jp/nature/intro/control/bass02/indexa.html>, 環境省「第2回オオクチバス等防除推進検討会 議事概要」。

中井克樹(2006年1月28日)「水辺の生きものをおびやかす侵入者たち～外来生物の問題～」講演要旨。

<http://www.purety.jp/fish/event.htm>, 香川淡水魚研究会「香川で見られる水辺の生きもの展」。

中尾博行・中井克樹・沢田裕一(2006年1月29日)琵琶湖におけるブルーギルの繁殖に関する新知見の紹介。<http://homepage2.nifty.com/mugituku/exchange/2006/photo/nakao.pdf>, 琵琶湖を戻す会 [外来魚情報交換会]。

高野裕樹・南野洋孝・兼頭 淳・中井克樹・沢田裕一(2006年1月29日)コクチバスを琵琶湖で確認 - 発見の経緯と衝撃映像。<http://homepage2.nifty.com/mugituku/exchange/2006/photo/takano.pdf>, 琵琶湖を戻す会 [外来魚情報交換会]。

藤田建太郎・中井克樹・沢田裕一(2006年1月29日)コクチバス確認- その後の対応と繁殖の可能性。<http://homepage2.nifty.com/mugituku/exchange/2006/photo/fujita.pdf>, 琵琶湖を戻す会 [外来魚情報交換会]。

中井克樹(2006年1月29日)情報・知見を生かすために～まとめに代えて～。<http://homepage2.nifty.com/mugituku/exchange/2006/photo/nakai.pdf>, 琵琶湖を戻す会 [外来魚情報交換会]。

中井克樹(2006年2月5日)琵琶湖の外来魚その後。<http://www.geocities.jp/flbiwa/houkoku/2006/2006.html>, FLBびわ湖自然環境ネットワーク「2006年活動報告 総会とシンポジウム」。

水野敏明・中井克樹・池田三郎(2006年3月8日)外来生物リスク問題に関する市民の認知と社会的ガバナンスへの要件 - 早期警戒と事前対応型リスクマネジメントに向けて-。<http://www.shakai-gijutsu.com/ronbun/p269-278.pdf>, 社会技術研究会「第1回社会技術研究シンポジウム」。

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「内湖エコトーン」(研究代表者:前畑政善), 共同研究者(2003年度～2005年度)。

環境省平成17年度開始地球環境研究総合推進費課題「F-3 侵入種生態リスク評価研究プロジェクト」(研究代表者:五箇公一), 研究参画者(2004年度～2006年度)。

水産庁平成17年度健全な内水面生態系復元等推進委託事業「ブルーギル食害等影響調査」(中央水産研究所上田庁舎), 研究分担者(2005年度～2006年度)。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本生態学会, 自然保護専門委員会・委員, 2002年3月～2006年3月。

日本生態学会, 自然保護専門委員会・副委員長, 2004年8月～2006年3月。

日本生態学会, 自然保護専門委員会外来種問題検討作業部会・部会員, 2001年3月～。

日本生態学会, 近畿地区委員会・委員, 2000年1月～。

日本生態学会, 近畿地区会自然保護専門委員会・委員, 1998年～2006年3月。

日本魚類学会, 評議員, 2004年1月～。

日本魚類学会, 自然保護委員会・委員, 2001年2月～。

日本魚類学会, 自然保護委員会外来魚問題検討部会・部会員, 2001年2月～。

応用生態工学会, 「応用生態工学」会誌編集委員会・専門編集委員, 2000年4月～。

応用生態工学会, パートナiership委員会・委員, 2001年12月～。

日本陸水学会, 評議員, 2004年4月～2005年。

阪神貝類談話会, 理事, 2000年1月～。

山口貝類研究同好会, 査読協力員, 1996年～。

生物多様性ネットワーク新潟, 顧問, 2004年10月～。

全国ブラックバス防除市民ネットワーク, 理事, 2005年11月～。

琵琶湖外来魚研究グループ, 代表, 2005年11月～。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2005 年度後期，滋賀県立大学大学院環境科学研究科，生物多様性論。
- 2005 年度，滋賀県立大学大学院環境科学研究科・博士後期課程 4 年生（中尾博之・藤田建太郎）、修士課程 2 年生（高野裕樹）[副指導教官]，琵琶湖におけるオオクチバス・ブルーギルに繁殖生態等に関する研究。
- 2004 年 6 月，同志社大学経済学部 3 回生（奥村剛弘）[助言]，琵琶湖の外来魚対策。
- 2005 年 7 月，岐阜高等学校，琵琶湖の外来魚の影響に関する質問。
- 2005 年 8 月，愛知教育大学附属岡崎中学校，ブラックバス問題に関する課題探求。
- 2005 年 11 月 5 日，福島県立相馬高等学校，琵琶湖の外来魚対策の現状に関する質問。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10 件。
- 2005 年 4 月～2006 年 3 月，はしかけニューズレター，編集・印刷・発送，12 件。
- 2004 年 8 月 6 日，琵琶湖の貝を調べてみよう，観察会，琵琶湖博物館，副担当，（松田征也と共同）。
- 2005 年 7 月 3 日、11 月 5 日、3 月 5 日，はしかけ登録講座，琵琶湖博物館，担当，3 件。
- 2005 年 11 月 5 日，はしかけ交流会，琵琶湖博物館，担当。
- 2006 年 2 月 4 日，淡水魚を守るために，指導者のための淡水魚類学専門講座，琵琶湖博物館，講師。
- 2006 年 3 月 11 日，琵琶湖の環境調査法，琵琶湖地域をみんなで調べる実践講座（第 4 回），琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

- 2005 年 4 月 10 日，外来生物とのつきあいかた：新しい法律ができて何が変わるのか？ 岡山県自然保護センター友の会，研修会，岡山県自然保護センター（岡山県），講師。
- 2005 年 5 月 19 日，パネルディスカッション，奈良県漁業協同組合連合会，第 2 回シンポジウム「漁連の将来を考える…天然アユの復活と管理バス釣場を提唱します！」（財）奈良県広域地場産業振興センター1 階大ホール（奈良県），パネラー。
- 2005 年 5 月 21 日，外来生物：問題の考え方とつきあい方の心得，日本動物学会中国四国支部・日本植物学会中国四国支部・日本生態学会中国四国地区会，公開シンポジウム「外来生物による生物多様性の危機」，岡山大学創立五十周年記念館（岡山県），講師。
- 2005 年 5 月 25 日，ブラックバスと琵琶湖，立命館大学，2005 年度近江・草津論，立命館大学，講師。
- 2005 年 6 月 4 日，生物多様性と侵略的外来種 - ブラックバス問題から考える - ，湖南市立甲西図書館，湖南市立甲西図書館講座「環境と人間との調和を考える」，湖南市立甲西図書館（滋賀県），講師。
- 2005 年 6 月 14 日，特定外来生物としてのブラックバス - 対策の現状と課題 - ，福島県内水面漁業協同組合連合会，平成 17 年度総会，ユープル矢祭（福島県），講師。
- 2005 年 6 月 25 日，外来魚に対する基本的考え，日本魚類学会自然保護委員会，公開シンポジウム「外来魚防除最前線 - オオクチバスの駆除技術の現状と課題」，秋田大学教育文化学部大教室（秋田県），講師。
- 2005 年 6 月 25 日，パネルディスカッション「外来魚の駆除技術の現状と課題」，日本魚類学会自然保護委員会，公開シンポジウム「外来魚防除最前線 - オオクチバスの駆除技術の現状と課題」，秋田大学教育文化学部大教室（秋田県），コーディネーター。
- 2005 年 7 月 23 日，魚の観察，（財）琵琶湖・淀川水質保全機構、国土交通省近畿地方整備局、滋賀県、水資源機構関西支社、Biyo センター「自然観察会」第 1 回：魚の観察，琵琶湖・淀川水質浄化共同実験センター（滋賀県），講師。

- 2005年7月26日・27日，琵琶湖の外来魚問題，滋賀県立石部高等学校，琵琶湖探求2005（夏期集中講義），琵琶湖博物館，指導。
- 2005年8月10日，魚の観察・実習，（財）大阪府水道サービス公社，夏休み水源びわ湖親子見学会，琵琶湖博物館，実習講義。
- 2005年8月11日，淡水魚について，伊川を愛する会，こども淡水魚教室，琵琶湖博物館，講師。
- 2005年8月24日，外来生物の現状と課題，吹田市役所地球環境課，まちなか水族館講座「楽しく学ぼう！水辺の生態系」，吹田市男女共同参画センター（大阪府），講師。
- 2005年9月15日，実験施設の概要説明と観察会結果の講評，琵琶湖淀川水質保全機構，観察会，琵琶湖淀川水質浄化実験施設（滋賀県），講師。
- 2005年11月4日，琵琶湖の外来魚について指導，滋賀県立守山高等学校，課題探求，琵琶湖博物館，講師。
- 2005年11月6日，外来生物について～新しい法律と琵琶湖の現状～，千葉県立千葉北高等学校，修学旅行，大津プリンスホテル（滋賀県），講師。
- 2005年11月20日，外来生物をめぐる誤解と葛藤：理解と対策を妨げるもの，日本自然史学会連合，平成17年度自然史学会連合講演会「科学の入口“自然史”－第一線の専門家が語る10のとびら－」，大阪市立自然史博物館（大阪府），講演。
- 2005年11月23日，琵琶湖における外来魚問題，日本弁護士連合会公害対策環境保全委員会，自然保護部会調査，琵琶湖博物館，講義。
- 2005年12月3日，外来生物をめぐる諸問題，飛騨インタープリターアカデミー，飛騨きよみ自然館（岐阜県），講義。
- 2005年12月11日，放流いろいろ～よい放流とよくない放流，シナイモツゴ郷の会，情報交換セミナー，鹿島台町学童農園（宮城県），口頭発表。
- 2005年12月20日，琵琶湖生態系の現状と保全～魚類群集を中心に～，農村環境整備センター，滋賀県視察，琵琶湖博物館，講演。
- 2006年1月17日，カワヒバリガイに関する知見，豊田市矢作川研究所，カワヒバリガイ勉強会，豊田市矢作川研究所（愛知県），講義。
- 2006年1月28日，水辺の生きものをおびやかす侵入者たち～外来生物の問題～，香川淡水魚研究会，香川で見られる水辺の生きもの展，東小川児童センター（香川県），講演。
- 2006年2月5日，琵琶湖の外来魚その後，FLBびわ湖自然環境ネットワーク，シンポジウム「水辺の環境と利用を考える～琵琶湖ルール、賢明な利用とは～」，ピアザ淡海（滋賀県），講師。

視察対応

- 2005年11月2日，JICA研修（日本の環境問題への取り組みに関する視察）対応，ネパール環境教育開発センター，展示室案内。

メディアへの協力

- 2005年4月4日，名古屋テレビ，『スーパーJチャンネル』「斎藤ノススメ：止まらない！ブラックバスの被害」，琵琶湖の外来魚問題の経緯と現状、フロリダバス侵攻の現状についてインタビュー，（2005年3月29日取材）。
- 2005年4月17日，朝日新聞滋賀版，びわこのうちそと：ブラックバス解剖の巻・上 研究者に聞く：琵琶湖博物館主任学芸員・中井克樹さん（43）「数抑制、人間が天敵代わりに」，琵琶湖の外来魚対策に関するインタビュー，（2005年4月6日取材）。
- 2005年4月22日，朝日新聞（東京版）夕刊，「隣」の外来生物（1）オオクチバス：完全駆除へ動き出す，琵琶湖の外来魚対策の将来像に関する意見，（2005年4月取材）。
- 2005年5月9日，中日新聞，外来種防止法来月に施行ーバス駆除「何すれば…」，外来生物法施行を前に、バス対策の進展状況等を解説，（2005年4月21日取材）。

2005年5月22日, 朝日新聞・福岡版, ブラックバス 密放流か/離島・宍岐でも確認/希少タナゴの生息域, 「本土への影響大」とのコメント, (2005年5月取材).

2005年5月31日, 毎日新聞・山梨版, ピックアップやまなし: 「バス持ち出し」防ぎ切れるか/進特例条件への対応/監視態勢機能に疑問の声も, 外来生物法施行を契機に河口湖で実施される指導監視員制度に関する評価コメント, (2005年5月電話取材).

2005年6月4日, 日本テレビ系全国ネット, 『ウェークアップ!ぷらす』, 琵琶湖における外来魚問題の経緯についてインタビュー, (2005年5月13日取材).

2005年6月15日, 朝日新聞・東京本社(夕刊), 「伊豆沼方式バス駆除上々」人工産卵床で根こそぎ, 伊豆沼における駆除事業に関する評価コメント, (2005年6月12日取材).

2005年6月30日, 福島放送テレビ, 田子倉湖におけるオオクチバス駆除事業の視察, (2005年6月24日取材).

2005年6月26日, 秋田魁新聞, 秋田大で「日本魚類学会シンポ」/オオクチバス対策探る/4道県が駆除で報告, シンポジウム報告記事, (2005年6月25日取材).

2005年7月16日, 神戸新聞, 外来生物法施行/抑止力に賛否両論/問題解決へははじめの一步/駆除を行う主体不明確・市民の意識向上に効果, 外来生物法施行の意義に関するコメント, (2005年6月30日取材).

2005年7月26日, 東京新聞・中日新聞, 習性狙い撃ちバス駆除作戦/在来生物保存へ各地で本格始動, オオクチバス駆除への取り組みに関する概要を紹介, (2005年6月取材).

2005年8月4日, 朝日新聞, ギル繁殖 泣く琵琶湖/続く在来魚との戦い/「えり漁」水揚げの9割を占める週も, 共同研究者による研究成果紹介.

2005年8月28日, びわ湖放送, うおーたんのこどもプラス1, 質問コーナー, (2005年8月13日取材).

2005年9月17日, 京都新聞, コクチバス, 7回も確認/西浅井町沖で8月20日以降/放流の可能性/琵琶湖博物館, 資料提供およびコメント, (2005年9月16日資料提供、取材).

2005年9月17日, 中日新聞・滋賀版, コクチバス4匹確認/琵琶湖の北端付近/川の生態系に影響も/県立大院生らの水中調査などで, 資料提供およびコメント, (2005年9月16日資料提供、取材).

2005年9月17日, 毎日新聞・大阪版, コクチバス: 琵琶湖4ヶ所で確認, 資料提供およびコメント, (2005年9月16日資料提供、取材).

2005年9月17日, 産経新聞・滋賀版, 資料提供およびコメント, (2005年9月16日資料提供、取材).

2005年9月17日, みんなの滋賀新聞, コクチバス複数/西浅井町付近 放流か/琵琶湖博物館, 資料提供およびコメント, (2005年9月16日資料提供、取材).

2005年9月18日, 朝日新聞・滋賀版, 琵琶湖北部/コクチバスを確認/県立博物館「生態系へ影響考えて」, 資料提供およびコメント, (2005年9月16日資料提供、取材).

2005年9月23日, 京都新聞・京都版, 福知山市内の河川におけるオオクチバスの進出に関するコメント.

2005年10月22日, 朝日新聞・夕刊, お騒がせ外来生物: 2) 大食いバス/規制の網逃れ、分布拡大, 琵琶湖でのコクチバス発見に関するコメント, (2005年10月14日取材).

2005年11月4日, 朝日新聞, 外来魚 外貨生む/ビクトリア湖のナイルパーチ/「白スズキ」日本輸出/固有種は大半絶滅, ヴィクトリア湖における外来魚問題の経緯と現状に関する解説, (2005年10月、電話取材).

2006年1月11日, 共同通信(日本経済新聞・北海道新聞ほか), ブルーギルに天敵/巻貝、卵食べる, 共同研究者による研究成果紹介.

2006年1月22日, 京都新聞, 外来魚生息、在来魚上回る/堅田内湖/近大グループが4年間個体調査, 研究成果の重要性に関するコメント, (2006年1月17日、電話取材).

2006年2月7日, 中日新聞, ブルーギル駆除に秘策/琵琶湖などで猛威の外来魚/巻き貝卵や稚魚襲う/新型網生息場所で威力, 在来巻貝類によるブルーギル卵・仔魚捕食に関する解説・コメント(2006年2月、電話取材).

【情報整備活動】

他博物館・機関の活動

環境省，環境省編『ブラックバス・ブルーギルが在来生物群集及び生態系に与える影響と対策』の表紙写真提供，
オオクチバス、コクチバス、ブルーギル各1点。
北隆館，コクチバス，写真提供。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年7月30日、大高明史氏（弘前大学）よりカンボジア・トンレサップ湖産カワヒバリガイ類の標本資料，資料受領。

2005年8月20日、石川謙二氏（東京都在住）よりハマダモノアラガイの標本資料，資料受領。

2006年3月、東幹夫氏（長崎大学名誉教授；協力：西海区水産研究所・青沼佳方氏）より淡水魚類液浸標本一式，資料受領。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006年3月21日～4月9日，ギャラリー展示「博物館を楽しもう はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」，
主担当。

モーニングレクチャー，講演（外来生物法），3回。

他博物館・機関の活動

鮎家の郷，2005年4月29日～5月8日，ゴールデンウィーク特別展示「琵琶湖の自然を考えてみませんか」，解説
パネルの執筆。

国立科学博物館，2005年8月28日まで，「特定外来生物」展，オオクチバス、コクチバス、ブルーギルの写真提供。
小山市立博物館，2006年9月～11月，第50回企画展「外国からやってきた生き物たち～生き物のふるさと調べ～」，
琵琶湖周辺の外来生物に関する取材対応。

【企画調整活動】

2005年度新人研修展示案内，C展示室 「琵琶湖の環境と変化」，2004年4月20日。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1997年度～，滋賀県，生きもの総合調査 魚・貝類部会，委員。

2003年5月～2006年3月，滋賀県，移入種問題検討委員会，検討委員および水生生態系部会員。

2004年度～2006年3月，滋賀県，移入種問題庁内連絡会議，幹事および水生生態系分科会委員。

2004年7月～2006年3月，兵庫県自然環境保全課，播磨ため池群保全・再生活動実施計画検討会，委員。

1997年度～，環境省，希少野生動植物保存推進員，推進員。

2003年度～，環境省，絶滅のおそれのある野生動植物種の選定・評価検討会 陸・淡水産貝類分科会，検討委員。

2004年10月～，環境省，外来生物分類群専門家グループ（無脊椎動物），検討委員。

2005年4月～6月，環境省，オオクチバス等防除指針検討会，検討委員。

2005年度，環境省，琵琶湖オオクチバス等防除モデル事業検討会，委員。

2005年度，環境省，犬山市オオクチバス等防除モデル事業検討会，委員。

2004年8月～，国土交通省琵琶湖河川事務所，河川保全利用委員会，委員。

1999年2月～，(財)リバーフロント整備センター，河川水辺の国勢調査スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員.

1999年10月～，(財)ダム水源地環境整備センター，河川水辺の国勢調査(ダム湖版)スクリーニング委員会底生動物スクリーニング・グループ，委員.

2005年度の研究活動は、2002年度から2004年度にかけて実施された共同研究「琵琶湖水系におけるイワナの地理的分布とその形成過程」のとりまとめと、専門研究「琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの関係」に関する継続調査と論文の執筆を行った。また、事業系の研究として、2005年度開催された水族企画展示「飛ぶことを忘れた虫たち- オサムシのくらし-」に関連して、2004年度から引き続きバイオリン虫の飼育研究、それに希少魚の保護増殖関係としてタナゴモドキの繁殖に取り組んだ。ただ、2005年度前半は、本館および水族の企画展示の開催に向けて相当な時間と労力を費やさざるを得なかったため、研究活動の推進が思うに任せないところがあった。

イワナの共同研究については、マイクロサテライトデータの正確な読み取りに苦勞し、分析するローカスの数が3つしか得られておらず、琵琶湖水系における遺伝情報に基づくイワナの個体群構造について、考察を進めるには不十分であったが、2004年度末に、より精度の高い読み取り法を入手したため、2005年度さらに4つのローカスについて分析を行ない、より正確な考察を行うことが可能となった。現在これらのデータについて解析を進めているところであり、できるだけ早い時期に論文化するよう作業を行っている。

専門研究については、「ビワマスにおける早期遡上群の存在」と題した論文を完成し、2006年2月に魚類学雑誌に投稿したところである。ビワマスの河川への遡上時期についてはこれまで産卵直前とされていた。しかし、琵琶湖水系において初夏の頃に遡上するマス一群のあることは昔から知られていたが、これについて検討されることはなかった。今回投稿した論文では、この早期に遡上する一群について形態とミトコンドリアDNAをマーカーとして用いることにより、これらの早期遡上群がビワマスなのかどうかということについて検討すると共に、これらの一群と琵琶湖流入河川の支流に生息するとされるアマゴとの関係について考察を行ったものである。また、2006年度から開始される共同研究「河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性」をめざして、2005年度中に集めた琵琶湖内で漁獲されるサツキマス標本の分析を開始した。

バイオリン虫については、それまで国内での飼育例が3例ほどと極端に少なく、しかも動物園・水族館関係で生きた状態で展示された例は多摩動物公園での1例しかない。そのため、飼育下での餌や飼育環境などの飼育条件がほとんど不明であった。今回は、約4ヶ月間開催される企画展示に向けて、長期飼育をめざしたものである。その結果、生きた小昆虫を餌として与え、結露しないよう注意しながら比較的高湿度の環境を維持し、20-25℃という温度を維持してやることで、2ヶ月以上にわたって飼育展示することができるようになった。さらに、夏期の高湿下での輸送に極端に弱く、この時期に入荷した個体については、飼育がきわめて困難であることが判明した。

タナゴモドキについては、1998年度に開催された水族企画展示「南の島のさかなたち」以来飼育を続けているが、孵化仔魚の体長が約1.2mmときわめて小さいことから、最初に餌を食べさせることがきわめて困難であった。2005年度は、シオミズツボムシのssタイプを餌として使用する事により、最初の餌を食べさせることに成功し、約1ヶ月体長3mm弱にまで飼育することができるようになった。しかし、本種は孵化仔魚がすぐに海に流下し、生活初期を海で過ごす。このことが、当館においてなかなか繁殖育成がうまく進まない事の原因となっている。ただ、2005年度にアクアマリンふくしまで本種の繁殖育成に成功しており、当館としては後れをとってしまった形となった。

印刷物

【専門分野の著作】

桑原雅之(2005)滋賀県立琵琶湖博物館の事例-水族館における希少魚保存の試みと課題. 森 誠一・片野 修(編), 希少淡水魚の現在と未来-積極的保全のシナリオ-, 信山社: 361-367.

【一般向けの著作】

- 桑原雅之 (2005) 湖国の住人 No. 19 タガメ. パドタウンマガジン, 23, 株式会社バイサイドプランニング: 36.
- 桑原雅之・孝橋賢一・長田智生・布施幸江・佐々木 剛 (2005) オサムシを飼ってみよう. 八尋克郎・榎永一宏 (編), 歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫の不思議発見一, 琵琶湖博物館: 120-121.
- 桑原雅之・孝橋賢一・御葉袋 聡・岡田 隆・布施幸江・杉野由佳 (2005) 飛ぶことを忘れた虫たちーオサムシのくらしー. 企画展関連展示リーフレット, 琵琶湖博物館: 8p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 桑原雅之・井口恵一朗・来見誠二・亀甲武志 (2005年6月12日) 琵琶湖水系のイワナはどこから来たのかー琵琶湖水系に生息するイワナの地理的分布とその形成過程ー. 2005年度ゴリ研究会, 和歌山県立自然博物館, ホテル古賀之井, 和歌山県, [口頭発表].
- 布施幸江・桑原雅之・佐々木 剛 (2005年6月14日) バイオリンムシの飼育の可能性について. 第71回近畿ブロック水族館飼育係研修会, 社団法人 日本動物園水族館協会, 京都大学白浜水族館, 和歌山県, [口頭発表].
- 足立友克・佐原雄二・桑原雅之 (2005年9月18日) カイツブリのエササイズおよびエサ種選択実験. 日本鳥学会 2005年度大会, 日本鳥学会, 信州大学旭キャンパス, 長野県, [ポスター発表].
- 桑原雅之・井口恵一朗・亀甲武志・来見誠二 (2006年2月17日) 河川残留型を含むビワマス地域個体群存在の可能性, 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖水系におけるビワマスとアマゴの関係」(2005年度).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2005年5月16日～20日, 西海パールシーセンター 百武可奈子, 博物館における資料の保存と取り扱いについて.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアートーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 9件.
- 2005年7月23日, 漁船に乗ってビワマス漁を見てみよう, 見学会, 湖北町尾上, 副担当, (孝橋賢一と共同).
- 2005年8月4日, 水族資料説明, 博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年8月5日, カメの飼い方, 生き物飼い方講座, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年10月30日, ビワマスの採卵現場を見学してみませんか, 観察会, マキノ町知内, 主担当, (孝橋賢一と共同).
- 2006年3月5日, 水族展示の舞台裏, 見学会, 琵琶湖博物館, 講師, (前畑政善・秋山廣光・松田征也・孝橋賢一と共同).

他の博物館・機関等主催行事

- 2005年6月1日, 伯母川探検, 草津市立志津小学校, 講師, (谷口雅之・中村公一・秋山廣光・松田征也と共同).
- 2005年7月21～22日, 琵琶湖探求 2005, 滋賀県立石部高校, 夏期集中講義, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月9日，第29回自然調査ゼミナール，滋賀県中学校教育研究会，琵琶湖博物館，講師.

2006年1月25～27日，職場実習，滋賀県立瀬田工業高校，琵琶湖博物館，講師.

メディアへの協力

2005年10月11日，NHK 大津放送局，おうみ発610「琵琶湖クローズアップ」，出演.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族資料収集，主担当.

水族資料維持管理，主担当.

水族資料譲与，2件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

水族展示，維持管理.

モーニングレクチャー，講演，3回.

2005年7月16日～11月27日，第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」，副担当.

2005年7月16日～11月27日，企画展関連展示「飛ぶことを忘れた虫たちーオサムシのくらしー」，主担当.

2006年3月4日～4月9日，ギャラリー展「子どもが見つめるふるさとの川ーこどもエコクラブ伯母Q五郎のたからものー」，アドバイザー.

【企画調整活動】

新人水族研修「水族を支える設備とスタッフ」，講師，2004年4月21日，会議室.

研修生受け入れ調整，西海パールシーセンター 百武可奈子，2005年5月16日～20日.

湖と人間というテーマをもつ琵琶湖博物館にとって、自然環境との共存が可能な人間の社会組織や価値観の解明は重要な課題である。本年度は昨年度に引き続き、現代の琵琶湖とその集水域の農村という具体的なフィールドを設定し、事例分析によって環境共存の可能性という課題に迫ることを目的として、次の二つの分野について調査を行った。

(1) いわゆる「鎮守の森」のように、信仰上の理由によって、農村の人々が共同で維持してきた森林等の保護の仕組みとその変容過程の解明である。生産に利用されてきた里山等の自然とはことなる自然について、その保護の仕組みを、人々がつくる組織および価値観に即して解明することにより、環境共存の代表的研究であるコモンズの研究に新たな視点を加える意図がある。具体的には、鳥獣「被害」という問題を切り口に課題に迫ろうとした。里山として利用されてきた、愛知県美浜町上野間区の「鶉の山」の森林と竹生島の森林におけるカワウ営巣による枯損「被害」認知の比較検討を通して、竹生島について、森林保護の組織と価値観および、保護の仕組みとその変容過程を解明するための仮説をえた。その一端は、研究会で報告を行ない、有意義なコメントを得た。2006年度には成果の一部を公表するとともに、得られた知見および収集したデータをいかし、生態学および歴史民俗学という異分野の研究者との共同研究によって、さらに仮説を深化させる予定である。

もう一つは(2) 現代の琵琶湖湖岸域の農村における、土地を介した人々の社会関係とその変化の解明である。琵琶湖の湖岸域は、伝統的には「むら」に住む人々が共同で維持してきた土地だったとされている。しかしながら、湖岸域の資源利用の必要性の減少に伴い、人々が湖岸域の自然とどのようにかかわって行くのが注目されている。2005年度には、その事例として、現代の湖辺農村におけるヨシの利用を取り上げ、三つの地域を調査しデータを得た。その一部は、2006年度中に公表される予定である。また、2006年度は、筆者が関わってきた総合研究「東アジアのなかの琵琶湖—コイ科魚類の展開を中心として—」についてまとめを行う年にあたっている。とりまとめに向けて、本年度は湖北の農村を中心に、補足調査を行ない、その内容の一端を中間報告というかたちで博物館の研究報告会において報告した。

印刷物

【一般向けの著作】

牧野厚史（2005）環境再生の目標と地域文化。うみんど、35、琵琶湖博物館：7。

牧野厚史（2005）うみっこ、編集・発行、18・19、琵琶湖博物館：4p。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

牧野厚史（2005年5月20日）環境再生と住民組織—琵琶湖湖岸域の環境再生事業。琵琶湖博物館研究セミナー、琵琶湖博物館、[口頭発表]。

牧野厚史（2005年6月4日）車座会議 あなたの川知っていますか？、琵琶湖博物館ギャラリー展示関連企画、琵琶湖博物館・滋賀県土木部河港課・水と文化研究会、琵琶湖博物館、[進行]。

牧野厚史（2005年11月20日）水辺は誰のもの—生活環境としての水辺の再検討—。琵琶湖博物館研究発表会、琵琶湖博物館、[口頭発表]。

牧野厚史（2005年11月20日）総合討論．琵琶湖博物館研究発表会，琵琶湖博物館，[司会]．

牧野厚史（2006年1月20日）歴史的に保護されてきた森林に生じる鳥獣害問題についての社会史的研究－滋賀県東浅井郡びわ町竹生島における森林「被害」問題－．環境／文化研究会関西例会，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

牧野厚史（2006年1月29日）第2分科会：多様で重層的な湿地の利用と再生，国際湿地再生シンポジウム2006，環境省・国交省・文化庁・県・ラムサールセンターほか，大津プリンスホテル，滋賀県，[座長]．

牧野厚史・NPO法人びわ湖豊穰の郷（2006年3月18日）身近な暮らしの調査法．博物館連続講座，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

【研究プロジェクト等への参加】

関西学院大学21世紀COEプログラム『人類の幸福に資する社会調査』の研究，「幸福のフィールドワーカー実存と実践の比較社会学的方法の確立をめざして－」（研究代表者：古川 彰），分担者，（2003～2008年度）．

科学研究費萌芽研究，「コモنزとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」（研究代表者：牧野厚史），研究代表者，（2004～2005年度）．

滋賀大学総合環境研究所プロジェクト研究，「水辺エコトーンにおける伝統的生業活動とコモنزの変容に関する研究」（研究代表者：佐野静代），分担者，（2005年度～）．

科学研究費基盤研究（B），「半栽培（半自然）と社会的しくみについての環境社会学的研究」（研究代表者：宮内泰介），分担者，（2005～2007年度）．

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

環境社会学会，環境社会学研究，査読，4件．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005年4月～9月，龍谷大学社会学部，琵琶湖・滋賀学．

2005年9月～2006年3月，関西学院大学社会学部，地域・生活・環境特論A．

2005年5月13日，JICA研修生，Public Participation Concept of Exchange Activities at L.B.M.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，担当者，12件．

地域支援，琵琶湖博物館，講演・案内等，7件．

他の博物館・機関等主催行事

2005年10月15日，第6回草津市パワフル交流市民21，第6回パワフル交流市民21実行委員会，ひろめよう市民の輪・まちづくりの輪，草津まちづくりセンター，草津市，参加．

メディアへの協力

2005年5月21日，みんなの滋賀新聞，民家，取材・記事校正，（2005年5月13日取材）．

2005年11月13日，朝日新聞，びわこのうちそと，取材，（2005年11月6日取材）．

2005年11月30日，京都新聞，淡海と人と 10年目の琵琶湖博物館，（2005年11月20日取材）．

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年4月23日～6月26日，ギャラリー展示「淡海の川」，製作分担（ヒアリング資料作成等）．

2006年3月21日～4月9日，博物館を楽しもう，広報（チラシ作成、オープニング等）．

モーニングレクチャー，講演，3回．

【企画調整活動】

新任職員研修，講師，2005年4月19日，琵琶湖博物館．

博物館実習，講師，2005年8月4日，琵琶湖博物館．

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

滋賀県琵琶湖環境部水政課，早崎内湖再生委員会，委員．

滋賀県琵琶湖環境部水政課，琵琶湖漁業動態環境調査会議，メンバー．

2004年度に引き続き、魚群探知機を用いた南湖の沈水植物の分布状況のモニタリングと、琵琶湖産二枚貝の貧酸素耐性に関する研究を行った。また、これまでの研究成果をまとめて論文として投稿し、3本が受理された。

1. 沈水植物の分布状況のモニタリング

南湖の沈水植物の分布範囲や群落容積は前年度とほぼ同様だったが、柳ヶ崎沖に見られた2km四方の大群落が消失しており、群落の分布が安定していないことが明らかになった。11月に魚群探知機の発振器が劣化していることがわかり、魚群探知機の画像から沈水植物の現存量を推定することができなくなった。問題解決のためには、定量採取を行って再キャリブレーションを行う必要があり、その時期について検討中である。

2. 琵琶湖産二枚貝の貧酸素耐性

タテボシガイとセタシジミについて、貧酸素下 (0.1 mg l^{-1}) での飼育実験を6月23日~7月25日の34日間ならびに8月12日~9月30日の49日間の2回行った。水温について20°C、25°C、30°Cの3区画を設け、窒素ガスによるバブリングで溶存酸素濃度を低下させた実験区とエアレーションにより酸素を飽和状態に保った対照区で生残数を記録した。

タテボシガイのLD₅₀とLD₁₀₀は30°Cで6日、15日だった。25°Cでは12日と18日、20°Cでは21日、30日だった。セタシジミのLD₅₀とLD₁₀₀は30°Cで6日と18日、25°Cでは19日と40日、20°Cでは33日と49日だった。以上の結果から、タテボシガイとセタシジミの貧酸素耐性は水温に依存すること、タテボシガイよりセタシジミのほうがやや耐性が強いこと、いずれの種も40日以上貧酸素状態には耐えられないことが明らかになった。他の文献との比較から、タテボシガイとセタシジミの貧酸素耐性は、海産のアサリやホトトギスガイに比べて著しく強く、汽水産のヤマトシジミにほぼ匹敵すると考えられた。

次に、タテボシガイの貧酸素対応の仕組みを調べるため、貧酸素環境下 (0.1 mg l^{-1}) と酸素飽和環境下でタテボシガイを16日間飼育し、体内の有機酸濃度の経時的な変化を計測した。その結果、海産二枚貝やヤマトシジミに見られるようなコハク酸の蓄積はなく、1日目からプロピオン酸が蓄積することが明らかになった。このような有機酸の体内挙動はヤマトシジミや海産二枚貝とは異なっており、貧酸素に適応する仕組みが異なる可能性が示唆された。

3. 論文の投稿

イ. 「琵琶湖南湖における湖底直上の溶存酸素濃度と沈水植物群落現存量の関係について」

著者：芳賀裕樹，芦谷美奈子，大塚泰介，松田征也，辻彰洋，馬場浩一，沼畑里美，山根 猛
雑誌：陸水学雑誌 Vol. 67 No. 1 (印刷中)

ロ. 「琵琶湖南湖の面積について」

著者：芳賀裕樹
雑誌：陸水学雑誌 Vol. 67 No. 2 (印刷中)

ハ. 「2002年夏の琵琶湖南湖における沈水植物の現存量と種組成の場所による違い」

著者：芳賀裕樹，大塚泰介，松田征也，芦谷美奈子
雑誌：陸水学雑誌 (受理済み)

印刷物

【専門分野の著作】

芳賀裕樹 (2005) 陸水の辞典. 日本陸水学会, 講談社.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 芳賀裕樹（2005年4月16日）魚群探知機で沈水植物をモニタリングする。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 芳賀裕樹（2005年9月20日）2003～2004年の琵琶湖南湖の沈水植物の分布の推移について。日本陸水学会第70回大会，日本陸水学会，大阪教育大学，大阪府，[口頭発表].
- 面田美紀・一瀬 諭・若林徹哉・原 良平・藤原直樹・芳賀裕樹（2005年9月20日）琵琶湖南湖沿岸帯におけるカビ臭アオコ発生機構の検討―水質調査結果―。日本陸水学会第70回大会，日本陸水学会，大阪教育大学，大阪府，[口頭発表].
- 面田美紀・一瀬 諭・若林徹哉・原 良平・藤原直樹・芳賀裕樹（2005年9月20日）琵琶湖南湖沿岸帯におけるカビ臭アオコ発生機構の検討―生物調査結果―。日本陸水学会第70回大会，日本陸水学会，大阪教育大学，大阪府，[口頭発表].
- 浜端悦治・芳賀裕樹（2005年9月21日）琵琶湖での沈水植物群落の20年間の変遷―深い主湖盆と浅い副湖盆での事例―。日本陸水学会第70回大会，日本陸水学会，大阪教育大学，大阪府，[口頭発表].
- 芳賀裕樹（2006年3月2日）点検、その効用と問題点―琵琶湖博物館の場合―。シンポジウム「誰にもやさしい博物館づくり」，日本博物館協会，大阪歴史博物館，大阪市，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖南湖の沈水植物のモニタリング」（2005年度）。
- 琵琶湖博物館共同研究「琵琶湖産二枚貝類の低酸素環境耐性ならびに適応について」（研究代表者：芳賀裕樹），（2004年4月～2006年3月）。
- 滋賀県琵琶湖・環境科学研究センター「琵琶湖南湖沿岸帯におけるカビ臭アオコ発生機構の検討」（研究代表者：一瀬 諭），研究分担者（2004年4月～）。
- 琵琶湖市民調査団共同研究「琵琶湖のレジャー利用・水上バイクが琵琶湖周辺環境に与える影響」（研究代表者：石田紀朗），研究分担者（2005年4月～2006年3月）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 日本陸水学会，広報幹事，2003年4月～2006年3月。
- 日本陸水学会，陸水学雑誌，査読，1件。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10件。
- 2005年7月28日～30日，先生のための湖沼学基礎講座，琵琶湖博物館，講師，（中村公一・谷口雅之・孝橋賢一共同）。
- 2004年8月7日，ユニバーサルデザイン実習，博物館実習，琵琶湖博物館，講師。
- 2006年1月16日，琵琶湖と水環境教育，JICA集中，琵琶湖博物館，講師。

他の博物館・機関等主催行事

2005年8月25～28日，琵琶湖市民大学，滋賀県立彦根東高等学校，琵琶湖市民大学，朝日会館（滋賀県湖北町），講師。

2005年9月26日，水質調査，滋賀県立東大津高等学校，校外実習，琵琶湖博物館，講師，（楠岡 泰共同）。

視察対応

2005年4月24日，展示解説，昆明市。

メディアへの協力

2006年2月7日，京都新聞，水草繁茂 湖底は低酸素 夏の琵琶湖・南湖 県博物館が調査，資料提供，（2006年2月5日取材）。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，2回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2005年11月～2006年2月，滋賀県環境部環境政策課，水環境ビジョン検討委員会，委員。

この1年間は、文部科学省科学研究費補助金の若手研究(B)「カワウの物質輸送が森林の昆虫相に与える影響の解明」(2004～2005年度、研究代表者：亀田佳代子)および萌芽研究「コモンズとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」(2004～2005年度、研究代表者：牧野厚史)を中心に、これらに河川財団の研究を絡ませながら、調査分析を行ってきた。野外調査については、必要な季節や時期に行う必要があったため、研究活動としては最優先で実施した。そのため、野外調査はほぼ予定通りに進めることができた。また、学会や研究会、セミナーでの発表を何度か行うことで、定期的に結果の取りまとめを行うことができた。一方、採集した試料の分析やデータ解析は、後回しにした分あまり進んでいない。次年度にはこれらの分析や解析を進め、研究の取りまとめを行いたい。

研究成果の発信としては、以前行った琵琶湖博物館共同研究の成果として、共著論文2報が *Plant and Soil* と *Soil Biology and Biochemistry* に掲載された。また、国際学会の論文集として投稿していた主著論文1報が、*Hydrobiologia* 特別号に受理された。また、これまで数年間行ってきた研究の集大成として、研究報告書の準備を開始した。共同研究者との議論や検討の結果、研究報告全体の方針と目次、担当部分の割り振りは決定している。次年度には、本格的な原稿執筆に取りかかりたい。

研究以外の活動では、企画調整課の業務として、「琵琶湖博物館中長期基本計画」にもとづく「琵琶湖博物館中長期基本計画第二段階(2006年度～2010年度)活動計画」を作成した。また、年報と要覧の編集と発行を行った。「第二段階活動計画」は全くの新規作業であり、年報については各事業の自己評価の追加、要覧については上記の中長期基本計画および「琵琶湖博物館展示交流空間の更新整備に関する計画」の内容の反映が、新規作業となった。どれも、企画調整課の他の職員の協力を得て年度内には完成したが、作業自体は年度後半にずれこんでしまった。今後は作業開始を早めることと、作業自体の効率化が必要である。

専門分野に関わる博物館事業としては、鳥類の標本資料整理と鳥類関係の交流事業を行った。標本製作については上半期での実施を目指したが、野外調査や報告書の締切など、季節や時期が限られる業務を優先したため、実現できなかった。観察会については、2004年度より外部団体との共催事業を行っている。今後はさらに内容を充実させ、中長期基本計画の目標を実現できるような活動に、徐々に発展させていければと考えている。

2005年度は、研究に関わる個別の質問や講師依頼もだんだんと増えてきた。博物館の交流・サービス機能の向上としてこれらの需要に応えるためには、一般向けの研究発信も必要である。今後は、これについてもさらに充実させていきたいと考えている。

印刷物

【学術論文】

- Hobara, S., Koba, K., Osono, T., Tokuchi, N., Ishida, A. and Kameda, K. (2005) Nitrogen and phosphorus enrichment and balance in forests colonized by cormorants: implications of the influence of soil adsorption. *Plant and Soil*, 268 : 89-101.
- Osono, T., Hobara, S., Koba, K., Kameda, K. and Takeda, H. (2006) Immobilization of avian excreta-derived nutrients and reduced lignin decomposition in needle and twig litter in a temperate coniferous forest. *Soil Biology and Biochemistry*, 38 : 517-525.

【専門分野の著作】

亀田佳代子 (2005) 水域から陸域へのカワウの物質輸送が流域森林の昆虫相に与える影響. 平成 16 年度河川整備基金助成事業報告書, (財) 河川環境管理財団 : 20p.

【一般向けの著作】

- 亀田佳代子・小嶋健司・近 雅博・武本大輔・八尋克郎 (2005) 飛ばない虫と飛ぶ鳥との遭遇—カワウの営巣と森林の甲虫類との関係—. 八尋克郎・榎永一宏 (編), 第 13 回企画展示解説書, 琵琶湖博物館, 草津市 : 94-95.
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「カワセミ (カワセミ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 4 月 6 日.
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「ハクセキレイ (セキレイ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 4 月 13 日.
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「コサギ (サギ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 4 月 20 日.
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「アマサギ (サギ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 4 月 27 日.
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「アオサギ (サギ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 5 月 4 日.
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「オオヨシキリ (ウグイス科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 5 月 18 日.
- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「カワウ (ウ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 5 月 25 日.
- 亀田佳代子 (2006) 多彩な顔ぶれの湖西の鳥たち. 今森光彦・今森洋輔 (著), *琵琶湖里山ふるさと散歩*, 新潮社, 東京 : 44-45.

【これまでの業績集に掲載されていない著作】

- 亀田佳代子 (2005) 湖国の鳥「ユリカモメ (カモメ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 1 月 19 日.
- 亀田佳代子 (2005, 湖国の鳥「ハシビロガモ (カモ科)». *あいあい AI 滋賀*, 朝日新聞 : 2005 年 2 月 16 日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 亀田佳代子・八尋克郎 (2005 年 8 月 19 日) カワウの営巣が森林の甲虫類に与える影響. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子・八尋克郎 (2005 年 9 月 17 日) カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化. 日本鳥学会 2005 年度大会, 日本鳥学会, 信州大学旭キャンパス, 長野県, [口頭発表].
- 亀田佳代子・八尋克郎 (2005 年 12 月 18 日) カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化. 2005 年度日本昆虫学会近畿支部大会, 日本昆虫学会近畿支部, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子・八尋克郎 (2006 年 1 月 22 日) カワウの営巣が森林の昆虫群集に与える影響. 日本鳥学会員近畿地区懇談会第 84 回例会, 日本鳥学会員近畿地区懇談会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子・保原 達・大園享司・木庭啓介・石田 朗・八尋克郎 (2006 年 1 月 28-29 日) カワウによる水域から陸域への物質輸送と環境変化の影響. 国際湿地再生シンポジウム 2006, 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].
- 亀田佳代子・八尋克郎・近 雅博 (2006 年 3 月 1 日) カワウの営巣が森林の昆虫群集に与える影響. 第 43 回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].
- 亀田佳代子 (2006 年 3 月 1 日) カワウの営巣が森林生態系に与える影響—鳥類による物質輸送と環境変化作用—. 第 43 回琵琶湖博物館特別研究セミナー, 琵琶湖博物館, [企画・運営].
- Kameda, K., Yahiro, K. and Kon, M. (2006 年 3 月 26 日) Direct and indirect effects of the great cormorant on a beetle community in a forest. 2nd. Scientific Congress of East Asian Federation of Ecological Societies, East Asian Federation of Ecological Societies, 朱鷺メッセ, 新潟県, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

文部科学省科学研究費補助金（若手研究 B）「カワウの物質輸送が森林の昆虫相に与える影響の解明」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2004～2005 年度）。

文部科学省科学研究費補助金（萌芽研究）「コモنزとしての森林に生じる鳥獣害問題についての環境社会学的研究」（研究代表者：牧野厚史），研究分担者（2004～2005 年度）。

河川環境整備財団河川整備基金助成「水域から陸域へのカワウの物質輸送が流域森林の昆虫相に与える影響」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2004 年 6 月～2005 年 5 月）。

琵琶湖博物館共同研究「カワウの物質輸送に関する研究成果の整理と統合」（研究代表者：亀田佳代子），研究代表者（2005 年度）。

琵琶湖博物館専門研究「カワウの物質輸送が森林の昆虫相に与える影響の解明」（2005 年度）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本鳥学会評議員，2006 年 1 月～2007 年 12 月。

日本鳥学会 IOC（国際鳥学会）日本開催検討委員，2006 年 2 月～2007 年 1 月。

日本鳥学会企画委員会委員長，2002 年 1 月～2005 年 12 月。

日本鳥学会企画委員会委員，2006 年 1 月～2007 年 12 月。

日本鳥学会ホームページ委員会委員，2000 年 1 月～2005 年 12 月。

日本鳥学会奨学賞選考委員会委員，2004 年 1 月～2005 年 12 月。

日本鳥学会員近畿地区懇談会世話人，2000 年 1 月～。

日本生態学会近畿地区会地区委員，2004 年 1 月～2005 年 12 月。

日本生態学会，保全生態学研究，論文の査読，2 件。

日本鳥学会，Ornithological Science，論文の査読，1 件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005 年度後期，滋賀県立大学大学院，生物多様性論（分担）。

2004 年 8 月 19～23 日，西海パールシーセンター学芸員，学芸員研修（鳥類資料）。

2005 年 12 月 20 日，ビジュアルアーツ専門学校学生，卒業制作（カワウに関する番組作成のためのインタビュー）。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 10 件。

2006 年 1 月 15 日，下物の水鳥を観察してみよう，観察会，琵琶湖博物館とその周辺，主担当（日本野鳥の会滋賀支部共催）。

他の博物館・機関等主催行事

2005 年 8 月 27 日，カワウの営巣が水辺の森林に与える影響，三重県立伊勢高校生物部，文部科学省サイエンスパートナーシップ事業，琵琶湖博物館，講師。

2005 年 10 月 6 日，カワウ野外観察実習，三重県立伊勢高校生物部，文部科学省サイエンスパートナーシップ事業，三重県立伊勢高校（三重県伊勢市），講師。

メディアへの協力

みんなの滋賀新聞，今森洋輔氏の絵画記事，解説文への資料提供と助言，（2005 年 5 月 6 日取材）。

2005年6月12日, みんなの滋賀新聞野洲川のカナダガンについて, (2005年5月6日取材).

2005年6月7日, BBCびわこ放送, 県政テレビタ刊プラス1, 琵琶湖のカワウと食性について, (2005年6月3日取材).

みんなの滋賀新聞, 今森洋輔氏の絵画記事, ルリビタキの解説文への資料提供と助言, (2005年6月1, 3日取材).

共同通信, カワウに関する取材と資料提供, (2005年7月22日取材).

山陽放送, ニュースワイドTAKE5, 岡山・香川でのカワウの増加と琵琶湖の現状について, (2005年7月29日取材).

2005年8月1日, 朝日放送, ムーブ!, 琵琶湖や竹生島のカワウについて, (2005年7月29日取材).

2005年12月20日, NHKラジオ第一放送, 関西ラジオワイド, カワウが増えた要因と対策について, (2005年12月9, 20日取材).

2005年12月28日, NHKラジオ第一放送, 暮らしこの一年, カワウが増えた要因と対策について, (2005年12月9, 20日取材).

2006年3月1日, NHK, 関西ニュース, 第43回琵琶湖博物館特別研究セミナーの内容について, (2006年3月1日取材).

2006年3月2日, 京都新聞, 第43回琵琶湖博物館特別研究セミナーの内容について, (2006年3月1日取材).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

鳥類本剥製標本および骨格標本の製作, 手続き, 47件.
鳥類標本の整理・登録, 指導, 154件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう(琵琶湖の水鳥), 内容指導.
モーニングレクチャー, 講演, 3回.

【企画調整活動】

中長期基本計画の推進, 主担当.
年報9号出版, 編集, 2005年12月1日.
要覧第七版出版, 編集, 2006年1月1日.

【研究部関連事業】

生態系研究領域の研究推進, 副担当.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

1997年4月1日～2006年3月31日, 京都大学生態学研究センター協力研究員.
2001年7月17日～2005年8月31日, 滋賀県大津市, 大津市環境影響評価専門委員会, 委員.
2003年5月1日～2006年3月31日, 滋賀県移入種問題検討委員会, 委員.
2003年7月1日～2006年3月31日, 滋賀県生きもの総合調査, 専門委員.
2004年4月1日～2006年3月31日, 滋賀県カワウ対策検討会, 委員.
2004年10月1日～2007年3月31日, 林野庁近畿中国森林管理局, 伊崎国有林の取扱いに関する検討におけるワーキンググループ, 委員.

印刷物

【専門分野の著作】

矢野晋吾（2005）書評論文「古川彰著『村の生活環境史』」.*村落社会研究*, 1 (12), 日本村落研究学会, 東京都 : 49-50.

【一般向けの著作】

矢野晋吾（2005）*近江の酒蔵*. 家鴨あひる（編）, サンライズ出版, 滋賀県 : 108-109.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

矢野晋吾（2005年4月2日）村落社会学・労働社会学の実証的研究の手法. 社会調査研究会, 社会調査研究会, 早稲田大学, 東京都, [口頭発表].

矢野晋吾（2005年11月12日）自由報告セッションE. 日本村落研究学会第53回大会, 日本村落研究学会, いち柳ホテル, 山梨県, [座長].

【研究プロジェクト等への参加】

科学研究費補助金 基盤研究（B）（1）「半裁倍（半自然）と社会的仕組みについての環境社会学的研究」（研究代表者：宮内泰介）, 共同研究者（2005～2007年度）.

琵琶湖博物館専門研究「琵琶湖及び内湖湖岸における水辺利用に関する研究」,（2004年度）.

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本村落研究学会, 研究委員, 2002年度～.

【受賞など】

資格取得, 矢野晋吾, 2005年9月30日, 専門社会調査士資格.

学会賞受賞, 矢野晋吾, 2005年11月12日, 日本村落研究学会研究奨励賞.

資格取得, 矢野晋吾, 2005年11月28日, 普通救命講習（I）修了.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月9日, アジア文化と琵琶湖, 追手門学院大学, 琵琶湖博物館, 講義.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

2005 年度，質問情報の公開に向けての内容整備に関すること。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー，講演，3 回。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2000 年～，滋賀県琵琶湖環境部，琵琶湖総合保全推進部会評価システム検討ワーキング，ワーキング担当者。

2000 年～，滋賀県琵琶湖環境部，琵琶湖総合保全推進部会水辺エコトーン検討ワーキング，ワーキング担当者。

内容および関与の程度が多岐にわたるため、自分が中心になって進めている研究で、かつ本年度に結果が出てきた3課題のみについてその成果を記す。いずれも珪藻の分類学あるいは応用生態学の成果として位置付けられる。

① 南極湖沼底の微生物マット中に含まれる珪藻の研究

南極東部・スカルプスネス露岩地帯の淡水湖沼底は、たいがい厚い微生物マットに覆われている。本研究では、この微生物マットに含まれる珪藻を分類学的に検討するとともに、珪藻の種組成と環境条件との対応を明らかにした。スカルプスネス湖沼群に属する13の湖沼で、微生物マットの試料を採集するとともに、環境条件を測定した。*Amphora* sp. (*A. veneta* sensu lato) が13試料中11試料で優占した。他の2試料では *Craticula* sp. (*C. molesta* sensu lato) and *Diademsis* sp. (*D. perpusilla* sensu lato) がそれぞれ優占した。*Navicula ectoris* Van de Vijver を、南極大陸から初めて報告した。微生物マット中にはしばしばコケが含まれ、ときに「コケ坊主」と呼ばれる頭状の群落を形成していたが、コケの有無は珪藻の種組成にほとんど影響を及ぼしていなかった。冗長性分析 (RDA) の結果、電気伝導度とその狭い範囲 ($18\text{--}390\text{ mS m}^{-1}$) にも関わらず、主要な環境勾配を形成していたことが明らかになった。また、*Diademsis* sp. と *Psammothidium metakryophilum* は嫌塩性なのに対し、*Amphora* sp. は好塩性であることが示唆された。

② 珪藻による農業排水路の水質評価の研究

滋賀県湖南地域の農業排水路の水質を、付着珪藻群集に基づく有機汚濁指数 DAI_{po} により評価するとともに、DAI_{po} が指標する環境要因について検討した。11地点における DAI_{po} の平均値は 27.6~48.0 の範囲にあり、有機汚濁レベルはβないしα-中腐水性の範囲にあると判定された。DAI_{po} を目的変数、水質パラメータを説明変数とした重回帰分析の結果、有効態リン酸濃度および溶存酸素濃度が DAI_{po} 値を規定していることが示唆された。

③ 珪藻電子図鑑の増補改良

2004年に公開した珪藻電子図鑑α版を増補改訂し、β版として発表した。250種の淡水珪藻各種について、種名+原記載、基礎異名、その他の異名、和名、類似種との区別点および同定上の問題、地理的分布、生態情報を掲載した。光学顕微鏡写真については個体群内の形態変異がわかるように、同一産地から得られた3枚以上(原則5枚以上)を掲載した。また54種については走査電子顕微鏡写真も掲載している。同定のための便宜として、名前による検索機能と、類似種間のページのリンクを用意している。

印刷物

【学術論文】

- Ohtsuka, T. (2005) Epipelagic diatoms blooming in Isahaya Tidal Flat in the Ariake Sea, Japan, before the drainage following the Isahaya-Bay Reclamation Project. *Phycological Research*, 53, 日本藻類学会: 138-148.
- Fujita, Y. and Ohtsuka, T. (2005) Diatoms from paddy fields in northern Laos. *Diatom*, 21, 日本珪藻学会: 71-89.
- 有田重彦・大塚泰介 (2005) 円弧構成モデルによる羽状目珪藻の殻外形の記述. *Diatom*, 21, 日本珪藻学会: 135-141.

【専門分野の著作】

- 藤田裕子・大塚泰介・松田 晃 (2005) 北部ラオス、ベン川流域の水田に生息する珪藻の多様性. *総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-2, 2004年度報告書*: 153-157.
- 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 (2005) 群集解析に基づく汚濁指数 DAI_{popH} 耐性能. 渡辺仁

治 (編), *淡水珪藻生態図鑑*, 内田老鶴圃, 東京: 784p.

【一般向けの著作】

大塚泰介 (2005) 湖国の住人 No. 16. スズキケイソウ. *Pado town magazine*, 20, 株式会社ビイサイドプランニング: 22.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 有田重彦・大塚泰介 (2005年5月15日) *Navicula* 属以外の殻外形に対する円弧構成モデルの適用. 日本珪藻学会第26回大会, 日本珪藻学会, 四日市大学, 三重県, [ポスター発表].
- 中井大介・大塚泰介・中原紘之・中野伸一 (2005年9月20日) 人工水路で濁流が付着藻類群集に与える影響. 日本陸水学会第70回大会, 日本陸水学会, 大阪教育大学, 大阪府, [口頭発表].
- 大塚泰介・大谷修司・伊村 智・工藤 栄 (2005年9月21日) 南極湖沼底のコケ坊主に付着する珪藻. 日本陸水学会第70回大会, 日本陸水学会, 大阪教育大学, 大阪府, [ポスター発表].
- 大塚泰介 (2005年11月5日) 日本珪藻学会第25回研究集会, 日本珪藻学会, 島根大学, 島根県, [座長].
- 藤田裕子・大塚泰介 (2005年11月6日) ラオス北部・山岳地帯の水田に生息する珪藻群集. 日本珪藻学会第25回研究集会, 日本珪藻学会, 島根大学, 島根県, [ポスター発表].
- 大塚泰介・花田美佐子・中村優介 (2005年11月6日) 近畿地方の河川源流部に産する *Achnanthes atomus Hustedt* について. 日本珪藻学会第25回研究集会, 日本珪藻学会, 島根大学, 島根県, [ポスター発表].
- 大塚泰介・工藤 栄・伊村 智・大谷修司 (2005年12月8日) Skarvsnes 湖沼群の珪藻特にコケ坊主に関連して. 第28回極域生物シンポジウム, 国立極地研究所, 国立極地研究所, 東京都, [ポスター発表].
- 大塚泰介 (2006年1月20日) 南極の淡水湖沼底を覆う藻被より得られた珪藻. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

【インターネットページでの公表】

- Arita, S., Ohtsuka, T. and Yamamoto, A. (2005年4月2日) Arc-constitutive model: a new method for the quantitative description of the valve outlines of diatom species.
<http://www.lbm.go.jp/ohtsuka/arc-constitute/arc-constituteE.html>, 琵琶湖博物館.
- 大塚泰介 (編著) (2006年3月31日) 珪藻電子図鑑β版. <http://www.lbm.go.jp/ohtsuka/atlas/index.html>, 琵琶湖博物館.

【研究プロジェクト等への参加】

- 琵琶湖博物館専門研究「多変量解析による河川珪藻群集の研究」(2005年度).
- 琵琶湖博物館共同研究「珪藻電子図鑑の増補改良」(研究代表者: 大塚泰介), 研究代表者 (2003年4月~).
- 科学研究費補助金事業基盤研究(B)「河床生態系における微生物ループと生食連鎖とのリンク」(研究代表者: 中野伸一), 研究分担者 (2004年4月~).
- 科学研究費補助金事業基盤研究(B)「魚類の数値データを用いた同定ツール作成の研究」(研究代表者: 松浦啓一), 研究分担者 (2004年4月~).
- 科学研究費補助金事業基盤研究(C)「ラオスの水田における生態系変化の指標となる藻類相の特定」(研究代表者: 藤田裕子), 研究分担者 (2005年4月~).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本珪藻学会, 編集委員, 2003年4月ー.

日本珪藻学会, 会計監査, 2003年4月ー2006年3月.

日本珪藻学会, Diatom, 査読, 1件.

日本陸水学会, Limnology, 査読, 1件.

日本陸水学会, 陸水学雑誌, 査読, 1件.

The Second Japan-Korea Joint Symposium on Limnology, Proceedings of the Second Japan-Korea Joint Symposium on Limnology, 査読, 1件.

国立極地研究所, Polar Geoscience, 査読, 1件.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005年12月5ー12日, 滋賀県立大学大学院, 生物多様性論 (分担).

2005年4月ー2006年3月, 中井大介 (京都大学農学研究科修士課程), 研究指導・助言.

2005年4月ー2006年3月, 高山博好 (滋賀大学教育学部), 研究指導・助言.

2005年4月ー2006年3月, 小林紀子 (東北大学農学研究科博士課程), 研究指導・助言.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, かわの生き物, 10件.

はしかけ「たんさいぼうの会」, 琵琶湖博物館, 随時.

他の博物館・機関等主催行事

2005年7月14日, プランクトンの採集と観察, 滋賀県立彦根東高等学校 SSI, 琵琶湖博物館実習, 琵琶湖博物館, 講師, 2件, (谷口雅之・中村公一共同).

2005年8月18日, 珪藻の観察と講話, ホタルの学校, 琵琶湖博物館, 講師, (八尋克郎・荒井紀子氏共同).

2005年9月13日, プランクトンの採集と観察, 岐阜県立岐山高等学校校外実習, 琵琶湖博物館, 講師, (谷口雅之・中村公一共同).

2005年9月29日, プランクトンの採集と観察, 滋賀県立東大津高等学校校外実習, 琵琶湖博物館, 講師, (楠岡 泰共同).

2005年10月7日, 珪藻を調べる, 滋賀県高等学校生物部会教材開発部門および陸水研究部門合同研修会, 琵琶湖博物館, 講師, (森田光治氏共同).

2005年11月15日, 川の利用, 近江八幡市立金田小学校質問, 琵琶湖博物館, 回答者.

2005年11月19日, プランクトンの採集と観察, きつず光科学館ふおとん実習, 琵琶湖博物館, 講師, (大川 聡共同).

2005年11月19日, 琵琶湖実習, 特定非営利活動法人自然と緑自然大学, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年12月13日, プランクトンの採集と観察, 草津市立玉川中学校校外実習, 琵琶湖博物館, 講師, (谷口雅之・中村公一・大川 聡共同).

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

微小生物試料の収集, 整備監督・指示.

【展示活動】

展示交流員と話そう（ストロマトライトー地球を酸素の星に変えた藻類ー），指導，1件.
モーニングレクチャー，講演，3回.

館内の人事・館外活動等に関すること**【館外の活動】**

2001年4月ー，島根大学汽水域研究センター，協力研究員.

琵琶湖のカイミジンコ - 琵琶湖に生息するカイミジンコの研究を続けている。種の分類はほとんど終了し、固有種の可能性のあるものを発見した。Horst Janz博士 (Tuebingen, ドイツ) に連絡をとり、琵琶湖のカイミジンコの標本を送っていただいた。来年度のサンプリングについてはすでに計画済みである。この研究はHorst Janz博士との共同研究として発表される予定であり、図表の多くはすでに完成している。

Working Title; The ostracod (Crustacea) fauna of Lake Biwa, a Japanese 'ancient' lake.

Fabaeformiscandonaの生殖活動について - 金沢と琵琶湖で収集したサンプルを利用して*Fabaeformiscandona*属のカイミジンコの生殖活動についての研究を終了した。2005年9月に開かれた国際会議 (International Symposium on Ostracoda) においてこの研究の発表を行った。

この論文はその会議の論文集 (Hydrobiologia誌に掲載予定) に提出した。論評、修正が済み掲載が認められている (2007年9月掲載の予定)。

Keijcyoidea (Platycopida) の成長について - 静岡大学の塚越教授から*Keijcyoidea* (Platycopida) の成長についての論文の共著者として招かれた。原稿のいくつかの部分を書き、構成や内容についてコメントした。この論文は来年学術誌に提出の予定である。

Vestalenula のオスについて - 神谷教授が屋久島で収集したサンプルから*Vestalenula*のオスを探す作業を継続している。顕微鏡での長期間調査を行った結果ついに3匹めのオスを見つけた。この3匹めのオスによって得られたデータを含めるために原稿を更新し、イギリス王立協会のBシリーズ学術誌に提出した。4度の論評と3人の論評者からのコメントに対する我々の反論について激しい議論がかわされた後、ついに発表を認められた。

化石えびの目についての研究 - 静岡大学の田中ゲンゴ博士が代表となって行っているプロジェクトの一部に参加しており、1995年に私がBrazilで収集した化石えびの目を研究している。私のそれらの目についての初期の分析をもとにして、原稿が書かれ現在提出前の最終段階である。

Antennuleについての意見 - カイミジンコの第一触角の類似性について物議をかもした論文が最近発表されたことにもなつて、私の意見を書いた。この論文は現在共著者のもとにあるが、来年度に提出される予定である。

Darwinulid の成長について - これは私が2006年3月に始めた新しいプロジェクトであり、琵琶湖で収集した*Vestalenula* sp. と *Darwinula stevensoni*を用いる。解剖のほとんどは終了し手足の描写を始めたところである。これは金沢大学の神谷隆宏教授との共同研究である。

第一触角のWouters器について - Wouters器は触角の第一節に位置し、Paracypridinae族に限られたものであると考えられていた。しかし私は2005年12月に他の族と科でも減少した形態でみられることを発見した。この発見はおそらくCandonidaeの分類にとって大きな意味を持つと考えられる。現在この器官についての論文の発表を計画中であり、Podocopidにおけるその分布についてのデータを収集中である。これはDr. Renate Matzke-Karasch (ミュンヘン、ドイツ) との共同プロジェクトである。

滋賀県の地下水に生息するカイミジンコ - 私は滋賀県内の泉から5サンプルを収集し、その中から見つかった2種は日本では新しく発見されたものであり、おそらく新種である。もし時間があれば、私は来年度この種を研究するつもりである。

北海道に生息するカイミジンコ - 北海道で収集したカイミジンコの分類を研究している。そのうち1種は泉で発見された新種である。この種の図とSEM写真を完成させ、将来の論文に使用する予定である。

国際陸水学 - 国際陸水学担当としてトンレサップ湖を研究する可能性について調査中である。現在金沢大学の神谷先生と、その湖についての大きなプロジェクトにおける私の役割について協議中である。

印刷物

【学術論文】

- Smith, R. J. (2005) A new UK record of *Herpetocypris brevicaudata* Kaufmann, 1900 (Cypridoidea, Ostracoda) ; palaeo-temperature implications. *Journal of Micropalaeontology*, 24 : 177-178.
- Smith, R. J. and Kamiya, T. (2005) The ontogeny of the entocytherid ostracod *Uncinocythere occidentalis* (Kozloff & Whitman, 1954) Hart, 1962 (Crustacea) . *Hydrobiologia*, 538 : 217-229.
- Horne, D. J., Schon, I., Smith, R. J. and Martens, K. (2005) What are Ostracoda? A cladistic analysis of the extant superfamilies of the subclasses Myodocopa and Podocopa (Ostracoda:Crustacea) . In Koenemann, S. and Jenner, R. (eds) Crustacean and Arthropod Relationships. *Crustacean Issues*, V. 16. CRC Press, California, USA.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- Smith, R. J. (2005年9月12日) International Symposium on Ostracoda, Professor Michael Schudack, Freie 大学 (ベルリン、ドイツ), [口頭発表].

【論文の査読】

- Species Diversity, 1件.
Hydrobiologia, 2件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

視察対応

- 2005年7月1日, 館内案内, アメリカの高校生, 琵琶湖博物館.
2005年11月13日, 館内案内, Sir. Tom Brundell, Dr. Steven Kaldor, Dr. Ren Xu, 琵琶湖博物館.
2005年11月29日, 館内案内, オーストラリアの教師, 琵琶湖博物館.

メディアへの協力

- 2006年3月, カイミジンコに関する資料提供.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- モーニングレクチャー, 講演, 1回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2005年9月12日, ドイツ, 国際会議 (International Symposium on Ostracoda) .

年間を通して専門分野の課題として追求したのは、博物館が提供できる学習活動の性格に関する研究であり、関連して日本博物館協会の中高生の博物館利用に関する調査であった。またもう一方の植物分野に関しては、滋賀県がまとめようとしたレッドデータブック 2005 年版に関する作業には多くの時間をとられた。

学習活動については、総論として 2004 年度の博士論文を基にして、雄山閣からの「博物館の理念と運営」を出版した。これは学習活動だけを扱ったものではないが、基礎にあたる博物館に関する考え方をまとめたものであり、この数年間の考え方を整理したものである。学習活動についてはセミナーなどの発言等で大まかな整理を進めており、資料の整理を終えたため、論文化する準備はしていたが、発表は次年度に持ち越すことになった。

また数年間行われてきた資料総合研究のまとめの年となり、報告書の原稿作成とともに、資料に関する特別研究セミナーを開催し、レスター大学の Dr. Viv 氏とともに博物館資料の可能性についての議論を行った。この議論は報告書にも反映されているとともに、資料研究や資料にかかわる事業に対しても関連のある議論となった。

事業ではタンポポを扱った参加型調査を行った。この調査はこれまで各地で行われていたタンポポ調査を 7 府県で同時に同じ方法で行うように提案して、実行委員会を作り実施したもので、全体の実行委員長を務めた。参加型調査は琵琶湖博物館の初期から行ってきた調査であるが、近年は大規模な調査を行っておらず、改めて調査を行い、参加型調査のあり方などについても考えることができた。調査自体は全体で 4 万点、滋賀県では 2000 点でのデータが集り、これまではなかったような成果が得られた。これらの考え方については、改めて整理をしてみたいと考えている。

展示事業では、「ため池」「博物館を楽しむ」の副担当者として展示を行い、次年度の「つかんだ・つんだ・いつもいた」の副担当者として準備を行った。また国内 5 館とフランスとの共同企画展「フェアブル 100 年展」での企画運営委員会の副委員長として、その準備の活動を行った。

印刷物

【学術論文】

布谷知夫 (2005) *博物館の理念と運営*. 雄山閣, 東京: 234p.

布谷知夫 (2005) 展示と来館者との相互の働きかけ. 書評: 並木美砂子著「動物園における親子コミュニケーション」, *博物館学雑誌*, 1 (31): 49-52.

【専門分野の著作】

布谷知夫 (2005) 博物館学って何. *うみんど*, 35, 琵琶湖博物館: 5-6.

布谷知夫 (2005) 高校生の博物館学習に 1 単位を. *中学生・高校生の博物館の効果的プログラム開発*, 日本博物館協会: 70-71.

布谷知夫 (2005) 実験的な試みの場としての企画展示. *歴博*, 131, 国立歴史民俗博物館: 8-29.

布谷知夫 (2005) 和泉葛城山のブナ林の保護と調査について. *日本生物教育学会第 60 回 (大阪大会 2005) 全国大会研修資料集*, 日本生物教育学会: 6-9.

布谷知夫 (2005) 自然を身近なものとするために. *日本生物教育学会第 60 回 (大阪大会 2005) 全国大会要領*, 日本生物教育学会: 81.

布谷知夫 (2005) 資格の是非をめぐって. *関西自然保護機構会誌*, 1 (27), 関西自然保護機構: 3-6.

布谷知夫 (2005) 多様化する博物館. *ミュージアム・データ*, 69, 丹青研究所: 2-5.

- 中川志郎・布谷知夫・佐藤公昭・奥野花代子・百瀬新治・山西良平・横山芳浩・木幡和男・五十嵐耕一（2005）中学生・高校生の博物館利用に関するアンケート調査結果. *中学生・高校生の博物館の効果的プログラム開発*, 日本博物館協会：1-32.
- 中川志郎・布谷知夫・佐藤公昭・奥野花代子・百瀬新治・山西良平・横山芳浩・木幡和男・五十嵐耕一（2005）中学生・高校生へのアンケート調査結果. *中学生・高校生の博物館の効果的プログラム開発*, 日本博物館協会：33-50.
- 布谷知夫（2006）*滋賀県で大切な野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005年版 植物*. 生き物総合調査委員会, サンライズ出版, 滋賀：(30項目).
- 蓮沼 修・布谷知夫（2006）*滋賀県で大切な野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005年版 植物*. 生き物総合調査委員会, サンライズ出版, 滋賀：(30項目).
- 布谷知夫（2006）植物の概要. 生き物総合調査委員会, *滋賀県で大切な野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005年版*, サンライズ出版, 滋賀：58.
- 布谷知夫（2006）現在の博物館の中の展示の位置 展示室におけるコミュニケーションー展示と人・人と人ー. 布谷知夫（編）, *琵琶湖博物館研究調査報告*, 24, 琵琶湖博物館：1-3.
- 布谷知夫（編）（2006）展示室におけるコミュニケーション. *琵琶湖博物館研究報告書*, 24, 琵琶湖博物館：125p.

【一般向けの著作】

- 布谷知夫（2005）タンポポの雑種について. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 66, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2-4.
- 布谷知夫（2005）空から見た琵琶湖. *みんなの滋賀新聞*：2005年6月11日.
- 布谷知夫（2005）成長するマメ. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 68, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2.
- 布谷知夫（2005）JICA 個別研修（琵琶湖博物館）について. JICA 博物館集中コース企画運営委員会（編）, *2005年度 JICA 博物館集中コース報告書*, JICA 博物館集中コース企画運営委員会：56.
- 布谷知夫（2005）滋賀県. タンポポ調査・近畿 2005 実行委員会（編）, *タンポポ調査近畿 2005 調査報告書*, タンポポ調査近畿 2005 実行委員会：28-31.
- 布谷知夫（2005）大阪の自然観察運動の私的歴史（1）. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 67, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：4-6.
- 布谷知夫（2005）大阪の自然観察運動の私的歴史（2）. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 68, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：3-6.
- 布谷知夫（2005）大阪の自然観察運動の私的歴史（3）. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 69, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：4-6.
- 布谷知夫（2005）花のつく位置. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 67, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2-3.
- 布谷知夫（2005）香りを材料に. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 68, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2.
- 布谷知夫（2005）自然はキャンパス・3. *インタープリター*, 4, 滋賀県自然環境保全・学習ネットワーク：3.
- 布谷知夫（2005）枝と葉. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 69, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2.
- 布谷知夫（2006）ヨシの刈り取り. *NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会会誌*, 70, NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会：2-3.
- 布谷知夫（2006）10年目に入った琵琶湖博物館. *楓*, 24（4）, 滋賀県造園家協会：10-11.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 布谷知夫（2005年8月2日）博物館の経営。全国社会教育主事研修，文部科学省，国立社会教育政策センター，東京都，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2005年8月4日）自然を身近なものとするために。日本生物教育会第60回全国大会研究協議シンポジウム「環境教育のあり方」，日本生物教育会・大阪府教育委員会，興国高等学校，大阪府，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2005年8月11日）社会教育施設の役割と機能 I「博物館」。滋賀大学社会教育主事講習，滋賀大学，滋賀大学教育学部，滋賀県，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2005年10月18日）有形と無形。琵琶湖博物館特別研究セミナー「博物館資料の可能性」，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2005年10月30日）下之郷遺跡の位置づけ。史跡「下之郷遺跡」をめぐる公開討論会，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2005年12月3日）博物館は人の人生を変える。キャリアデザイン学会博物館部会例会，キャリアデザイン学会博物館部会，法政大学，東京都，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2005年12月7日）博物館のあり方を考える。博物館のあり方を考える検討会，文部科学省，文部科学省，東京都，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2006年1月28日）地域と博物館との協力で実現した小学生による伯母川調査。国際湿地再生シンポジウム，国際湿地再生シンポジウム実行委員会，大津プリンスホテル，滋賀県，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2006年2月16日）利用者主体の博物館を目指して。長野県博物館職員等職員研究会，長野県教育委員会，長野県立歴史博物館，長野県，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2006年2月19日）利用者主体の博物館。四国ミュージアム研究会，四国ミュージアム研究会，愛媛県立美術館，愛媛県，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2006年2月26日）子どもたちが体験できる場を作ろう。地域子ども教室事業ブロックシンポジウム，琵琶湖博物館，[口頭発表]。
- 布谷知夫（2006年3月24日）植物を好きになってもらうための展示会。日本生態学会自由集会「生態学と博物館」，日本生態学会朱鷺メッセ，新潟県，[口頭発表]。

【研究プロジェクト等への参加】

- 文部科学省科学研究費「半栽培（半自然）と社会的しくみについての環境社会学的研究」（研究代表者：宮内泰介），分担者（2005年～2007年）。
- 文部科学省科学研究費「博物館の全機能を使って提供しうる学習システムの理論化と理念の確立」（研究代表者：布谷知夫），（2004年～2005年）。

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

- 全日本博物館学会，役員，2004～2005年度。
- 全日本博物館学会，編集常任委員，2004～2005年度。
- 全日本博物館学会，博物館学雑誌，論文査読，5件。
- 関西自然保護機構，関西自然保護機構会誌，論文査読，1件。
- 国立歴史民俗博物館，国立歴史民俗博物館研究報告書，論文査読，1件。

【大学の講義・実習、学生の指導など】

- 2005年5月18日，西海パールシーセンター 百武可奈子，博物館の運営。

2005年7月9日, 山下清香・藤田真砂美, 博物館の交流事業.
2005年8月1日～9月14日, Thug Yu-Hua, 地域と博物館との関係.
2005年12月26日, 滋賀県立大学博物館学集中講義, 博物館概論A.
2006年1月4日～, 北村美香, 博物館のマーケティング.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 9件.
はしかけ, 植物観察の会, 担当者, 4件.
はしかけ, 博物館を楽しむ, 副担当.
4月9日・23日, 草花のしおりを作ろう, 体験学習の日, 琵琶湖博物館, 補助, 2件.
4月15日～7月14日, 博物館の研究, JICA博物館集中コース, 国立民族学博物館・琵琶湖博物館, 担当者, 10件.
4月24日・5月8日, タンポポと春の植物の観察会, 野外観察会, 志賀町・湖北町河毛, 担当者, 2件.
7月24日, 植物, 夏休み自由研究講座, 琵琶湖博物館, 担当者.
11月16日, 秋の果実の観察会, 野外観察会, 湖南市甲西町, 担当者.
11月26日, 秋の里山の観察会, 野外観察会, 大津市, 補助.

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月7日, 琵琶湖と琵琶湖博物館の概要, 京都橘大学, 文化政策学部新入生研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年4月8日, 琵琶湖と琵琶湖博物館の概要, 京都橘大学, 英文科新入生研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年4月9日, 琵琶湖と環境, 奈良教育大学, 教育学部環境教育コース新入生研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年5月15日, 博物館が目指す方向, 京都橘大学, 文化政策学部新入生研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年5月15日, ヨシとはどういう植物なのか, ヨシ笛アンサンブル, ヨシ笛アンサンブル研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年5月22日, 博物館は地域とどうかかわるか, 草津塾, 草津塾公開講座, 草津市町づくりセンター (滋賀県), 講師.
2005年5月22日, はしかけ制度について, 兵庫県埋蔵文化財協会, 考古楽倶楽部研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年6月18日, 遺跡周辺の古環境復元, 野洲守山文化協会, つがやま市民教養文化講座, 津賀山荘 (滋賀県守山市), 講師.
2005年6月25日, 琵琶湖の環境についての考え方, 大阪府立北野高校, 大阪府立北野高校琵琶湖学習, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年6月26日, 博物館の役割, 奈良大学, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年6月26日, 琵琶湖の環境と博物館, 同志社大学, 新入生琵琶湖研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年6月30日, 琵琶湖の環境, 守山市, 守山市新採用者研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年7月10日, 自然観察からはじまる自然保護, 大阪自然環境保全協会, インストラクター養成講座, 千里中央公園公民館 (大阪府), 講師.
2005年7月20日, ヨシについて, シニア自然大学, シニア自然大学緑組研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年7月21日, 博物館の作られ方, 滋賀県立石部高校, 琵琶湖探求2005, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年7月24日, ヨシ笛作り, 佐川美術館, キッズミュージアム, 佐川美術館 (滋賀県守山市), 補助.
2005年7月30日, 琵琶湖博物館の展示作り, 関西大学, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年7月31日, 自然観察からはじまる自然保護, 大阪自然環境保全協会, インストラクター養成講座, 琵琶湖

博物館, 講師.

2005年8月3日, 利用者の視点から見た博物館, 香川県農林部, 香川県農協指定市町村収入役連絡協議会, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月5日, 和泉葛城山ブナ林の調査と保護について, 日本生物教育会・大阪府生物教育研究会, 日本生物教育会第60回全国大会現地研修, 貝塚市ほの字の里(大阪府), 講師.

2005年8月9日, 毎木調査をしてみよう, 中学校理科教育研究会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月18日, 植物を知ろうー植物の不思議を学ぼう, 滋賀県総合教育センター, 環境科学講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年8月19日ー21日, 自然の観察, NACS-J 日本自然保護協会, 自然観察指導員講習会(滋賀), 余呉町ウッドィパル(滋賀県), 講師.

2005年8月22日, 空を飛ぶ植物のタネ, 佐川美術館, キッズミュージアム, 佐川美術館(滋賀県), 補助.

2005年8月29日, 植物の形, 島小学校校内研修会, 近江八幡市立島小学校, 近江八幡市島小学校(滋賀県), 講師.

2005年8月30日, 琵琶湖博物館の考え方, 東北学院大学, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年9月19日, 琵琶湖博物館の概要, 桃山学院大学, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年9月29日, 水草の観察・採集, 滋賀県立東大津高校, 総合的な学習「探求」コース別課題研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年10月2日, 環境保全に取り組むために, 滋賀県自然環境保全学習ネットワーク, 滋賀県自然環境保全学習ネットワーク研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年10月15日, 植物のいろいろ, パワフル交流市民の日実行委員会, 草津市パワフル交流市民の日, 草津市町づくりセンター(滋賀県), 講師.

2005年10月21日, 琵琶湖博物館の概要, 地方公営企業連絡協議会, 地方公営企業連絡協議会会員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年10月25日, ドングリの見分け方と飛ぶ種子, 滋賀県教育委員会, 5年次教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年10月29日, 琵琶湖博物館の生涯学習機能, 亀岡市, 亀岡市民民障害学習グループ, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年11月22日, ドングリの見分け方と飛ぶ種子, 滋賀県教育委員会, 5年次教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年12月3日, 利用されることで成長する博物館, 法政大学, 博物館学特別講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年12月6日, 博物館の役割, 愛知学院大学, 博物館講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年12月10日, 近畿地方でいっせいにいったタンポポ調査, NACS-J 日本自然保護協会, プロナチュール助成報告会, 国立子どもの城(東京都), 講師.

2006年3月19日, 里山と人と水, 淡海森林クラブ, 淡海森林クラブ研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

2006年3月22日, 琵琶湖博物館の考え方, 山県市, 山県市民生委員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2005年5月15日, 概要紹介等, 麴醇堂酒類博物館準備室.

2005年6月8日, 概要紹介等, 埼玉県議会教育常任委員会.

2005年6月29日, 概要紹介等, きつず光科学館ふおんと.

2005年7月13日, 概要紹介等, 中国樟波市博物館日本視察団.

2005年7月18日, 概要紹介等, 人と自然の博物館フロアスタッフ研修.

2005年8月3日, 概要紹介等, マダガスカル農業大臣.

2005年9月1日, 概要紹介等, ソウル市環境局.

2005年9月14日, 概要紹介等, 野外教育研究所.

2005年9月17日, 概要紹介等, 兵庫県考古博物館準備室.

2005年9月19日, 概要紹介等, 全国地方紙幹部交流会.

2005年10月4日, 概要紹介等, 倉敷科学センター.

2005年10月19日、概要紹介等、中国湖南省青年友好訪日団。
2005年10月21日、概要紹介等、所沢市議会。
2005年11月4日、概要紹介等、南山大学民族学博物館。
2005年12月13日、概要紹介等、湖南省洞庭湖博物館初期調査団。
2005年12月14日、概要紹介等、国立歴史民俗博物館第六展示室リニューアル委員会。
2005年12月15日、概要紹介等、浅間縄文ミュージアム。
2006年2月24日、概要紹介等、JICA ヨルダン博物館研修。
2006年3月19日、概要紹介等、サイパン青少年交流団。

メディアへの協力

2005年6月、みんなの滋賀新聞、アジサイ。
2005年8月13日、みんなの滋賀新聞、ヨウシュヤマゴボウ。
2005年8月17日、みんなの滋賀新聞、ヒガンバナ。
2005年10月2日、朝日新聞、ヨシによる水質浄化。
2005年10月18日、読売新聞、ウオーターヒアシンス。
2005年11月、京都新聞、琵琶湖博物館10周年連載。
2006年1月11日、びわこ放送、ギャラリー展示「タガベエのため池探検」。
2006年3月21日、びわこ放送、春を探しに（県政テレビタ刊）。
2006年3月21日、京都新聞、トライアルウイーク。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年度、タガベエのため池探検、副担当。
モーニングレクチャー、講演、3回。

【研究部関連事業】

研究部代表者会議、委員、12件、2005年度、琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005年度、フェアブル100年展、企画運営委員会、委員。
2005年度、JICA 博物館学集中コース企画運営委員会、委員。
2005年度、広報経営戦略検討チーム、代表。

【館外の活動】

2005年度、民博ネットワークプロジェクト事業研究会、委員。
2005年度、滋賀県生き物総合調査委員会、植物部会会長。
2005年度、兵庫県立考古博物館（仮称）事業計画策定委員会、委員。
2005年度、天然記念物と泉葛城山保護増殖調査委員会、会長代理。
2005年度、滋賀県棚田等保全検討委員会、委員。
2005年度、滋賀県移入種問題検討委員会、委員。
2005年度、守山市下之郷遺跡を考える会、委員。

2005 年度, タンポポ調査近畿 2005 実行委員会, 委員長.
2005 年度, 日本自然保護協会自然観察指導員行使団, 講師.
2005 年度, 関西自然保護機構, 理事.
2005 年度, 日野川多自然化計画検討委員会, 委員.

The subjects of most of my original research during the 2005 fiscal year were crustacean “y-larvae” of the group Facetotecta from marine plankton in Okinawa and large branchiopod “shrimps” from rice paddies. As a member of a Danish project, I spent two weeks in September and October together with Danish and Japanese zoologists at the Sesoko Laboratory, Tropical Biosphere Research Center, University of the Ryukyus. By rearing many y-larvae caught in plankton to the cyprisy stage, and then forcing them to molt to the previously unknown, slug-like, juvenile “ypsilon” stage by exposing them to crustacean molting hormone, we succeeded in repeating 2004’s preliminary results on a much larger scale. We also presented our earlier findings at international and domestic carcinological meetings. My research on large branchiopods included 1) identification of specimens collected by the Lake Biwa Museum’s rice paddy “hashikake” group; 2) identification of specimens at the Osaka Museum of Natural History collected in 2005 as part of a natural history survey of the Yamato River basin; 3) confirmation of the clam shrimp *Caenestheriella gifuensis* in eastern Shikoku; and 4) confirmation of Japan’s fourth known locality for another clam shrimp, *Limnadia lenticularis*, which only lives in natural temporary pools (material from the Tochigi Prefectural Museum). Some samples of the clam shrimp genus *Eulimnadia* from Ehime Prefecture, which I had sent earlier to an American colleague, proved through DNA sequencing to be identical to the American species *E. cylindrova*. In other work, I made drawings of nauplius larvae of *Heteralepas* barnacles for eventual publication together with those of *Koleolepas* barnacle larvae drawn earlier.

Writing scientific papers together with colleagues occupied some of my time. A large manuscript on a new genus of monstrilloid copepods from Ryukyu plankton was finished and submitted. A detailed SEM-based survey of larvae of several species of the starfish-parasitizing crustacean *Dendrogaster*, as well as a short paper noting the occurrence of larvae of certain bird tapeworms in Lake Biwa area fishes, are nearly finished, and progress was made on a literature- and current survey-based report on the distribution of clam shrimp species in Japan.

2005年度の私のオリジナル研究は、沖縄の海洋プランクトンにおけるy-幼生(甲殻類の彫甲類 Facetotecta)および水田におけるエビ(大型鰓脚類)に関するものであった。デンマークの研究プロジェクトの共同研究者として、9・10月の2週間にわたって、デンマークと日本の研究者3人とともに琉球大学熱帯生物圏研究センター瀬底実験所で個体発生学的な研究を行った。プランクトンから多数のy-幼生を採集し、キプリスyという齢まで飼育し、甲殻類の脱皮ホルモンを与え、その影響でこれまで知られていなかった、ナメクジのような「ypsilon」齢の幼体に脱皮させながら、前年度の予備的な結果をさらに大きなスケールで再現することができた。また、国内外の甲殻類学大会で、前年度の結果に関して発表した。大型鰓脚類に関する私の研究の主要テーマは次の4項目である: 1) 琵琶湖博物館の田んぼの生き物調査「はしかけ」グループが採集したサンプルの同定確認; 2) 大和川水域の調査で2005年に採集された大阪市立自然史博物館所蔵のサンプルの同定; 3) 四国の東部にカイエビ(学名 *Caenestheriella gifuensis*) が生息していることの確認; 4) 栃木県立博物館の標本を調べて、天然の一時的な湿原にしか生息していないヤマトウスヒメカイエビ(学名 *Limnadia lenticularis*) の国内で4番目の採集場所の確認。アメリカの共同研究者に送ったいくつかの愛媛県産ヒメカイエビ属(学名 *Eulimnadia*) のサンプルは、DNA塩基配列の分析の結果、北・南米における *E. cylindrova* と同種であることが分かった。他の研究において、とくにフジツボ類のハダカエボシの仲間(学名 *Heteralepas*) のノープリウス幼生のスケッチを描いた。これは前年度に描いたトサカエボシ属の2種(学名 *Koleolepas*) の幼生のスケッチとともに記載し出版する予定である。

共同研究者とともに学術論文の執筆も行った。琉球列島のプランクトンにおけるカイアシ類モンストリラ亜目の新属に関する長大な記載論文を投稿した。以下の2編はまだ執筆であるが、ほぼ完成している: 1) 走査型電子顕微鏡による調査に基づいた、ヒトデ類に寄生するシダムシ数種類(甲殻類の囊胸類-学名 *Dendrogaster*) の幼生の詳細な記載論文、2) 琵琶湖とその集水域の魚類に寄生するサナダムシ類の一つの科の幼生(成虫は鳥類にすむ)に関

する短い原稿。さらに文献調査や最近のフィールド調査から集まった情報を基に、日本におけるカイエビ類の分布に関する原稿の執筆を進めた。

印刷物

【学術論文】

Rouse, G. W. and Grygier, M. J. (2005) *Myzostoma seymourcollegiorum* n. sp. (Myzostomida) from southern Australia, with a description of its larval development. *Zootaxa*, 1010 : 53-64.

【専門分野の著作】

Grygier, M. J. (2005) 大和川集水域におけるカブトエビ・カイエビ類の分布と生態. *自然史研究, Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History*. 3 (4) : 51-54 (中条武司・和田 岳 (編), 「総合討論」のパネリストとして参加, 同誌, 66-68).

Timoshkin, O. A. and Grygier, M. J. (2005) Replacement name for *Reutereilla* Timoshkin, 2004 (Plathelminthes: Neorhabdocoela). *Zoosystematica Rossica*, 13 (2) : 241.

Grygier, M. J. and Høeg, J. T. (2005) Ascothoracida (ascothoracids). Rohde, K. (ed.), *Marine Parasitology*. CABI Publishing, Wallingford, U.K. and CSIRO Publishing, Collingwood, Australia : 149-154, 473.

【一般向けの著作】

Grygier, M. J. (2006) Chapter XVII. The Lake Biwa Museum. Anonymous (ed.), *Environmental Management of the Iraqi Marshlands: Water Quality Management—a Training Kit. Trainer’s Handbook*. UNEP-DTIE-IETC, Osaka and Kusatsu, and ILEC, Kusatsu : 49-52.

Grygier, M. J. (2006) Chapter XVII. A tour of the Lake Biwa Museum. Anonymous (ed.), *Environmental Management of the Iraqi Marshlands: Water Quality Management—a Training Kit. Participant’s Handbook*. UNEP-DTIE-IETC, Osaka and Kusatsu, and ILEC, Kusatsu : 359-364.

楠岡 泰・マーク J グライガー (2005) はしかけによる「田んぼの生きもの調査」マニュアル. 琵琶湖博物館, 草津 : 10p.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表など】

Glenner, H., Grygier, M. J., Fujita, Y. and Høeg, J. T. (2005年7月18日) Metamorphosis in Y-larvae (Facetotecta) : Towards the solution to a 100 year old riddle. Sixth International Crustacean Congress (Glasgow, Scotland, U.K) (p. 4).

Høeg, J. T., Grygier, M. J., Fujita, Y., Perez-Losada, M. and Crandall, K. A. (2005年7月18日) Cyprids and the phylogeny of the Thecostraca with emphasis on the position of the Facetotecta. Sixth International Crustacean Congress (Glasgow, Scotland, U.K.) (p. 5).

Glenner, H., Grygier, M. J., Fujita, Y. and Høeg, J. Th. (2005年11月13日) Induced metamorphosis of cypris y (Crustacea: Facetotecta); towards the solution of a 100-year-old mystery. 日本甲殻類学会第43回大会. 奈良女子大学 (奈良市) (p. 39).

Grygier, M. J., Høeg, J. Th. and Olesen, J. (2005年11月13日) A “ghost” of the y-cypris left behind

in the last molted y-naupliar cuticle (Crustacea: Facetotecta). 日本甲殻類学会第 43 回大会. 奈良女子大学 (奈良市) (p. 72).

Grygier, M. J., Cairns, S. D. and Klepal, W. (2005 年 11 月 29 日) *Petrarca* (Crustacea: Ascothoracida) infesting *Fungiacyathus marenzelleri* off southern California, with a retrospective review of petrarcid galls in deep-sea corals. Third International Symposium on Deep-Sea Corals Science and Management. (Miami, Florida, U.S.A.) (p. 214).

マーク・J・グライガー (2005 年 10 月 21 日) Hormone-induced metamorphosis of cypris y from Okinawa into a new, so-called “ypsignon” stage, and remarks on the last naupliar molt (Crustacea: Thecostraca: Facetotecta). 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館.

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「鰓脚類と顎脚類（甲殻類）の分類学や固体発生学に関する研究」（2005 年度～）.

(デンマーク) コペンハーゲン大学生物学研究所 動物形態学科, J. T. Høeg 博士 (研究代表者), Carlsberg Foundation Grant ANS-0998/10 「Biologi og morfologi af “Y” larver: Et 100 år gammelt mysterium」, 共同研究者 (2003 年～2005 年).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

The Crustacean Society, Journal of Crustacean Biology. Associate Editor, 査読, 2 件.

日本動物分類学会, Species Diversity, Editorial Consultant, 2006 年 1 月 1 日更新.

日本ベントス学会, Japanese Journal of Benthology (日本ベントス学会誌), 編集委員 (English editor), 2005 年 4 月 1 日更新.

日本付着生物学会, Sessile Organisms, 編集委員 (English editor).

Zoological Institute, Russian Academy of Sciences, Zoosystematica Rossica, International Advisory Board.

日本甲殻類学会, Crustacean Research, 査読, 1 件.

Biological Institute on Kuroshio, Kuroshio Biosphere, 査読, 1 件,

Zoologischer Anzeiger, 査読, 1 件.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス活動】

琵琶湖博物館の主催行事

はしかけ：田んぼの生き物調査グループ, 副担当.

他の博物館・機関等主催行事

2005 年 5 月 29 日, ぼてじゃこトラスト「メダカ博士・田んぼの生き物博士になろう!!」, ウォーターステーション琵琶 (滋賀県), 指導.

2005 年 7 月 28 日, 愛知万博関連の UNEP のイベント「こども環境サミット 2005」, 伯母川研究こどもエコクラブ「伯母 Q 五郎」の発表原稿「We made the Oba River Museum together with the local people」の英訳.

視察対応

2005 年 4 月 1 日, JICA 横浜国際センター, 平成 16 年度集団「持続可能な沿岸漁業」コース.

2005 年 4 月 12 日, (株) 国際水産技術開発, JICA 集団研修「持続的増養殖開発コース」.

2005 年 6 月 28 日, JICA 東京国際センター, 平成 17 年度インドネシア・マラウイ・エジプト国際研修「淡水魚養

殖」.

2005年7月1日, 第17年度滋賀県高校生海外相互派遣事業.

2005年7月2日, ILEC, 第13回生態学琵琶湖賞の受賞者一行.

2005年7月3日, (ポーランド) University of Warmia and Mazury in Olsztyn と近畿大学.

2005年7月14日, ミシガン州友好親善使節団.

2005年7月18日, JICE とシステム科学コンサルタンツ (株), 平成17年度国別研修「養殖開発・普及」.

2005年8月10日, National Folk Museum of Korea.

2005年8月27日, 台湾文化施設参訪団.

2005年9月16日, (株) インテムコンサルティング, JICA 平成17年度集団研修「沿岸漁業資源管理」コース.

2005年10月28日, (特) 国際マングローブ生態系協会, JICA 研修「持続可能な開発のための環境教育ー沿岸生態系と住民生活の保全ー」コース.

2005年11月8日, (財) 日本環境技術センター, JICA 研修「水環境モニタリングコース」.

2005年11月10日, 北九州国際技術協力協会, JICA 集団研修 平成17年度第8回「蚕業廃水処理技術」コース.

2005年12月17日, 大津比叡ライオンズクラブ, 短期ホームステイ者一行.

2006年1月17日, ILEC, 台湾行政院環境保護署副署長一行.

2006年3月2日, 日本環境教育学会国際会議フィールド観察.

2006年3月23日, UNEP, JICA 研修「Restoration of Marshlands in Southern Iraq」.

2006年3月23日, 総合地球環境学研究所, The 6th Conference of East Asia and Pacific Regional Network of International Long-Term Ecological Research.

2006年3月29日, タイ王国大使館, National Discovery Museum Institute.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

無脊椎動物(昆虫、貝類以外) 19件(504点)、1種のホロタイプ、アロタイプ、パラタイプ標本を含む, 標本受入.

甲殻類 154点(大型鰓脚類), 標本同定.

甲殻類 486点, 仮データ入力・ラベル付き.

石田昭夫, 北海道弥生町, カイアシ類 1点, 研究依頼.

(ポーランド) A. Mickiewisc 大学, クマムシ 1点, 研究のための特別観覧.

他博物館・機関の活動

大阪市立自然史博物館, 大形鰓脚類(カブトエビ・ハウネンエビ・カイエビ類) 104点の同定, 大和川水系調査グループ「プロジェクトY」.

栃木県立博物館, ヤマトウスヒメカイエビ 1点の同定.

弘前大学・北海道大学, マルカイエビ 3点の同定, トンレサップ湖 EMBS2004 調査.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

常設展示「琵琶湖博物館研究最前線」のパネル更新.

第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」の図録の英訳.

企画展関連展示「飛ぶことを忘れた虫たちーオサムシのくらしー」のパンフレットの英訳.

英語のパンフレット「Lake Biwa and Its People」の増刷にともなう編集.

【企画調整活動】

2005年8月10日, 資料提供, 滋賀県内で新しく発見された鉤頭虫 2種の新種記載について.

館内人事、館外活動等に関すること

【館外の活動】

2005年11月15日更新, (米国) スミソニアン研究所国立自然史博物館, 協力研究員.

(米国) ロサンゼルス郡立自然史博物館資料・研究部 (無脊椎動物学研究科), 協力研究員,

2005年度から、琵琶湖博物館での研究テーマを可能な限り絞り込むこととし、近江における古墳時代首長墓と中世を中心とする山岳寺院を主な素材として進めてきた。

古墳研究は、近江最大の前方後円墳である安土瓢箪山古墳で25年前に採集した土器と埴輪を紹介し、それらをもとにこの古墳の歴史的評価を行った。この論文は、『淡海文化財論叢』に投稿し、2006年3月に刊行された。

一方の山岳寺院研究は、2005年の春に集中してフィールドを行い、湖北や湖東を中心とする資料をもとに、山岳寺院の遺構群の歴史的展開類型を明らかにしつつある。特に、近世の方形坊跡群に新しい知見が得られたため、これらを含めて、6月に開催された琵琶湖博物館研究報告会において、古代から現代までの山岳寺院類型を発表し、近世の様相については別途、8月の琵琶湖博物館研究セミナーで発表したところである。

また、伊吹山の上平寺城は、山岳寺院を再利用したことを明らかにし、そのままの構造で山麓に降りた寺院跡を、京極氏は屋敷群としたと考え、『佐加田』に小論を掲載した。

その他、石狩川の丸木舟とアイヌの関係史研究を行う研究者を紹介したり、内湖と丸子船のトピックスを新聞に寄稿した。

4年前から取り組んできた近藤義郎『発掘五〇年』の編集は、今年度ようやく終了し、筆者による「海外調査問答」などを付論として掲載して河出書房新社から刊行された。戦後の日本考古学の変革者であり、学界を常にリードしてきた考古学者の軌跡をたどる著書の公開に貢献できたことは貴重な経験であった。

滋賀県立大学大学院人間文化科学研究科での「日本考古学」の講義は3年目になり、常に新しい日本考古学界の知見を取り入れて話をしようとするのは、自分にとってもよい勉強の機会となったし、博物館活動に大学院生の参加が得られたことも成果の一つである。

アジア考古学研究機構の活動は停滞気味であったが、2005年の7月に2回目の連続講座を琵琶湖博物館で行い、新しいアジアの民俗と歴史の知見を公表することができた。また9月末からは、中国四川省と湖南省を訪ね、三星堆遺跡や馬王堆漢墓をはじめ、新石器時代初頭の環濠集落なども調査することができた。湖南省博物館との友好関係も築きつつある中で、有意義な訪中であった。

琵琶湖博物館では、10年にわたって1万点以上の民具資料の整理作業を行ってきたが、ようやくその一部の整理が完了し、漁具を中心とする資料を『琵琶湖博物館民具資料目録』として2分冊で刊行することができた。筆者が責任編集者となって行ったが、実際には嘱託職員と日々雇用職員による努力の結果であった。かつて県教育委員会文化財保護課から移管された資料群であるため、当時の担当者としてようやくその責任の一端を果たすことができた。

こうした研究活動を行いながら、一方で学位論文作成の準備を行いつつあり、年度末にはその全体構想と草稿がまとまった。琵琶湖水系における古墳を素材にした地域論であり、それをもとに近江の地域性や歴的特質を探ろうとするものである。次年度も引き続き準備を進めていきたい。

印刷物

【学術論文】

用田政晴 (2006) 安土瓢箪山古墳の壺と「埴輪」. *淡海文化財論叢*, 1, 淡海文化財論叢刊行会 : 87-93.

【専門分野の著作】

用田政晴 (2005) 上平寺城・山岳寺院論の提唱. *佐加田*, 22, 米原市教育委員会 : 2.

用田政晴 (2006) 海外調査問答. *近藤義郎発掘五〇年*, 河出書房新社, 東京: 440-453.

【一般向けの著作】

用田政晴 (2005) 石狩川の手と丸木舟からアイヌ文化のルーツを探る. *FRONT*, 2 (18), リバーフロント整備センター: 46-47.

用田政晴 (2005) 松原内湖に浮かぶ丸子船と鉄道. *みんなの滋賀新聞*: 2005年9月17日.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

用田政晴 (2005年6月25日) 琵琶湖をめぐる近江の山岳寺院研究. 琵琶湖博物館研究報告会, 琵琶湖博物館 [口頭発表].

用田政晴 (2005年8月19日) 山岳寺院の近世的展開事例—悉地院と松尾寺の梵鐘—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館 [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「近江の歴史の固有性と普遍性に関する考古学的研究」(2005年度).

アジア考古学研究機構「アジアの遺跡と民俗—琵琶湖研究のために—」(研究代表者: 用田政晴), 研究代表者 (2005年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

アジア考古学研究機構, 代表, 2005年度.

『発掘五〇年』企画委員会, 企画委員, 2005年度.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005年度前期, 滋賀県立大学大学院人間文化科学研究科, 日本考古学.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 12件.

2005年7月2・9日, アジア基層文化の探求, アジア考古学研究機構連続講座 II, 琵琶湖博物館, 運営、発表, 2件.

他の博物館・機関等主催行事

2005年7月8・20日, 博物館実習, 成安造形大学, 琵琶湖博物館, 講演, 2件.

2005年10月14日, 博物館実習, 奈良大学, 琵琶湖博物館, 講演.

2005年11月15日, 琵琶湖博物館の楽しみ方, 金田小学校, 琵琶湖博物館, 講義.

2006年2月15日, 博物館実習, 駒沢女子大学, 琵琶湖博物館, 講演.

2006年3月30日, 博物館実習, 京都造形芸術大学, 琵琶湖博物館, 講演.

視察対応

2005年4月8日, 概要説明等, 中国国家博物館、中国大使館.
2005年4月21日, 概要説明等, 観音寺市市議会議員団.
2005年7月2日, 概要説明等, テルアビブ大学.
2005年7月12日, 概要説明等, 伊吹山文化資料館.
2005年9月1日, 概要説明等, 宮崎県教育委員会文化財保護課.
2005年9月1日, 概要説明等, 韓国文化財関係者.
2005年10月16日, 概要説明等, ロシア北方4島住民.
2005年12月7日, 概要説明等, 台湾・香港旅行代理店.
2005年12月13日, 概要説明等, 中国湖南省政府.
2006年3月15日, 概要説明等, 島根県教育委員会.
2006年3月18日, 概要説明等, 台湾雑誌社.

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

個人ページ「マッピーの考古学への道」, 管理運営.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

考古資料整理, 配架.
民俗資料整理, 写真撮影, 300点.
民具資料目録作成, 目録の執筆・編集・印刷・刊行, 2冊.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

展示交流員と話そう (瀬田唐橋), 内容指導.
2005年5月9日、7月18日, 展示交流員研修, 企画・運営, 2件.
モーニングレクチャー, 講演, 3回.

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会総会, 事務局次長, 2005年6月21日, 彦根城博物館.
滋賀県博物館協議会見学会, 事務局次長, 2005年10月12日, 佐川美術館.
滋賀県博物館協議会研修会, 事務局次長, 2005年12月1日, 琵琶湖博物館.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

滋賀県博物館協議会, 事務局, 次長.

【海外渡航】

2005年7月30日～8月6日, スペイン, 遺跡・博物館調査.
2005年9月27日～10月2日, 中国, 遺跡・民俗・博物館調査.

【館外の活動】

2005 年度，秦荘町歴史文化資料館，運営委員会，委員.

総ての人に、役に立つ博物館資料作りを目標にしています。また、自然の神秘、巧妙さに惹かれ、様々な事柄に興味を持つ人を少しでも増やしてゆきたいと考えています。そこで普通は余り考えられていない魚の鳴き声を調べたり、更に、できるだけ多くの人に水生生物に対する正しい知識を持って欲しく、有志を集め県内河川の魚類や水生昆虫など水生生物の調査を行っています。また移りゆく自然環境の状況を未来に伝えるべく、生物、風景等の映像記録に心がけています。

本年度も、前年度に引き続き、外来魚の解剖と調理を通して生物科学だけでなく文化的側面にも照準を合わせ多面的に生物と人の関わりを学ぶ手法を模索しています。食を通して、自然環境や生物、文化に関する知識を提供し、博物館として提供できる食育について考えています。博物館が単に知識を示すのではなく総合的に人が生涯を通して学習していくホリスティックな学習の場となることを目指します。また今年度より、過去の写真記録の活用之道として、人の記憶や活力の源としての利用を研究しています。それは、古い写真を用いた聞き取り調査の手法に見られる情報や記憶の回想以外に、QOL を増強する道具としてもまた利用可能と考えられるからです。そのため本年度より写真資料の博物館的活用之道を探ることを併せて目標に掲げることにしました。また、平成 18 年度第 14 回企画展示の準備を行いました。内容は、今森光彦氏の写真を利用した琵琶湖博物館総合研究の成果です。総合研究の担当者とともに、展示案の作成などの準備に尽力しました。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

秋山廣光 (2005 年 12 月 16 日) 琵琶湖博物館における静止画資料の整理と利用 4. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー, 琵琶湖博物館, 11 件.

はしかけ, 温故写新担当.

2005 年 8 月 1 日, 先生のための川の生き物調査, 講座, 天神川, 講師.

2005 年 8 月 4 日, 生き物飼い方講座, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 8 月 22 日, 水族裏探検, 琵琶湖博物館, 講師.

2006 年 3 月 5 日, 水族展示の舞台裏, 観察会, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2005 年 4 月 16 日, モロコの仲間について, モロコ・フナ養殖研究会, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 4 月 17 日, ぼてじゃこの未来, ぼてじゃこトラスト, 総会, 琵琶湖博物館, 講師.

2005 年 5 月 14 日, 魚のつかみかた教室, お魚ネットワーク大津, ウォーターステーション, 講師.

2005 年 5 月 28 日, 琵琶湖の魚と環境, 湖灯塾, 京都新聞八幡支店「湖灯ホール」(近江八幡市), 講師.

2005年5月31日, 琵琶湖の魚について, レイカディア大学, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年6月1日, 琵琶湖の環境と魚, 中野区立第11中学校, 三井寺円満院, 講師.
2005年6月1日, 魚のつかみ方, 伯母川探検隊, 志津小学校, 講師.
2005年6月9日, 魚の解剖, 県立河瀬中学校, 琵琶湖博物館, 講師, 2件.
2005年6月14日, 琵琶湖の魚について, 健康保険連合組合, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年6月16日, 外来魚を食べてみよう(釣り調理), 滋賀県総合教育センター, 教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年7月18日, 琵琶湖の魚について, キッズランド, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年7月20日, 琵琶湖の魚と環境について, シニア大学講座, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年7月21日, 川の生き物調査, ホタルの学校, 千丈川・南郷市民センター, 講師.
2005年7月22・25・26日, ミュージアムスクール, 石部高校・夏期集中講座, 琵琶湖博物館, 講師, 3件.
2005年8月9日, 体験学習「琵琶湖の魚と外来魚」, 滋賀県中学校理科部会, 自然調査ゼミナール, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年8月11日, 琵琶湖の環境と魚, 奈良県磯城郡小学校教育研究会理科部会, 研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年8月23日, 外来魚調理, 滋賀県総合教育センター, 教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年8月24日, 外来魚の調理, 大津市立平野小学校, 研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年8月25日, 琵琶湖の魚と環境, 守山市教育研究会理科部会, 研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年9月3日, 魚のつかみ方教室, お魚ネットワーク大津, ウォーターステーション, 講師.
2005年9月10日, 外来魚について, 草津市水環境クリーンウォーク, 草津市環境課, 湖岸公園, 講師.
2005年9月17日, 魚のつかみ方, お魚ネットワーク大津・福寿土曜学校(大津市里), 講師.
2005年9月29日, 琵琶湖の魚について, 滋賀県立東大津高等学校, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年10月5日, 外来魚調理, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年10月25日, 魚の解剖, 滋賀県総合教育センター, 教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年10月28日, 琵琶湖の魚と川の魚, 高島市立安曇川小学校, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年11月22日, 魚の解剖, 滋賀県総合教育センター, 教員研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年12月3日, 外来魚調理, 近江八幡市役所, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年12月8日, 出張質問コーナー, 滋賀大学, 琵琶湖博物館, 講師.
2006年2月16日, 外来魚調理, 草津第二公民館, 水環境学習講座, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年11月15日, 琵琶湖の生き物について, 近江八幡市立金田小学校, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年11月16日, 外来魚の話, 守山市立明富中学校, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年11月17日, 淡水魚保護増殖の話, 栗東市企業懇話会, 環境学習視察研修, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年11月22日, 琵琶湖のモロコについて, フナモロコ研究会, 琵琶湖博物館, 講師.
2005年12月13日, 魚の話と水族裏方見学, 近畿盲学校教育研究会理科部会, 研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2006年2月16日, 琵琶湖の魚と環境, 草津第二公民館, 自然環境学習, 琵琶湖博物館, 講師.

視察対応

2005年6月10日, 水族施設見学, 滋賀県庁土木課.
2005年7月29日, 静止画資料整理について, 静岡大学.
2005年8月4日, 静止画資料整理について, 茨城県立博物館.
2005年9月19日, 水族施設見学, 香港建築学会.
2005年10月8日, 水族施設見学, 大阪信愛女子短期大学.
2006年2月1日, 施設見学・地域連携について, 福井市立博物館.
2006年2月16日, 水族施設見学, 滋賀県庁.
2006年3月8日, 水族施設見学・展示手法と繁殖について, 熊本市動植物園.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

水族飼育管理, 魚病.

水族静止画資料, 撮影・整備.

水生生物分布調査(nets), 収集・撮影.

映像資料貸出 51 件.

研究用生魚貸出 1 件

愛知万博資料貸出, 2 件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

第 14 回企画展示「湖辺」準備担当.

モーニングレクチャー, 講演, 3 回.

展示交流員と話そう, 内容指導.

2006 年 1 月 16 日, 展示交流員 企画展 現地研修.

【企画調整活動】

新任職員研修, 琵琶湖博物館水族展示・飼育バックヤード, 2005 年 4 月 20 日.

博物館実習, 資料担当指導, 2005 年 8 月 3 日.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

うみんど編集委員

【館外の活動】

日本動物園水族館協会, 動物名検討委員会, 委員.

nets 滋賀の水生生物調査グループ, 実行委員.

ぼてじゃこトラスト, 顧問.

本年度も、前年度までの流れの中での発展や総括であったり、あるいは翌年度以降につながるような、多岐にわたる小さな業績が得られているが、全体的に業績量は少ない。これは、事業部が過渡的な無理のある体制に再編されて、その中での業務の統括に相当の労力を費やしたこと、そして「インターネットWWWページの大規模更新」という大きな事業の遂行に相当の労力を費やしたことが大きい。このうち、後者については博物館学分野のテーマとして総括することを考慮すべき内容であるが、まだ「将来の課題」の段階に留まっている。

本年度の活動としては、共同研究として進めてきたリモートセンシングの課題について、昨年度までの成果を総括して公表する作業に取りかかったことが挙げられる。しかし、上述したような事情もあって進捗状況が芳しくなく、ポスター発表1件に留まっている。

博物館学と水理学 (あるいは広く地球物理学) との連携という部分では、春のギャラリー展示で実施した堤防破壊実験の演習経験を分析して、「水を使った実験」を博物館運営論の中で位置づけるという新しいテーマに取り組み、口頭発表を行った。

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

戸田 孝 (2005 年 4 月 15 日) 合併市町村での公立博物館の Web 発信. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

戸田 孝・武部 強・鷺見哲也 (2004 年 9 月 11 日) 博物館での水を使った実験—堤防破壊実験での実例. 日本科学教育学会第 29 回年会, 日本科学教育学会, 岐阜大学, 岐阜県, [口頭発表].

戸田 孝・亀田佳代子・島田拓哉・釈 慶樹・板倉安正 (2005 年 9 月 21 日) 常設赤外カメラによる琵琶湖赤野井湾の観測結果—冬季の水鳥の去就と夏季の水草域の消長—. 日本陸水学会第 70 回大会, 日本陸水学会, 大阪教育大学, 大阪府, [ポスター発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館事業における水理学分野の位置付けに関する研究」(2005 年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本陸水学会, Limnology, 査読, 1 件.

日本科学教育学会, 科学教育研究, 査読, 2 件.

日本陸水学会, 広報幹事技術顧問, 2003~2005 年度.

陸水物理研究会, 運営委員, 任期の定め無し.

日本科学教育学会, 編集委員, 2004~2005 年度.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館，10 件。

2005 年 8 月 2 日，回転実験室で水槽実験を！，博物館講座，琵琶湖博物館 C 展示室，主担当。

2005 年 8 月 4 日，情報発信事業実習の指導，博物館実習，琵琶湖博物館，講義。

メディアへの協力

NHK 大津，おうみ発 610，予備取材（琵琶湖基準水位の決定には特に根拠が無かったということについて），（2005 年 6 月 15 日取材）。

2005 年 8 月 26 日，女性セブン，「〇〇ダス」はこう使う！，ビワコダスの経緯や参加層・成果などについて説明，（2005 年 8 月 26 日取材）。

2005 年 10 月 23 日，朝日新聞大津総局，びわこのうちそと「風は陸から湖から」の巻，ビワコダスの発祥・ねらい・成果などについて説明，（2005 年 3 月 10 日取材）。

2005 年 11 月 29 日，読売新聞「しが県民情報」編集室，風見て暮らす沖島の漁師，ビワコダスで行ってきた、民俗学的知見と連携した成果について説明，（2005 年 11 月 17 日取材）。

2006 年 2 月 28 日，NHK 大津，おうみ発 610，ビワコダスが琵琶湖特有の地域気象現象に着目した研究活動を進めていることについて、出演解説，（2006 年 2 月 8 日初回取材）。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

情報システム整備および電子情報発信活動の総括，担当者。

インターネット発信情報全面更新に向けての方針や考え方の総括、および一部技術的問題の検証，担当者。

全館員向けメールメッセージの館内公開，担当者。

琵琶湖博物館学芸員個人管理ページ，管理・運営，多数更新。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005 年度，気象に関する展示の更新および維持管理，担当者。

2005 年度，水理に関する展示の更新および維持管理，担当者。

モーニングレクチャー，講演（防災に関する時間スケールの考え方について），3 回。

【企画調整活動】

滋賀県博物館協議会，協議会ページの運営（各加盟館紹介ページの更新など），担当者。

【研究部関連事業】

研究調査報告担当，号数管理・体裁統一のための連絡調整，2005 年度，琵琶湖博物館。

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005 年度，うみんど編集委員。

2005 年度，滋賀県博物館協議会広報委員会，委員。

オサムシ科を中心に地域の人とともに琵琶湖のまわりの昆虫相と系統進化を明らかにすることを研究目標としている。また、異分野の研究者と総合研究「資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」を行っている。

今年度は、7月16日～11月27日まで実施された琵琶湖博物館第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見」の展示製作と運営を中心に博物館活動を行った。この企画展示は、地域の人たちとの共同研究「滋賀県のオサムシの分布」の成果を展示にしたものである。企画展入場者は過去最高の8万人を突破し、好評のうち終了した。また、アンケート結果から展示内容においても、大人から子どもまで楽しめるように工夫がされていたなど高い評価を受けた。

企画展にあわせて展示解説書を出版したが、この中で12本のオサムシに関する原稿を一般向けに執筆した。この展示解説書は、最新のオサムシ研究の概要が分かる初めての出版物でもあり、この分野の研究推進に貢献した。これらは、日本の各研究機関や海外のオサムシ科甲虫の研究者へも送付され、国際的な研究発信を進めることにも役立った。企画展示に関連する観察会、講演会、講座などのイベントは11に及ぶが、それらすべての事業の実施あるいは運営に携わった。

その他の研究活動では、研究の分担者になっている「カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化」について4つの学会や研究会で発表を行った。また、総合研究「資料の収集・整理・保管と利用に関する研究」については、琵琶湖博物館研究報告書出版に向けてとりまとめをしているところである。

印刷物

【学術論文】

林 成多・八尋克郎・北林栄一 (2005) 大分県杵築市の平原層から産出した中期更新世の昆虫化石. *Bulletin of the Mizunami Fossil Museum*, 32 : 227-234.

【専門分野の著作】

八尋克郎 (2005) オサムシの系統解析. 日本生物教育会第60回全国大会（大阪大会）研修資料集, 日本生物教育会第60回全国大会事務局 : 68-71.

八尋克郎 (2005) オサムシってどんな虫?. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 8-9.

八尋克郎 (2005) オサムシを探せーオサムシはどこにいるんだろうー. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 10-11.

八尋克郎 (2005) オサムシレストラナーオサムシは何を食べる?ー. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 12-13.

八尋克郎 (2005) 地をはう王者オサムシーなぜ飛ばないのかー. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 14-15.

八尋克郎 (2005) オサムシの体のつくり. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 16-19.

八尋克郎 (2005) 日本固有種マイマイカブリの地域変異. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 62-63.

八尋克郎 (2005) 日本のオサムシ. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 48-51.

八尋克郎 (2005) 地域の人と共同で滋賀県のオサムシの分布を調べる. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 98-101.

八尋克郎 (2005) 滋賀県のオサムシの分布調査で明らかになったこと. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 102-105.

八尋克郎 (2005) 北の地域のオサムシはなぜ美しいのか?. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 27.

長太伸章・曾田貞滋・久保田耕平・八尋克郎 (2005) ミトコンドリア DNA で見た近畿地方のオオオサムシ亜属3種の系統関係. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書* : 64-65.

亀田佳代子・小嶋健司・近 雅博・武本大輔・八尋克郎, (2005) 飛ばない虫と飛ぶ鳥との遭遇—カワウの営巣と森林の甲虫類との関係—. *琵琶湖博物館第13回企画展示解説書*: 94-95.

【一般向けの著作】

八尋克郎 (2005) オサムシたちのパワー全開だっ!! . *うみっこ*, 17: 1-4.

八尋克郎 (2005) 琵琶湖博物館の企画展でやっている「歩く宝石・オサムシ」ってどんなムシ?. *京都新聞*: 2005年8月7日.

八尋克郎 (2005) 湖国の住人—シガラキオサムシ. *ばどタウンマガジン*, 11, : 39.

八尋克郎 (2005) オサムシの不思議. *第2回里山保全特別講演会講演要旨*, 日本鱗翅学会・日本昆虫学会.

八尋克郎・広谷ちひろ (2006) ルリセンチコガネの交尾時間. *昆虫と自然*, 41 (2) : 33.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

八尋克郎 (2005年7月15日) ミトコンドリアDNAに基づく近畿地方のオサムシ3種の系統関係. 琵琶湖博物館研究セミナー, [口頭発表].

亀田佳代子・八尋克郎 (2005年9月17日) カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化. 日本鳥学会2005年度大会, 日本鳥学会, 信州大学, 長野県, [口頭発表].

亀田佳代子・八尋克郎 (2005年12月18日) カワウの営巣による森林の甲虫群集の変化. 2005年度日本昆虫学会近畿支部大会, 日本昆虫学会近畿支部, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

亀田佳代子・八尋克郎 (2006年1月22日) カワウの営巣が森林の昆虫群集に与える影響. 日本鳥学会員近畿地区懇談会第84回例会, 日本鳥学会員近畿地区懇談会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

亀田佳代子・保原 達・大園享司・木庭啓介・石田 朗・八尋克郎 (2006年1月28日) カワウによる水域から陸域への物質輸送と環境変化の影響. 国際湿地再生シンポジウム, 国際湿地再生シンポジウム2006実行委員会, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].

Kameda, K., Yahiro, K. and Kon, M. (2006年3月26日) Direct and indirect effects of the great comorant on a beetle community in a forest. 2nd Scientific congress of East Asian Federation of Ecological Societies, EAFES (East Asian Federation of Ecological Societies), 朱雀メッセ, 新潟県新潟市, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館共同研究「滋賀県の蝶類分布および生態に関する研究」(研究代表者: 内田明彦) 共同研究者, (2003年度~2005年度).

琵琶湖博物館専門研究「オサムシ上科甲虫の系統分類学的研究および生態学的研究」(2005年度).

【学会等の役職・運営、論文の査読など】

日本昆虫学会近畿支部, 幹事, 2004年度~2005年度.

日本昆虫学会近畿支部, 自然保護委員, 2003年度~.

滋賀オサムシ研究会, 事務局, 1997年度~.

地表性甲虫談話会会報, 編集幹事, 2004年度~.

昆虫分類学若手懇談会会報 Panmixia, 編集幹事, 2004年度~2005年度.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005年5月18日、百武可奈子、西海シーパールリゾート、研修生受入「昆虫乾燥標本の資料整備活動」.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー、琵琶湖博物館、11件.

2005年7月23日、里山体験教室夏編、里山体験教室、滋賀県日野町、講師、(桙永一宏・金子修一共同).

2005年7月24日、夏休み自由研究講座(昆虫コース)、琵琶湖博物館、講師、(桙永一宏・佐々木 剛氏・武田 滋氏・南 尊演氏共同).

2005年8月4日、カブトムシ・バッタの飼い方、生き物の飼い方教室、琵琶湖博物館、講師.

2005年8月7日、ミドリセンチコガネを探しに行こう、フィールド観察会、滋賀県栗東市、講師.

2005年8月12日、オサムシの標本を作ろう、企画展関連行事、琵琶湖博物館、講師、(佐々木 剛氏・広谷ちひろ氏・北村美香氏共同).

2005年8月25日、オサムシの絵本を作ろう、企画展関連行事、琵琶湖博物館、講師、(おおすみまさこ氏・石川寛子氏・広谷ちひろ氏・青木伸子共同).

2005年12月11日、真冬の昆虫採集、フィールド観察会、滋賀県信楽町、講師.

2005年10月1日、オサムシの不思議な世界、企画展連続講座、琵琶湖博物館、講師.

2005年10月30日、オサムシの不思議、第2回里山保全特別講演会、琵琶湖博物館、講師.

2005年10月30日、日本昆虫学会近畿支部および琵琶湖博物館昆虫部門の紹介、第2回里山保全特別講演会、琵琶湖博物館、講師.

2005年11月1日、昆虫から見た琵琶湖のまわりの自然、京都府私立中学高等学校理科研究会、琵琶湖博物館、講師.

他の博物館・機関等主催行事

2005年8月5日、オサムシの系統解析、日本生物教育会・大阪府高等学校生物教育研究会、日本生物教育会第60回全国大会「ほんまにわかる生物教育の実践」、琵琶湖博物館、講師.

2005年7月9日、湖国の昆虫、淡海生涯カレッジ長浜実行委員会、平成17年度淡海生涯カレッジ長浜校問題発見講座、長浜市立六荘公民館(長浜市)、講師.

2005年7月20日、企画展「歩く宝石オサムシ」、大阪シニア自然大学、琵琶湖博物館、講師.

2005年7月31日、野菜畑の昆虫、コープ滋賀、野菜畑の昆虫の観察会(近江八幡市)、講師.

2005年9月21日、環境を考える一虫から見た滋賀県の自然環境、仰木の里公民館、けやき教養塾、仰木の里公民館(大津市)、講師.

視察対応

2005年7月19日、企画展の案内、奥本大三郎・今森光彦.

2005年7月20日、企画展の案内、大阪シニア自然大学.

2005年8月18日、企画展の案内、ホテルの学校.

2005年11月8日、企画展の案内、琵琶湖博物館協議会委員.

2005年11月13日、企画展の案内、Dr. Levin.

2006年3月1日、博物館施設、展示、資料管理に関する概要、山口県立山口博物館、動物収蔵庫など.

2006年3月3日、昆虫分野の展示のあり方、鹿児島県立博物館.

メディアへの協力

- 2005年5月29日, 毎日新聞, オサムシの模型子どもらが制作 琵琶湖博物館, オサムシの模型制作, (2005年5月29日取材).
- 2005年5月18日, みんなの滋賀新聞, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年6月28日取材). 2005年6月14日, NHK, おうみ発610びわこクローズアップ, 出演.
- 2005年7月11日, KBS 京都ラジオ, 笑福亭晃瓶のほっかほかラジオ, 出演.
- 2005年8月5日, KBS 京都ラジオ, 知っとこ滋賀, 出演.
- 2005年7月16日, みんなの滋賀新聞, 「歩く宝石」って何の虫?きょうから「オサムシ」展, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年7月10日取材).
- 2005年7月16日, みんなの滋賀新聞, 学芸員が教える里山の昆虫採集, 里山の昆虫採集, (2005年7月10日取材).
- 2005年7月23日, みんなの滋賀新聞, コガネムシ, (2005年7月18日取材).
- 2005年7月23日, 滋賀リビング新聞社, 「オサムシ探しに夢中です」, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年7月18日取材).
- 2005年7月21日, みんなの滋賀新聞, 連載・第6回 歩く宝石オサムシー 地域の人と共に調べ、伝える活動ー, 2005年7月16日, 京都新聞, 「歩く宝石」オサムシ紹介 きょうから故手塚治虫氏標本も 琵琶湖博物館, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年7月15日取材).
- 2005年7月25日, 京都新聞, 自由研究にチャレンジ 昆虫や植物標本作り 琵琶湖博物館, 夏休み自由研究講座, (2005年7月25日取材).
- 2005年7月19日, 産経新聞, 飛ばない昆虫 オサムシ紹介 琵琶湖博物館, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年7月10日取材).
- 2005年8月1日, ニュースもりやま, 虫採りに行きたくなるオサムシ展, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年7月25日取材).
- 2005年7月30日, みんなの滋賀新聞, 歩く宝石オサムシ, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年7月20日取材).
- 2005年8月12日, NHK, オサムシの標本作製, (2005年8月12日取材).
- 2005年8月13日, 京都新聞, 宝は“マイオサムシ” 草津児童らが標本作り, オサムシの標本作製, (2005年8月12日取材).
- 2005年10月16日, 朝日新聞, びわこのうちとそと オサムシの謎の巻, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年10月12日取材).
- 2005年10月16日, 守山市民新聞, 琵琶湖博物館で昆虫のふしぎ描く, 昆虫の絵画教室, (2005年10月14日取材).
- 2005年11月1日, 読売新聞, しが県民情報, 企画展「歩く宝石オサムシ」の紹介, (2005年10月22日取材).
- 2005年10月31日, 中日新聞, 第2回里山保全特別講演会, (2005年10月30日取材).
- 2005年12月9日, 朝日放送, 探偵ナイトスクープ, 水口町に巨大なバッタがいるという依頼に答えた, (2005年11月9日取材).
- 2005年11月18日, 京都新聞, マイナー「オサムシ展」子らに大人気、入場7万人突破, (2005年11月16日取材).

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

- 第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛ばない昆虫のふしぎ発見ー」インターネットホームページ開設, インターネットホームページの企画、更新.
- クエリーの質問対応, 昆虫に関する質問への回答, 11件.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

昆虫乾燥標本の葉貸出し，標本の貸出し，3件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年度，第13回企画展示「歩く宝石オサムシー飛べない昆虫のふしぎ発見ー」実施設計，主担当
企画展「フェアブルさんの仕事と、その後の発展（仮称）」，担当.

モーニングレクチャー，講義，3回.

展示交流員と話そう，内容指導.

展示交流員研修，フィールド観察、研修随行.

研究紹介展示，展示更新.

C展示室生き物コレクション回転する展示台「ゆきむし」，展示更新.

C展示室「滋賀県のオサムシ分布調査」，展示更新.

【企画調整活動】

新任職員研修，生き物コレクション概要，2005年4月19日，琵琶湖博物館C展示室.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館内の人事】

2005年度へ，展示の企画，フェアブル100年展（仮称）日本側実行委員会・企画運営委員会・企画ワーキンググループ，委員.

【館外の活動】

2003年7月1日～2006年3月31日，滋賀県生きもの総合調査委員会昆虫類部会，昆虫・クモ類部会専門委員、滋賀県レッドデータブック2005年版編集委員.

2004年12月19日，第2回里山保全特別講演会実行委員会，委員.

平成 17 年度に琵琶湖博物館を利用した学校数は、995 校で昨年度同時期と比べて 60 校の減となっている。また、生徒数は 80,105 人で、8,376 人の減である。これは、来館する学校が小グループ化してきたことや、基礎学力重視のための授業時数確保が原因ではないかと考える。また、今年度に限っては、他施設との競合ということも影響したと考えている。

このような中で、次代を担う子どもたちに如何に「湖（自然）と人間（文化）」のすばらしさを伝えていくかを考えていくことが琵琶湖博物館として重要であると考え、本研究テーマを設定した。

1 研究のねらい

○琵琶湖博物館が、学校に、より効果的に広く利用されるための手立てをさぐる。

2 教員研修についての結果と考察

学校に琵琶湖博物館をより効果的に利用してもらうためには、学校教員に琵琶湖博物館のことをよく知ってもらうことが最優先であると考えている。

そのために、博物館主催の指導者向け講座を開設したり、教員研修を積極的に受け入れてきた。教員研修を受け入れる場合は、相手先からの希望の研修内容を尊重しながらも、琵琶湖博物館として実施可能なプログラムを紹介し、内容を決定している。また、必ず、博物館教員から、学校団体の利用状況や利用方法について話をする時間を設定してもらっている。

博物館のことを広く知らせるためには、教育委員会主催の教員として必ず受ける悉皆研修において琵琶湖博物館を利用してもらうことが理想である（悉皆研修：「初任者研修」「5 年経験者研修」「10 年経験者研修」「経験者研修 II」）。琵琶湖博物館では、開館以来「経験者研修 I（H15 年度から、5 年経験者研修）」を受け入れてきた（平成 9 年度～15 年度、平成 17 年度）。これにより、滋賀県のおよそ 27 歳～35 歳の教員は、一度は、琵琶湖博物館で研修を受け、博物館の理念や利用の仕方を学んでいることになる。

実際の人数は、次のようである。

「教職経験者研修 I」「5 年経験者研修」受講者数；1,605 名

平成 9 年度：275 名 平成 10 年度：216 名 平成 11 年度：247 名 平成 12 年度：206 名

平成 13 年度：203 名 平成 14 年度：220 名 平成 15 年度：126 名 平成 17 年度：112 名

平成 17 年度滋賀県の公立学校教員数は、11,266 名（小：4,924、中：2,868、高：2,542、盲聾養：932）であるので、経験者研修だけで見ると、全体の約 14%の学校教員が、琵琶湖博物館で研修を受けていることになる。

また、今年度のアンケート結果は、回答数 250 の内、琵琶湖博物館で研修を受けたことが「ある：66」、「ない：184」であった（回収率 60%）。今回のアンケートは、回答者を教務主任にしぼったため、教務主任以上の年代の約 26%の教師が琵琶湖博物館での研修を受けたことがあることになる。教務主任を、40 歳以上と想定すると、琵琶湖博物館での経験者研修を受けていない年代であり、教育研究会の研修や自主的に講座に参加されたものと考えられる。

次は、平成 17 年度「5 年経験者研修」のために考案した研修内容である。

【平成 17 年度 5 年経験者研修】

- (1) 目的 ○学級担任・教科担任としての資質・能力の向上
○5 年の教職経験を踏まえ、今日的課題に対応できる能力の育成
- (2) 対象 教職 5 年経験の小・中・高・障害児教育諸学校教員 112 名
- (3) 日時 平成 17 年 10 月 25 日（火）＜①班＞ 11 月 22 日（火）＜②班＞
- (4) 場所 滋賀県立琵琶湖博物館 セミナー室、実習室 1・2、展示室
- (5) 内容 ＜①班、②班ともに同内容：4 班に分かれて実習＞

「学校の博物館利用について」：谷口、中村

「琵琶湖のプランクトン ～プランクトンビンゴに挑戦～」：楠岡

「植物のたねの不思議 ～ドングリの見分け方とたねの模型作り～」：布谷

「琵琶湖の生態系 ～外来魚の解剖～」：秋山

「自然環境と大地 ～地震と洪水の実験～」：里口

「館内見学 ～サポートシートを使って～」：＜展示室＞

受講者からは、「博物館を活用するためのヒントが得られた」「知識が身についた」「今後の教育活動に生かせそうだ」「環境学習のためのヒントが得られた」「知識や技能が身についた」「今後の授業に生かせそうだ」等、たいへん高い評価を得た。

3 教員研修における今後の課題

琵琶湖博物館として、悉皆研修を受け入れることが、学校利用推進の第一歩であるとする。

悉皆研修で博物館理解の裾野を拡げ、博物館主催の講座や、総合教育センター主催の講座、市町村教育委員会等の教員研修会で、より深く「湖と人間」について学べるように研修プログラムをさらに開発していく必要がある。

○悉皆研修での琵琶湖博物館の利用について教育委員会へ働きかける。

(平成18年度「5年経験者研修」は、職場体験に重点がおかれるため、博物館での研修が削除された。)

○「初任者研修」や「10年経験者研修(選択研修)」の中で、環境学習や琵琶湖博物館の利用についての講義を継続していく。

○学芸員の方々から、専門分野を生かした「今、学校(教員・生徒)に伝えたいこと」を聞き取り、プログラム開発に生かす。

印刷物

【一般向けの著作】

谷口雅之(2006)親愛なる「びわたん」メンバーへ。「びわたん」の自己紹介、地域子ども教室推進事業(文部科学省委託事業):3.

谷口雅之(2006)おわりに。子ども居場所作り近畿ブロックシンポジウム報告書:30.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

谷口雅之(2005年1月20日)琵琶湖博物館と学校とのよりよい連携の在り方をさぐるIII.琵琶湖博物館研究セミナー,琵琶湖博物館,[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

滋賀県総合教育センター 環境教育に関する研究II「琵琶湖のプランクトンと水環境学習」(研究代表者:田中玄伯),研究委員(2005年4月~2006年3月).

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2005年4月～2006年3月、「春の草花でしおりをつくろう」等12講座、「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（毎月第2第4土曜日開催）、琵琶湖博物館、担当、23件、（浅井 浩氏、平山一造氏、武田 繁氏、はしかけ共同）。

2005年7月28日～30日、先生のための湖沼学基礎講座、教員・地域活動指導者向け博物館講座、琵琶湖博物館、担当、3件。

2005年8月1日、先生のための川の生き物調査、教員・地域活動指導者向け博物館講座、館外、担当。

2005年8月4日・6日、夏休み「生き物飼いか講座」、教員向け博物館講座、琵琶湖博物館、主担当、2件。

2005年4月～2006年3月、びわたん、はしかけ活動、博物館および館外、グループ担当、40件。

2005年4月～2006年3月、学校等標本貸出事業、標本貸し出し、琵琶湖博物館、主担当。

2005年5月13日、琵琶湖博物館わくわく探検隊事業について、JICA 博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館、事業説明。

2005年9月13日、学校連携について、JICA 博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館、事業説明。

2006年3月7日、学校連携について、JICA 博物館学研修集中コース、琵琶湖博物館、事業説明。

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月～2006年3月、学校団体向け体験学習、県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校、学校団体向け体験学習、琵琶湖博物館講師、346件（136校）11,630名。

2005年4月～2006年3月、ふるさとの自然探検、こどもエコクラブ「伯母Q五郎」、草津市志津地域との連携活動、草津市内の河川および琵琶湖、アドバイザー、10件。

2005年6月16日、博物館と学校との連携について、滋賀県小学校理科部会、滋賀県小学校理科部会研究委員総会、琵琶湖博物館、講師。

2005年7月1日、博物館と学校との連携について、高槻市立松原小学校、教員研修、琵琶湖博物館、講師。

2005年7月31日、琵琶湖の水環境について、滋賀県エコライフ推進課、子ども環境特派員事業、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月1日、博物館と学校との連携について・ヨシ笛作り・プランクトン観察、滋賀県総合教育センター、初任者研修、学習船「うみのこ」、大津市、講師。

2005年8月3日、博物館と学校との連携について、三重県亀山市教育研究会 総合・生活科部会、三重県亀山市教育研究会 総合・生活科部会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月5日、琵琶湖の水環境について、笠縫公民館、わんぱくプラザ、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月7日、ヨシ笛作り、日本体育協会、スポーツ少年団全国大会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月9日～10日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2005年8月10日、外来魚の解剖実習、大阪府水道サービス公社、水源「琵琶湖」夏休み親子見学会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月11日、博物館と学校との連携について、兵庫県尼崎市中学校理科部会、兵庫県尼崎市中学校理科部会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月11日、博物館と学校との連携について、奈良県磯城郡小学校教育研究会理科部会、奈良県磯城郡小学校教育研究会理科部会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月18日、博物館と学校との連携について、滋賀県総合教育センター、環境科学講座、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月22日、博物館と学校との連携について・ヨシ笛作り・プランクトン観察、滋賀県総合教育センター、初任者研修、学習船「うみのこ」、大津市、講師。

2005年8月23日、外来魚の調理、滋賀県教育委員会、理数大好きモデルスクール研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月24日、琵琶湖博物館での体験学習、近畿日本ツーリスト、近畿日本ツーリスト研修会、琵琶湖博物館、

講師.

- 2005年8月24日, 外来魚の調理, 大津市立平野小学校, 平野小学校校内研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年8月25日, プランクトン観察, 守山市教育研究会理科部会, 守山市理科教員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年9月2日, 博物館と学校との連携について・ヨシ笛作り・プランクトン観察・化石のレプリカ作り, 蒲生・神崎社会教育主事, 蒲生・神崎社会教育主事研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年9月13日, 博物館と学校との連携について, JICA, JICA研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年10月22日, 琵琶湖の概要・博物館の概要, 大阪府立久米田高等学校PTA, 大阪府立久米田高等学校PTA研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年10月25日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県総合教育センター, 5年経験者研修, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年10月29日, プランクトン観察, キッズ・ラボ, キッズ・ラボ学習会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年10月29日, プランクトン観察, フローティングスクール, 「うみのこ」サポーター会研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年11月1日, 博物館と学校との連携について, 京都府私立中学高等学校理科部会, 京都府私立中学高等学校理科部会研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年11月22日, 博物館と学校との連携について, 滋賀県総合教育センター, 5年経験者研修, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年11月25日, 博物館と学校との連携について, 武蔵野市立小中校長会, 武蔵野市立小中校長会研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年12月6日, ポスターセッション, 環境学習支援センター, 環境学習フェア, 琵琶湖博物館, アドバイザー.
- 2005年12月7日~9日, 博物館の仕事について, 草津市立新堂中学校, 職場体験, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
- 2005年12月13日, 博物館と学校との連携について, 近畿盲学校教育研究会理科部会, 近畿盲学校教育研究会理科部会研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2005年12月17日, プランクトン観察, 笠縫公民館, 親子講座, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2006年1月25日~27日, 博物館の仕事について, 県立瀬田工業高等学校, 職場体験, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
- 2006年2月3日, 博物館と学校との連携について・プランクトン観察, 江田島市教育研究会, 江田島市教員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2006年2月10日, 琵琶湖の概要・博物館の概要, 石川県河北市教育委員会, 河北市教育委員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
- 2006年2月26日, 琵琶湖博物館での体験学習, 琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会, 近畿近隣ブロックシンポジウム, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
- 2005年4月~2006年3月, 星空解説, 滋賀県総合教育センター, 天体観望会, 滋賀県総合教育センター, 野洲市, 講師, 4件.

視察対応

- 2005年5月14日, 教育普及活動について, 福井エルドランド.
- 2005年8月29日, 教育普及活動について, 北九州いのちのたび.
- 2005年9月27日, 教育普及活動について, 北海道教育大学.
- 2005年10月4日, 教育普及活動について, 中国大連市学校長等.
- 2005年11月25日, 教育普及活動について, アメリカ教員(草津市).
- 2005年12月7日, 教育普及活動について, 退職女性校長会.
- 2006年2月1日, 教育普及活動について, 福井市自然史博物館.
- 2006年2月8日, 教育普及活動について, 未来科学館(竜王町教育委員会).

メディアへの協力

- 2005年4月4日, 滋賀ガイド, インターネット情報誌, 琵琶湖博物館わくわく探検隊事業, (2005年4月1日取材).
- 2005年4月末, みんなの滋賀新聞, 琵琶湖博物館の概要, (2005年4月2日取材).
- 2005年5月12日, 朝日学生新聞社, 朝日小学生新聞「修学旅行での体験学習」, 体験学習, (2005年5月7日取材).
- 2005年5月30日, 京都新聞社, 滋賀観光進行形, 学校団体の利用・環境学習, (2005年5月18日取材).
- 2005年6月11日, 2005年6月14日, NHK, NHK ニュース、「ぐるっと関西お昼前」, 琵琶湖博物館わくわく探検隊事業, (2005年6月11日取材).
- 2005年8月27日, 読売新聞社, しが県民情報, 自然調査ゼミナール, (2005年8月9日取材).
- 2005年9月25日, 読売新聞社, 読売新聞朝刊, 琵琶湖博物館わくわく探検隊事業, (2005年9月24日取材).
- 2006年1月6日, 読売新聞社, 読売新聞朝刊, 子どもエコクラブ「伯母Q五郎」, (2005年12月24日取材).
- 2006年2月21日, 読売新聞社, しが県民情報, 琵琶湖博物館わくわく探検隊事業, (2006年1月28日取材).
- 2006年3月12日, 朝日新聞社, 朝日新聞朝刊, ギャラリー展「こどもが見つめるふるさとの川」, (2006年3月9日取材).
- 2006年4月6日, 滋賀ケーブルネットワーク, デイリーかわらばん, ギャラリー展「博物館を楽しもうー はしかけ・フィールドレポーター活動紹介」, (2006年3月23日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2006年3月4日～2006年4月9日, ギャラリー展「こどもが見つめるふるさとの川」, 企画・調整・展示.
モーニングレクチャー, 講演, 3回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

- 2005年4月～2006年3月, びわ湖フローティングスクール運営協議会, 委員.
- 2005年4月～2006年3月, 滋賀県総合教育センター環境教育に関する研究II, 委員.
- 2005年4月～2006年3月, ふるさと草津の自然編集委員会, 委員.
- 2005年4月～2006年3月, 琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会, 委員.

平成17年度、琵琶湖博物館には995校80,105人の児童生徒が来館している。このうち、136校、11,630人の児童生徒が、団体向け体験学習を行っている。平成16年度は開館以来最高の1,055校88,481人の児童生徒の来館があり、135校、13,601人の児童生徒が体験学習を行った。滋賀県は平成17年度の学校教育の重点に「豊かな心をはぐくむ体験的学習の推進」をあげており、県内に限らず、今後も、学校団体の琵琶湖博物館での体験学習の要望は増えるものと思われる。そこで、現在あるプログラムをさらに改良し、学校の学習のねらいと琵琶湖博物館の展示と近づけるようにしていきたいと考え、次のテーマを設定し研究に取り組んだ。

1. 研究テーマ

琵琶湖博物館を利用した学習プログラムの開発

2. 結果と考察

(1) 貸し出し標本の利用について

琵琶湖博物館では、滋賀県内で見つけ出された貴重な標本を身近な学習教材として学校向けに貸し出しをしている。「貸出標本の利用の手引き」などを作成して、学校へのPRをはかっているところであるが、ほとんど利用されていない。琵琶湖博物館内で行っている団体向け体験学習やA展示室化石ギャラリーでの来館者の様子から、実体のあるものの与えるインパクトは人間の学びにとって非常に有効であると考えられる。そこで、貸し出し標本が学校の授業でたいへん有効であることを明らかにし、貸し出し標本をもっと利用していただけたようにしたいとの思いから、瀬田中学校3年生選択理科「琵琶湖学習」（3時間の授業計画）に滋賀県産化石のレプリカ標本を用い、生徒の変容を見た。生徒の変容を明らかにするために、一連の授業の初めと終わりに概念地図をかいてもらい、その変化を比較した。その結果、有意な差は証明できなかったが、生徒の学びに標本が有効であることがわかった。

(2) 教員研修について

学校による琵琶湖博物館の効果的な利用を考えた場合、学校教員が展示の意図等、博物館についてよく知っていることは欠くことのできないことである。つまり、重要になるのが教員研修である。そこで、年度中に「指導者のための博物館利用講座」を開講し、学芸員と学校の教師とがよりよい連携が取れるようにした。また中学校理科部会や環境教育研究担当者に出向き、琵琶湖博物館での教員研修の必要性を伝えるとともに、博物館と学校との連携について紹介した。

(3) 体験学習プログラム開発

平成17年度に実施した「先生のための湖沼学基礎講座」において、琵琶湖を理解するために琵琶湖の模型作りを行ったところ、たいへん好評であった。しかし、製作に時間がかかったことから、小学生高学年以上を対象に授業時間内でできる簡単な模型作成の方法（フードパックを使用し、水深をなぞる）を考案した。残念ながら、学校で実践する機会が取れなかったが、指導者研修会で4回実施し、たいへん好評を得た。

3. 今後に向けて

学芸員との連携をさらに密にし、研究者と教員の専門性を発揮し、学校・子どもにとってよりよい学びができる琵琶湖博物館をつくっていききたい。平成18年度も「理数大好きモデル地域事業」の教育資源としての利用や、指導者向け講座の開講、教員研修の積極的な受け入れを進める予定なので、協力校等と連携をとり、授業実践を通じた研究を行いたい。

印刷物

【専門分野の著作】

中村公一（2006）学校の博物館利用について．*滋賀科学*，滋賀県高等学校理科教育研究会：1-3．

【一般向けの著作】

中村公一（2006）はしかけグループ「びわたん」について．「びわたん」の自己紹介，地域子ども教室推進事業（文部科学省委託事業）：5．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

中村公一（2005年6月9日）エネルギーから環境に対する認識を深める環境学習．滋賀県総合教育センター第47回研究発表大会，滋賀県総合教育センター，滋賀県総合教育センター，[口頭発表]．

中村公一（2005年11月17日）博物館と学校との連携について．滋賀県中学校理科研究発表大会・滋賀県総合教育センター第4回理科教育講座，滋賀県中学校教育研究会・滋賀県総合教育センター，能登川中学校，滋賀県，[口頭発表]．

中村公一（2006年3月2日）博物館と学校との連携について．滋賀県中学校理科研究会第3回支部長会，滋賀県中学校教育研究会，滋賀大学附属中学校，滋賀県，[口頭発表]．

中村公一（2006年3月24日）琵琶湖博物館での体験学習プログラムの開発．琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表]．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2005年4月～2006年3月，「春の草花でしおりをつくろう」等12講座，「琵琶湖博物館わくわく探検隊」事業（毎月第2第4土曜日開催），博物館実習室等，担当，23件，（浅井 浩氏、平山一造氏、武田 繁氏、はしかけグループと共同）．

2005年7月28日～30日，「先生のための湖沼学基礎講座」，教員・地域活動指導者向け博物館講座，博物館実習室等，担当，3件．

2005年8月1日，「先生のための川の生き物調査」，教員・地域活動指導者向け博物館講座，館外，担当．

2005年8月4日・6日，夏休み「生き物飼い方講座」，教員向け博物館講座，博物館実習室，主担当，2件．

2005年4月～2006年3月，びわたん，はしかけ活動，博物館および館外，グループ担当，40件．

2005年4月～2006年3月，学校等標本貸出事業，標本貸し出し，博物館，主担当．

2005年5月13日，琵琶湖博物館わくわく探検隊事業について，JICA 博物館学研修集中コース，博物館会議室，事業説明．

2005年9月13日，学校連携について，JICA 博物館学研修集中コース，博物館会議室，事業説明．

2005年12月10日・2006年2月25日，「指導者のための博物館利用講座」，教員向け博物館講座，博物館実習室等，担当，2件．

2006年3月7日，学校連携について，JICA 博物館学研修集中コース，博物館実習室，事業説明．

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月～2006年3月，学校団体向け体験学習，県内県外各小中高等学校障害児教育諸学校，学校団体向け体験学習，琵琶湖博物館，講師，346件（136校）11,630名．

2005年4月～2006年3月、ふるさとの自然探検、こどもエコクラブ「伯母Q五郎」、草津市志津地域との連携活動、草津市内の河川および琵琶湖、アドバイザー、10件。

2005年6月16日、博物館と学校との連携について、滋賀県小学校理科部会、滋賀県小学校理科部会研究委員総会、琵琶湖博物館、講師。

2005年7月1日、博物館と学校との連携について、高槻市立松原小学校、教員研修、琵琶湖博物館、講師。

2005年7月27日、琵琶湖の水環境について、大阪科学技術センター、現地研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年7月31日、琵琶湖の水環境について、滋賀県エコライフ推進課、子ども環境特派員事業、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月3日、博物館と学校との連携について、三重県亀山市教育研究会 総合・生活科部会、三重県亀山市教育研究会 総合・生活科部会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月3日、博物館と学校との連携について、中部電力、三重県津市教員研修、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月4日、琵琶湖の水環境について、高槻市奥坂コミュニティーセンター、高槻市奥坂コミュニティーセンター県外研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月7日、ヨシ笛作り、日本体育協会、スポーツ少年団全国大会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月9日～10日、琵琶湖博物館での体験学習、滋賀県中学校理科部会、自然調査ゼミナール、琵琶湖博物館、アドバイザー。

2005年8月10日、博物館と学校との連携についてとヨシ笛作り、滋賀県総合教育センター、平成17年度環境教育研究協議会、総合教育センター、野洲市、講師。

2005年8月11日、博物館と学校との連携について、兵庫県尼崎市中学校理科部会、兵庫県尼崎市中学校理科部会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月11日、博物館と学校との連携について、奈良県磯城郡小学校教育研究会理科部会、奈良県磯城郡小学校教育研究会理科部会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月18日、博物館と学校との連携について、滋賀県総合教育センター、環境科学講座、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月23日、外来魚の解剖、滋賀県教育委員会、理数大好きモデルスクール研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月24日、琵琶湖博物館での体験学習、近畿日本ツーリスト、近畿日本ツーリスト研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月24日、外来魚の調理、大津市立平野小学校、平野小学校校内研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年8月25日、プランクトン観察、守山市教育研究会理科部会、守山市理科教員研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年9月1日、水質調査について、草津市立老上小学校、教員研修、琵琶湖博物館、講師。

2005年9月2日、博物館と学校との連携について・ヨシ笛作り・プランクトン観察・化石のレプリカ作り、蒲生・神崎社会教育主事、蒲生・神崎社会教育主事研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年9月13日、博物館と学校との連携について、JICA、JICA研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年10月15日、琵琶湖の概要・博物館の概要、財団法人 琵琶湖・淀川水質保全機構、ジュニアリバースクール、琵琶湖博物館、講師。

2005年10月25日、博物館と学校との連携について、滋賀県総合教育センター、5年経験者研修、琵琶湖博物館、講師。

2005年10月29日、琵琶湖の概要と模型作り、フローティングスクール、「うみのこ」サポーター会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年11月5日、琵琶湖の概要、大阪府教職員互助組合、大阪府教職員互助組合研修、琵琶湖博物館、講師。

2005年11月22日、博物館と学校との連携について、滋賀県総合教育センター、5年経験者研修、琵琶湖博物館、講師。

2005年11月25日、博物館と学校との連携について、武蔵野市立小中校長会、武蔵野市立小中校長会研修会、琵琶湖博物館、講師。

2005年12月6日, ポスターセッション, 環境学習支援センター, 環境学習フェア琵琶湖博物館, アドバイザー.
2005年12月7日~9日, 博物館の仕事について, 草津市立新堂中学校, 職場体験, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
2006年1月25日~27日, 博物館の仕事について, 県立瀬田工業高等学校, 職場体験, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
2006年2月3日, 博物館と学校との連携について・プランクトン観察, 江田島市教育研究会, 江田島市教員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2006年2月10日, 琵琶湖の概要・博物館の概要, 石川県河北市教育委員会, 河北市教育委員研修会, 琵琶湖博物館, 講師.
2006年2月26日, 琵琶湖博物館での体験学習, 琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会, 近畿近隣ブロックシンポジウム, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.
2006年3月5日, 琵琶湖博物館の概要と体験学習について, 滋賀大学教育学部, 自主参加体験, 琵琶湖博物館, 受け入れ側担当.

視察対応

2005年5月14日, 教育普及活動について, 福井エルドランド.
2005年8月29日, 教育普及活動について, 北九州いのちのたび.
2005年9月27日, 教育普及活動について, 北海道教育大学.
2005年10月4日, 教育普及活動について, 中国大連市学校長等.
2005年11月25日, 教育普及活動について, アメリカ教員(草津市).
2005年11月30日, 教育普及活動について, 教員(愛知県豊田市西広瀬小学校).
2005年12月7日, 教育普及活動について, 退職女性校長会.
2006年2月1日, 教育普及活動について, 福井市自然史博物館.

メディアへの協力

2005年6月3日, NHK 大津放送局, 琵琶湖博物館わくわく探検隊について, (2005年6月3日取材).
2005年6月3日, BBC びわ湖放送局, 琵琶湖博物館わくわく探検隊について, (2005年6月3日取材).
2005年6月15日, あいあいAI 滋賀, 琵琶湖博物館わくわく探検隊について, (2005年6月11日取材).
2005年11月25日, 京都新聞, プランクトンの観察と模型の作成の授業について, (2005年11月24日取材).
2006年2月14日, 読売新聞, 琵琶湖博物館わくわく探検隊について, (2006年2月11日取材).
2006年3月7日, 中日新聞, ギャラリー展示「子どもが見つめるふるさとの川ー子どもエコクラブ伯母Q五郎のたからものー」の開催について, (2006年3月4日取材).
2005年3月10日, BBC びわ湖放送局, 琵琶湖博物館わくわく探検隊について, (2006年3月10日取材).
2005年3月14日, 読売新聞, 琵琶湖博物館わくわく探検隊について, (2006年3月11日取材).

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2006年3月4日~2006年4月9日, ギャラリー展「子どもが見つめるふるさとの川」, 企画・調整・展示.
モーニングレクチャー, 講演, 3回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【館外の活動】

2005年4月~2006年3月, 「ふるさと草津の自然」編集委員会, 委員.

2005年4月～2006年3月，理数大好きモデル地域推進事業，推進委員.

2005年4月～2006年3月，琵琶湖博物館子ども体験教室実行委員会，委員.

芦谷 美奈子 ASHIYA, Minako

水生植物学（理学修士）

主任学芸員

研究部博物館学研究領域

（兼）事業部展示担当

体調不良によって原稿作成が困難なため、本年度の業績等については、来年度に掲載する。

民俗学部門担当の学芸職員として、開館以来、民俗資料の収集・整理・利用、民俗分野に関する交流・情報・展示の各事業を担当している。伝統的な日本の暮らしを探究して得られた成果がこれからの社会に大いに役立てられるのではないかという見通しをもって、日々の仕事に取り組んできた。特に、琵琶湖水系の漁撈、淡水魚食文化をテーマに調査研究した成果を資料整理、展示や交流活動の場で活かしてきたが、2004年度博物館資料展「糸を紡いで布を織る－民具の復元・再現・体験－」をきっかけとして、地域住民とともに探究し、実践し、技を継承していく方向性と可能性に気づいた。そこで、2005年度より専門研究のテーマとして「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」を掲げ、はしかけグループ「近江はたおり探検隊」や「展示室を楽しくする会（工房に集う会）」の活動の中で、研究的実践を進めている。

2004年7月に結成した「近江はたおり探検隊」では、前年度に引き続き県内外の機織り技術の調査、月1回の研究会、月2回、糸作りや機織り技術の体験伝承を行う「織姫の会」を活動のベースとし、2005年度には生活実験工房の畑で世界の12種類の棉や藍の栽培を行い、伝統的な近江の藍染木綿の復元に向けて守山市で百数十本の和棉も栽培した。「綿からの糸紡ぎ」を軸とした体験学習プログラムも、博物館のわくわく探検隊事業、美術教員研修、小学校の授業、公民館・市民団体の活動の場で開催。誰もが身につけているものに使われている「綿」。植物の綿からつくった糸を機にかけて織り上げた布から作られるという事実を自分で体験して実感するという経験が、日常的なものの見方を全く変えてしまうことを小学生の感想文から知り、自分たちのやっている活動の深い意味に気づかされた。一方、近江上布の原型となる高宮布の復元も遠い大きな目標として掲げ、麻織物の技術調査や実践を行っている姿が取材され、染織関係の専門雑誌「染織α」で紹介された。こうした地道な活動の中で、研究者や専門技術者、機織り愛好者、まちづくり関係者、同様の活動を行っている団体などのネットワークがどんどんと広がっている。1月からは活動の拠点を生生活実験工房に置くこととなり、さらに博物館活動と関わる形で発展していくことが期待される。

それに加えて、生活実験工房の田んぼで開催されていた「田んぼ体験教室」が2004年度で終了することを受けて、はしかけ会員も関わる形で田んぼでの米作りができないだろうかと提案し、2005年度より「生活実験工房に集う会」として取り組むことになった。工房担当の北川囑託員の指導のもと、はしかけ会員とともに昔ながらの道具を使った田植え、稲刈り、脱穀、わら細工づくりを行うことができた。こうした昔の道具を使った昔の暮らし体験については、次年度以降も実践を積み重ねていきたい。

2005年度に特筆すべきは、開館以来の本館収蔵民具資料整理の集大成として、琵琶湖水系の漁労習俗用具の資料目録を刊行できたことである。資料写真の撮影、資料データの採集とデータ入力、実測図の作成など、歴史資料整理室メンバーの地道な作業の成果である。特に、この10年の間に囑託員として整理作業の中心となって下さった國分政子さん、細川真理子さん、2006年度から囑託員となった辻川智代さん、そして、編集責任者としてすべてをまとめてくださった用田政晴総括学芸員の尽力なしには完成できなかった。本目録刊行にあわせ、開館以来10年の民具資料整理の歩みを振り返り、今後、民具の資料整備に関わる人々の指針となるべく、民具の受け入れ、整理方法、利活用についてとりまとめ、掲載した。

事業部の業務としては、前年度からのQuery（電子メールによる質問受付）対応の担当に加え、博物館の質問コーナー担当として、博物館利用者からの問い合わせ窓口・対応記録のとりまとめ業務を行った。配属部署が交流センターに移ったことで、学校や地域団体の利用受付や博物館で行う体験学習プログラム、観察会・見学会、講座などの交流行事やはしかけ制度などの現状と問題を知る機会に恵まれた。その中で、従来の内容では博物館を利用するのが難しい人々に博物館を利用する門戸を広げていく方向性と可能性に気づかされた。これについては専門研究を進める中で、痴呆のある高齢者、学校不適応の子どもたち、孤独な育児に向き合う母親、日本語や心身にハンデのある方々などに対し、生活実験工房とその周辺の田畑・森林を使った昔の暮らし体験ができる機会を提供する可能性を広げていけたらと夢を描いている。

印刷物

【専門分野の著作】

- 中藤容子（2006）琵琶湖博物館開館以降の民具資料の整理・登録・保管の歩み。琵琶湖博物館資料目録 民具資料 1 琵琶湖水系漁撈習俗資料（1），13，琵琶湖博物館：10-15.
- 中藤容子（2006）琵琶湖博物館における民具資料の活用について。琵琶湖博物館資料目録 民具資料 1 琵琶湖水系漁撈習俗資料（1），13，琵琶湖博物館：16-17.
- 中藤容子（2006）琵琶湖博物館企画展示『湖の魚・漁・食』での民具資料の活用。琵琶湖博物館資料目録 民具資料 1 琵琶湖水系漁撈習俗資料（1），13，琵琶湖博物館：22-24.
- 中藤容子（2006）琵琶湖博物館民俗資料展における民具資料の活用。琵琶湖博物館資料目録 民具資料 1 琵琶湖水系漁撈習俗資料（1），13，琵琶湖博物館：25-26.
- 中藤容子（2006）はしかけグループ「近江はたおり探検隊」による活動。琵琶湖博物館資料目録 民具資料 1 琵琶湖水系漁撈習俗資料（1），13，琵琶湖博物館：27-30.
- 中藤容子（2006）琵琶湖博物館民具資料登録管理についての手引き。琵琶湖博物館資料目録 民具資料 1 琵琶湖水系漁撈習俗資料（1），13，琵琶湖博物館：31-34.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

- 中藤容子（2006年1月20日）現代社会に対して博物館学芸員はいかに貢献していけるかー琵琶湖博物館の民具資料をめぐる実践と可能性ー。琵琶湖博物館研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 中藤容子（2006年2月8日）「麻と人びとの昔・今・未来」ー「麻」とは何か？. 第42回琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].
- 中藤容子（2006年3月15日）近江はたおり探検隊の活動と今後の課題。第21回近江はたおり研究会，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

琵琶湖博物館専門研究「博物館における民具資料の存在意義と利用価値の再発見」（2005年度）.

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005年5月17日，西海パールシーリゾート 百武加奈子，民具資料の整理・保管と活用方法指導.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

フロアトーク・質問コーナー，琵琶湖博物館 12件.

2004年5月17日～2005年2月12日，はたおり探検，県内外資料館、織物産地など，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，12回.

2005年4月6日～2006年3月18日，織姫の会，琵琶湖博物館など，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，18回.

2005年4月13日～2006年3月15日，近江はたおり研究会（第10回～第21回），琵琶湖博物館など，はしかけ「近

江はたおり探検隊」活動，12回。

2005年5月8日～2006年3月27日，工房に集う会・展示室を楽しくする会，琵琶湖博物館，はしかけ活動，18回。

2005年9月10・24日，草木染めをしよう，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，2回。

2005年10月8・22日，綿から糸をつくってみよう，わくわく探検隊，琵琶湖博物館，はしかけ「近江はたおり探検隊」活動，2回。

2005年5月12日，民俗資料の整備方法，JICA 博物館集中コース，琵琶湖博物館，

2005年12月7日・2006年3月17日指導者のための博物館利用講座，琵琶湖博物館，2回。

2006年3月5日，はしかけ登録講座，琵琶湖博物館，はしかけ活動紹介。

2006年3月22・29日，糸紡ぎ体験会，ギャラリー展「博物館を楽しもう」関連行事，琵琶湖博物館，はしかけ活動紹介，2回。

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月16日・9月10日，糸紡ぎ、草木染め，NPO 子どもネットワークセンター天気村，こんぺいとうクラブ，琵琶湖博物館，2件。

2005年7月12日，琵琶湖博物館におけるはしかけ活動，大津生涯学習センター，琵琶湖博物館。

2005年8月8日，糸紡ぎワークショップ美術教員研修，MIHO MUSEUM（信楽町），はしかけ「近江はたおり探検隊」協力。

2005年10月7日，昔のくらしと道具—綿から糸をつくる—，彦根市立城西小学校3年生，琵琶湖博物館。

2005年10月15日，種をとばしてみよう，瀬田小学校（大津市），はしかけ「びわたん」協力。

2005年10月16日，種飛ばし教室，栗東森林のフェスティバル実行委員会，第1回栗東森林のフェスティバル，県民の森 こんぜの里周辺（栗東市），

2005年10月23日，秦荘町歴史文化資料館，弥生機の機織体験，秦荘町歴史文化資料館（秦荘町），はしかけ「近江はたおり探検隊」協力。

2005年10月22日，綿からの糸紡ぎ，金田学区子ども体験活動協議会，コットン教室，琵琶湖博物館，はしかけ「近江はたおり探検隊」協力。

2005年11月24日，野洲市，悠紀大学院，琵琶湖博物館。

2005年11月30日・12月7日，糸紡ぎ体験会，守山市民交流センター，第1回もりやま市民活動屋台村，守山市民交流センター（守山市），はしかけ「近江はたおり探検隊」協力。

2006年2月2日，昔のくらしから学ぶ，神戸市立多聞東中学校1年生，琵琶湖博物館。

視察対応

2005年7月1日，水をめぐる学習，高槻市立松原小学校教員，展示室内。

2005年7月12日，体験学習と博物館と住民との関わり，沖縄県立博物館友の会，展示室内。

2005年10月17日，綿からの糸紡ぎ，浅井町歴史民俗資料館，生活実験工房。

メディアへの協力

2005年8月号，染織と生活社，染織α，湖国の伝統染織「近江の麻を巡る人々」。

【情報整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗データベース（Web 公開版）の整備，主担当。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

民俗収蔵庫維持管理業務， 主担当.

環境収蔵庫維持管理業務， 副担当.

民俗・環境資料の収集・受入， 主担当.

民俗・環境資料の整理・登録， 主担当.

機織り用具の制作（「近江はたおり探検隊」活動）

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005 年度， 常設展示 B 展示室「湖に生きる人々」コーナー管理， 主担当.

屋外展示生活実験工房の畑に綿・苧麻・藍を栽培， はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

展示交流員と話そう（堅田の漁師について）， 内容指導.

モーニングレクチャー， 講演， 3 回.

他博物館・機関の活動

守山市民交流センター， 2005 年 11 月 21 日～12 月 17 日， 第 1 回もりやま市民活動屋台村， ポスターと機織り用具の展示・実演， はしかけ「近江はたおり探検隊」活動.

【企画調整活動】

新人職員研修， 2005 年 4 月 14 日， 琵琶湖博物館 B 展示室.

印刷物

【専門分野の著作】

青木伸子・北村美香（2005）琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」の活動紹介. *博物館研究*, 41 (2), 日本博物館協会 : 16-20.

【一般向けの著作】

青木伸子（2005）滋賀県立琵琶湖博物館「はしかけ」さん. *月刊ミューゼ*, 71, アム・プロモーション : 15.

青木伸子（2005）人生を彩る場所—博物館. 三根, *輝く女性の生き方100*, II, 本の泉社 : 92-93.

青木伸子（2006）琵琶湖博物館のはしかけ制度. *国際シンポジウム「世界の現場から、今、博物館教育を問う」*, 東京国立博物館 : 86.

青木伸子（編）（2006）*地域子ども教室推進事業 近畿近隣ブロックシンポジウム報告書*. 琵琶湖博物館 : 30.

青木伸子（2006）「びわたん」の概要・設立意図. 「びわたん」の自己紹介, 地域子ども教室推進事業（文部科学省委託事業） : 5-6.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

川嶋宗継・井阪尚司・中村大輔・青木伸子（2006年1月29日）子ども湿地交流会議. 国際湿地再生シンポジウム 2006, 滋賀県, 大津プリンスホテル, 滋賀県, [ファシリテーター].

青木伸子（2006年2月4日）琵琶湖博物館のはしかけ制度. 国際シンポジウム「世界の現場から、今、博物館教育を問う」, 東京国立博物館, 東京国立博物館, 東京都, [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2005年4月～2006年3月, 春の草花でしおりをつくろう他 11 講座, 琵琶湖博物館わくわく探検隊, 琵琶湖博物館, 主担当, 23 件, (はしかけグループ, 平山一造氏, 浅井 浩氏, 武田 繁氏共同).

2005年4月～2006年3月, びわたん, はしかけ活動, 琵琶湖博物館, 担当, 40 件.

2005年4月～2006年3月, 一般団体館内利用支援, 琵琶湖博物館, 主担当.

2005年4月～2006年3月, 地域・一般団体館外利用支援, 琵琶湖博物館, 副担当.

2005年5月13日, 琵琶湖博物館わくわく探検隊について, JICA 博物館学研修集中コース, 琵琶湖博物館, 講師.

2006年8月25日, オサムシの絵本をつくろう, 企画展関連行事, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2005年4月～2006年3月、学校団体向け体験学習、県内外各小中高等学校障害児教育諸学校、学校団体向け体験学習、琵琶湖博物館、講師、346件（136校）11,630名。

2005年5月4日、ヨシ笛づくり、氷室子ども会、子ども会行事、琵琶湖博物館、講師。

2005年5月26日、一般団体向け体験学習、守山ヨシ笛アンサンブル、ヨシ笛教室、小津公民館、守山市、講師。

2005年6月16日、琵琶湖の生物を利用した理科学習「魚コース」、滋賀県総合教育センター、理科教育講座、琵琶湖博物館、講師。

2005年6月18日、ヨシ笛づくり、彦根市鳥居本地区公民館、体験学習（ウィークエンドクラブ）、琵琶湖博物館、講師。

2005年6月26日、ヨシ笛づくり、化石のレプリカづくり、日本青年会議所（近畿地区滋賀ブロック協議会）、野洲川リバーフェスタ2005、野洲川河川敷、守山市、講師。

2005年7月10日、化石のレプリカづくり、平城西地区こども会交流会、子ども会行事、琵琶湖博物館、講師。

2005年7月25日、ヨシ笛づくり、佐川美術館、佐川キッズミュージアム、佐川美術館、守山市、講師。

2005年8月7日、ヨシ笛づくり、日本体育協会、スポーツ少年団体育協会、琵琶湖博物館、講師。

2005年9月4日、博物館の概要説明、アルクラブ、体験学習、琵琶湖博物館、講師。

2005年9月23日、草花でしおりをつくろう、由の里子供会、子ども会行事、琵琶湖博物館、講師。

2005年10月15日、交流事業の紹介、パワフル交流・市民の日実行委員会、第6回パワフル交流・市民の日、草津市まちづくりセンター、草津市、

2005年10月29日、ヨシ笛づくり、守山合唱団ほたる、体験学習、琵琶湖博物館、講師。

2005年10月30日、青花に親しもう、草津市立常磐小学校、地域協働合校、草津市立常磐小学校、草津市、講師。

2005年11月6日、化石のレプリカづくり、いずみ園・わかくさ園、体験学習、琵琶湖博物館、講師。

2005年12月4日、昔の生活体験、武生南地区母親くらぶ、子どもの体験教室、琵琶湖博物館、講師。

2005年12月19日、水の旅、国立淡路青年の家、あわじジュニアサイエンスチャレンジ、南あわじ市立賀集小学校、兵庫県、講師。

2006年2月16日、外来魚調理実習、草津第二公民館、水環境学習講座、琵琶湖博物館、講師。

2006年2月12日、子ども向け体験学習の紹介、財団法人滋賀県文化振興事業団、アートはみんなのもの、滋賀県立草津文化芸術会館、草津市、講師。

2006年2月18日、子ども向け体験学習の紹介、草津市環境課、第5回草津市こども環境会議実行委員会、草津市役所アトリウム、草津市、

2006年3月4日、化石のレプリカづくり、八幡児童館、児童館行事、琵琶湖博物館、講師。

視察対応

2005年10月26日、琵琶湖博物館子ども体験教室について、天竜川総合学習館かわらんべ、琵琶湖博物館。

2006年2月8日、教育普及活動について、未来科学館（竜王町教育委員会）、琵琶湖博物館。

2006年2月9日、琵琶湖博物館における体験学習について、ソウル歴史博物館、琵琶湖博物館。

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006年1月, いろいろなコマを作ってみよう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施, 2件.

2006年2月, 鬼のお面を作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 企画・実施, 2件.

2006年2月～3月, 雛人形を作ろう, カウンタープログラム, 琵琶湖博物館, 実施, 2件.

2006年3月26日, お手玉を作ろう, はしかけ活動, 琵琶湖博物館, 企画・実施.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年12月1日～2006年3月31日, ディスカバリールーム維持管理・運営, 分担.

2006年3月21日, 「丸子船に使われている木」展示, 企画・展示.

2006年3月, 博物館を楽しもう, 企画・展示.

印刷物

【一般向けの著作】

磯野なつ子・堀田桃子（2005）特集ディスカバリールーム．うみんど，36，琵琶湖博物館：1-3.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

磯野なつ子（2005年10月8日～10日）インタープリテーションのめざすもの．環境教育スキルアップセミナー，独立行政法人国立青年の家，国立あわじ青年の家，兵庫県，[講師，指導助言，ワークショップ指導，実技補助].

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

- 2005年4月，ちょうちよを作ろう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.
- 2005年5月，こいのぼりを作ろう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.
- 2005年7月，短冊に願い事を書こう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.
- 2005年7月，カイコのマユから糸をとろう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.
- 2005年8月，カイコで日本のおもちゃを作ろう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.
- 2005年8月1日，8日，博物館実習，ディスカバリーボックスの制作，琵琶湖博物館，指導.
- 2005年10月12日，先人の知恵と工夫，スクールプログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.

視察対応

2005年11月8日，神奈川県立宮ヶ瀬ビジターセンター，ディスカバリールーム.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

- 2005年度，ディスカバリールーム，維持管理・運営.
- 2005年6月，世界の子どもたち、フィンランド，展示更新.
- 2005年7月，ディスカバリールーム，ディスカバリーボックス、カブトムシのおはなし，企画・展示.
モーニングレクチャー，講演，3回.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2005年8月3日, 博物館実習, 樹脂封入標本作成実習, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年11月26日, 秋の里山探検, 観察会, 大津市, 協力.

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

収蔵庫温湿度データ収集・管理.

映像収蔵庫及び特別収蔵庫における空気攪拌実験の実施.

樹脂標本作成の運営マニュアル作成.

VBAによる珪藻データベースの作成.

VBAによる微小生物静止画データベースの作成.

VBAによる甲殻類データベースの作成.

微小生物の静止画撮影及び整理, 192件.

珪藻液浸標本の整理, 1929件.

珪藻プレパラート標本の整理, 1065件.

珪藻静止画の整理, 23451件.

無脊椎動物標本整理, 486件.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年6月6日, C展示室 生き物コレクション「プランクトン」, 展示更新.

2005年7月11日, C展示室 生き物コレクション「プランクトン」, 展示更新.

2005年9月26日, C展示室 生き物コレクション「プランクトン」, 展示更新.

2005年12月12日, C展示室 生き物コレクション「プランクトン」, 展示更新.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2005年8月13・27日、紙すきをしよう、体験学習、琵琶湖博物館、リーフレット「雁皮紙ってなんだろう」作成、2件。

【資料整備活動】

琵琶湖博物館の活動

小牧家資料の整理、指導・実施、約1400点。

歴史資料修理保存処理委託、指導、東寺文書30点。

歴史資料撮影委託、準備、4件（15点）。

歴史資料写真・フィルムの整理、実施。

購入歴史資料調査、実施、2件。

特別収蔵庫・映像収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室のpH測定、実施、10回（4～11・1・3月）。

特別収蔵庫・映像収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室・B展示室内温湿度記録計用紙交換、実施、11回（毎月）。

特別収蔵庫・一時保管庫・古文書整理室の定期清掃、実施、11回（毎月）。

低酸素濃度殺虫処理法、検討・実施、3件。

虫害対策としての生物環境調査（トラップ）、実施、2回。

防虫防霉調査委託、指導、2回。

歴史資料整備・保存の業務マニュアル作成、作成。

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005年3月23日～4月17日、トピック展示「日吉山王祭礼図」、企画・調整・展示。

2005年7月20日～9月25日、トピック展示「紙の王様 雁皮紙」、企画・調整・展示。

2005年12月23日～2006年2月26日、ギャラリー展示「タガベエのため池探検」、歴史資料展示・返却。

印刷物

【一般向けの著作】

磯野なつ子・堀田桃子（2005）特集・ディスカバリールーム。うみんど，36，琵琶湖博物館：1-3.

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2006 年度，博物館を楽しもう，はしかけグループ担当.

2005 年 5 月，良く観て作る「コイ」，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施，4 件.

2005 年 6 月，良く観て作る「チョウ」，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施，4 件.

2005 年 7 月，かみしばい「かぶとむしのぶんた」，カウンターイベント，琵琶湖博物館，企画・実施，3 件.

2005 年 7 月，短冊に願い事を書こう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.

2005 年 8 月，オケラの水泳，カウンターイベント，琵琶湖博物館，企画・実施，2 件.

2005 年 8 月～10 月，人形劇「ふしぎな庭」，企画展関連イベント，琵琶湖博物館，企画・上演補助，4 件.

2004 年 8 月 1・8 日，ディスカバリーボックスの製作，博物館実習，琵琶湖博物館，講師.

2005 年 9 月，伝統玩具俵ころがしを作ろう，カウンターイベント，琵琶湖博物館，企画・実施，2 件.

2005 年 10 月，繭の糸取り，カウンターイベント，琵琶湖博物館，企画・実施，4 件.

2006 年 1 月，思い出して作る「鏡餅」，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.

2006 年 2 月，鬼のお面を作ろう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施.

2006 年 2 月～3 月，雛人形を作ろう，カウンタープログラム，琵琶湖博物館，企画・実施，3 件.

2006 年 3 月 26 日，お手玉を作ろう，はしかけ活動，琵琶湖博物館，企画・実施.

視察対応

2005 年 5 月 17 日，ディスカバリールーム業務説明，させぼパールシーセンター，琵琶湖博物館.

2005 年 10 月，ディスカバリールーム業務説明，ライフパーク倉敷科学センター，琵琶湖博物館.

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

2005 年度，ディスカバリールーム，維持管理・運営.

2005 年 5 月 6 日，「音のへや」展示更新・南米の楽器，企画・展示.

2005 年 5 月 29 日，「ディスカバリーボックス」展示・川原の石ころ，企画・展示.

2005 年 6 月 1 日，「世界の子どもたち」展示更新・フィンランドの夏休み，企画・展示.

2005 年 8 月 18 日，「音のへや」展示更新・アフリカの楽器，企画・展示.

2005 年 11 月 1 日，「世界の子どもたち」展示更新・フィンランドの冬休み，企画・展示.

2005 年 11 月 29 日，「ミクロの世界」展示更新・火山でできた石，企画.

2005年12月1日、「ミクロの世界」展示更新・イタチとテンのうんこ，企画・展示，
2006年1月4日、「音のへや」展示更新・日本の楽器，企画・展示.
2006年3月21日、「丸子船に使われている木」展示，企画・展示.
モーニングレクチャー，講演，3回.
交流員と話そう（アカハライモリ），内容指導.

印刷物

【一般向けの著作】

北村美香（2006）参加者から見る「びわたん」．びわたんの自己紹介＜報告書＞：43-47．

北村美香（2006）びわたん活動報告．地域子ども教室推進事業 近畿近隣ブロックシンポジウム報告書．

青木伸子・北村美香（2006）琵琶湖博物館はしかけグループ「びわたん」の活動紹介—博物館における協働モデルの提示—．博物館研究, 2 (41), (財) 日本博物館協会：16- 20．

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

北村美香(2005年5月13日)わくわく探検隊活動報告, JICA 博物館学研修集中コース, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

北村美香（2005年6月9日）博物館における広報及びマーケティングについて，第39回琵琶湖博物館特別研究セミナー，琵琶湖博物館，[口頭発表].

北村美香（2005年8月13日）活動報告，友の会サミット，大阪自然史博物館，大阪自然史博物館，大阪市，[口頭発表].

北村美香（2006年2月26日）地域子ども教室推進事業 近畿近隣ブロックシンポジウム，琵琶湖博物館，[口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

国立民族学博物館常設展示改善プロジェクト「国立民族学博物館常設展示における来館者動向について」（研究代表者：佐々木 亨），研究協力者（2005年4月3日～2006年3月15日）．

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005年12月13日，京都橘大学文化政策学学部，博物館機能論．

【受賞など】

京都橘大学学生表彰，北村美香，2006年3月17日，滋賀県立琵琶湖博物館における「びわたん」の活動について．

博物館事業に関する業績

【交流・サービス事業】

琵琶湖博物館の主催行事

2005年4月～2006年3月，春の草花でしおりをつくろう他11講座，琵琶湖博物館わくわく探検隊，琵琶湖博物館，24件．

2005年7月14日，企画展関連イベント「オサムシの標本をつくろう」，琵琶湖博物館，講師．

2005年8月3日, 自然調査ゼミナール, ワークショップ実施, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年9月23日, 由の里子供会, ワークショップ実施, 琵琶湖博物館, 講師.

2005年11月24日, 滋賀県総合教育センター研究会, ワークショップ実施, 琵琶湖博物館, 講師.

他の博物館・機関等主催行事

2005年7月22日・8月22日, ワークショップ実施, 佐川美術館, SAGAWA キッズミュージアム, 佐川美術館 (守山市), 講師.

2005年9月8日, ワークショップ実施, 山口萩博物館, ボランティアメッセ 2005, 山口萩博物館 (山口県), 講師.

印刷物

【学術論文】

青島 晃・土屋光永・中島幸子・野嶋宏二・松井孝友（2005）1944年東南海地震により発生し静岡県西部地方と三重県南部地方で記録された地鳴りの方向性. *歴史地震*, 20, 日本歴史地震学会：75-89.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

野嶋宏二（2005年12月10日）浜松市引佐町谷下産（中期更新世・約34万年前）の新種フナ化石. 第14回ワークショップ・浜名湖をめぐる研究者の会, 東京大学大学院農学生命科学研究科附属実験所, 静岡県, [ポスター発表].

野嶋宏二（2006年3月17日）日本列島中部・浜松市引佐町谷下産中期更新世（MIS 9）の絶滅した未記載種化石フナ. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

印刷物

【学術論文】

Fujita, Y. and Ohtsuka, T. (2005) Diatoms from paddy fields in northern Laos. *DIATOM*, 21 : 71-89.

【専門分野の著作】

藤田裕子・大塚泰介・松田 晃 (2005) 北部ラオス、バン川流域の水田に生息する珪藻の多様性. *総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2 2004年度報告書*: 153-157.

藤田裕子・小手川隆志 (2005) 北部ラオス、水田の藻類に影響を及ぼす要因は何か. *総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2 2004年度報告書*: 158-161.

藤田裕子 (2005) 水田で藻類の生態を探る. *熱帯生態学会ニュースレター*, 60 : 1-5.

【一般向けの著作】

藤田裕子 (2005) 牛にひかれてラオス. *はしかけニュースレター*, 3回連載.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

藤田裕子 (2005年7月15日) 北部ラオス、稲作と水田藻類との関係を探る. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

藤田裕子・大塚泰介 (2005年11月6日) ラオス北部、山岳地帯の水田に生息する珪藻. 日本珪藻学会第25回研究集会, 日本珪藻学会, 島根大学, 島根県, [ポスター発表].

Kotegawa, T., Tomita, S., Fujita, Y. and Sakurai, K. (2006年3月16日) Rice production and ecosystem of paddy field in Na Savang village. International Workshop on Indigenous Eco-knowledge and Development in Northern Laos, Research Institute for humanity and Nature (RIHN), Japan, Center for Southeast Asian Studies (CSEAS), Kyoto University and National Agriculture and Forestry Research Institute (NAFRI), Lao PDR, Provincial Agricultural and Forestry Office (PAFO) and Na Savang Village, Muang xay and Na Savang village, Oudomxay Province, Lao PDR, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2「アジア・熱帯モンスーン地域の地域生態史の統合的研究」(研究代表者: 秋道智彌), 共同研究者 (2004年4月-2007年2月).

財団法人ユアサ国際教育学術交流財団・国際共同調査研究助成「農作地環境の違いによる地下水汚染実態分析ーラオスとウズベキスタン共和国を比較してー」(研究代表者: 川端良子), 研究協力者 (2002年4月-2008年3月).

科学研究費補助金(基盤研究(C))「ラオスの水田における生態系変化の指標となる藻類相の特定」(研究代表者: 藤田裕子), (2005年4月-2008年3月).

【大学の講義・実習、学生の指導など】

2005 年度前期, 京都産業大学工学部, 数理統計学 I.
2005 年度前期, 大阪工業大学工学部, 生物科学 a.
2005 年度後期, 京都産業大学工学部, 数理統計学 II.
2005 年度後期, 華頂短期大学, 情報処理演習 II.

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 2回.

館内の人事・館外活動等に関すること

【海外渡航】

2005 年 5 月 7 日～5 月 17 日, タイ王国・ラオス人民民主共和国, 水田耕作技術の聞き取り調査と土壌サンプリング.
2004 年 8 月 23 日～9 月 11 日, ラオス人民民主共和国, 水田耕作技術の聞き取り調査と土壌サンプリング.
2006 年 3 月 9 日～3 月 24 日, タイ王国・ラオス人民民主共和国, 国際ワークショップ発表ならびに水源調査.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

堀田桃子・大原健一・高橋大輔（2005年6月11日）マイクロサテライトDNAによるトウヨシノボリ4色斑型および地域集団間の集団遺伝学的研究. 2005年度ゴリ研究会, ゴリ研究会, 宍道湖自然館ゴビウス, 島根県, [口頭発表].

堀田桃子（2005年8月19日）マイクロサテライトDNAによるトウヨシノボリ4色斑型の遺伝的特性. 琵琶湖博物館研究セミナー. 琵琶湖博物館, [口頭発表].

堀田桃子・大原健一・高橋大輔・朝日田 卓・井田 齊（2005年9月24日）マイクロサテライトDNAによるトウヨシノボリ4色斑型の遺伝的特性. 第38回魚類学会年会, 日本魚類学会, 東北大学, 宮城県, [口頭発表].

大原健一・堀田桃子・高橋大輔（2005年9月24日）耳石 Sr:C2 比によるトウヨシノボリの回遊履歴の推定. 第39回魚類学会年会, 日本魚類学会, 東北大学, 宮城県. [ポスター発表].

博物館事業に関する業績

【展示活動】

琵琶湖博物館の活動

モーニングレクチャー, 講演, 3回.

印刷物

【学術論文】

水野敏明・中井克樹・池田三郎（2005）外来生物リスク問題に関する市民の認知と社会的ガバナンスの要件—早期警戒と事前対応型リスクマネジメントに向けて—, 社会技術研究論文集, 3 : 269-278 .

【専門分野の著作】

水野敏明（2005）外来生物リスクのリテラシーとガバナンスの要件. 日本リスク研究学会第18回研究発表会講演論文集, 18 : 157-158.

水野敏明（2005）多変量解析で魚の気分を探る. 農業土木学会誌, 9 (73) : 61-62.

土方直美・池田三郎・水野敏明（2005）バラスト水由来の外来種管理レジームにおける予防的措置の変遷. 科学技術社会論学会第4回年次研究大会予稿集, 4, : 229-232.

研究活動に関する業績

【学会・研究会での発表】

水野敏明（2005）外来生物侵入リスク問題とそのガバナンスの要件. 社団法人環境科学会 2005 年会, 社団法人環境科学会, 名古屋大学, 愛知県, [口頭発表].

土方直美・池田三郎・水野敏明（2005）バラスト水由来の外来種管理レジームにおける予防的措置の変遷. 科学技術社会論学会第4回年次研究大会, 科学技術社会論学会, 名古屋大学, 愛知県, [口頭発表].

水野敏明（2005）外来生物リスクのリテラシーとガバナンスの要件. 日本リスク研究学会第18回研究発表会, 日本リスク研究学会, 大阪大学, 大阪府, [口頭発表].

水野 敏明・中島経夫・琵琶湖博物館うおの会（2006）ラムサール条約登録基準による琵琶湖流域魚類の優先保全地域の評価. 国際湿地再生シンポジウム, 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会, 天津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].

上原和男・本田幹雄・佐久間維美・水野敏明（2006）湖辺の田んぼが果たす役割（スジシマドジョウ等の生き物の繁殖の場として）. 国際湿地再生シンポジウム, 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会, 天津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].

佐久間維美・上原和男・水野敏明・小坂育子（2006）湖から陸域までの行政と住民の連携による琵琶湖環境改善—コイ科魚類を注目種として—. 国際湿地再生シンポジウム, 国際湿地再生シンポジウム 2006 実行委員会, 天津プリンスホテル, 滋賀県, [ポスター発表].

水野敏明・中井克樹・池田三郎（2006）外来生物リスク問題に関する市民の認知と社会的ガバナンスの要件—早期警戒と事前対応型リスクマネジメントに向けて—. 第3回社会技術研究シンポジウム, 社会技術研究会, 東京大学, 東京都, [口頭発表].

水野敏明・中尾博行・中島経夫・琵琶湖博物館うおの会・琵琶湖お魚ネットワーク（2006）琵琶湖流域におけるブルーギルの生息環境条件の評価. 第42回魚類自然史研究会, 魚類自然史研究会, 琵琶湖博物館, [口頭発表].

水野敏明（2006）保全すべきはどこなのか？—魚から見る水路環境の特性—. 琵琶湖博物館研究セミナー, 琵琶湖

博物館, [口頭発表].

【研究プロジェクト等への参加】

独立行政法人科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業「新技術・環境リスクガバナンスの国際比較」（研究代表者：池田三郎），研究員，（2003年4月～2005年10月）.

総合・共同研究成果による印刷物

総合研究 97-01・資料

- Ishida, T. (2005) *Diacyclops biwensis*, a new cyclopoid copepod (Crustacea) from Lake Biwa, Japan. *Biogeography*. 7: 51-54.
- 松下 浩 (2006) 史料目録の目的と構成内容－滋賀県下の史料目録作成の事例を中心に－. *記録と史料*, 16. 全国歴史資料保存利用機関連絡協議会: 1-17.

総合研究 97-03・東アジア

- Miyamoto, S. (2005) Vegetational Changes since the Last Glacial from the Pollen Influx in Hokuriku District, Central Japan. Dctral thesis of Tokyo Metropolitan University.
- Nakajima, T. (2005) Significance of freshwater fisheries during the Jomon and Yayoi periods in western Japan based on analysis of the pharyngeal tooth remains of cyprinid fishes. Grier, C., Jangsuk Kim, J. and Uchiyama, J. eds., *Beyond Affluent Foragers*, Oxford Press, Lonson: 45-53.
- 中島経夫 (2005) ワタカは琵琶湖の固有種?－ワタカをめぐる生き物文化誌. *Biostory*, 3: 102-109.
- 中島経夫 (2005) 赤野井湾遺跡出土の魚類遺体. 守山市市史編纂委員会編, *守山市史 考古編*, 守山市教育委員会: 10-11.
- 中島経夫 (2005) 人間の活動と魚の関わり. 守山市市史編纂委員会編, *守山市史 考古編*, 守山市教育委員会: 76-77.
- 中島経夫 (2005) 土からわかること－咽頭歯分析. 守山市市史編纂委員会編, *守山市史 考古編*, 守山市教育委員会: 248-249.
- Uchiyama, J. (2005) The environmental troublemaker's burden? Jomom perspective on faraging land use. Kim, J. et al. eds. "the Affluent Forager" Oxford Press, London.

共同研究 98-05・陸貝

- 中井克樹 (2006) 陸産貝類. In: 滋賀県生きもの総合調査委員会 (編). *滋賀県で大切にすべき野生生物 滋賀県レッドデータブック 2005 年版*. サンライズ出版, 彦根. pp. 509-531.

共同研究 00-05・寄生虫

- Amin, O. M. (2005) Occurrence of the subgenus *Acanthosentis* Verma & Datta, 1929 (Acanthocephala: Quadrigyridae) in Japan, with the description of *Acanthogyrus (Acanthosentis) alternatospinus* n. sp. and *A. (A.) parareceptaclis* n. sp. from Lake Biwa drainage fishes and a key to the species of the subgenus. *Systematic Parasitology*. 60: 125-137.

共同研究 00-07・鰓脚類

- Rogers, D. C. (2005) A new genus and species of chirocephalid fairy shrimp (Crustacea: Branchiopoda: Anostraca) from Mongolia. *Zootaxa*. 997: 1-10.
- Stenderup, J. T. (2005) Gælleføddernes slægtskab - en molekylær fylogenetisk analyse af Branchiopoda (Crustacea). Specialrapport, Zoologisk Museum & Biologisk Institut, Det Naturvidenskabelige Fakultet, Københavns Universitet. 86 pp.
- Weeks, S. C., Sanderson, T. F., Reed, S. K., Zofkova, M. Knott, D., Balaraman, U., Pereira, G., Senyo D. M. and Hoeh, W. R. (2006) Ancient androdioecy in the freshwater crustacean *Eulimnadia*. *Proceedings of the Royal Society B*. 273: 725-734.

共同研究 02-03・分子進化

- Masunaga, K. and Saigusa, T. (2005) East Asian phylogeography of Diostracus (Diptera: Dolichopodidae), a torrenticolous genus of long-legged flies. *Proceedings, Fifth Asia-Pacific Congress of Entomolog.* :14.
- Masunaga, K., Saigusa, T. and Grootaert, P. (2005) Revision of the genus Thambemyia Oldroyd (Diptera: Dolichopodidae) with description of a new subgenus. *Entomological Science*. 8(4) : 439-455.
- Masunaga, K., Saigusa, T. and Yang, D. (2005) Taxonomy of the genus Acymatopus Takagi (Diptera: Dolichopodidae). *Entomological Science*. 8(3) : 301-311.
- Zhang, L., Yang, D. and Masunaga, K. (2005) A new Diostracus species from Sichuan, China (Diptera: Dolichopodidae). *Aquatic Insects*, 27(1): 57-62.
- 梶永一宏 (2005) アシナガバエ科 Dolichopodidae. 河合禎次・谷田一三編. *日本産水生昆虫 科・属・種への検索*. 東海大学出版. 1221-1228.

共同研究 03-02・珪藻図鑑

- Ohtsuka, T. (2005) Epipellic diatoms blooming in Isahaya Tidal Flat in the Ariake Sea, Japan, before the drainage following the Isahaya-Bay Reclamation Project. *Phycological Research*, 53, 日本藻類学会 : 138-148.
- 渡辺仁治・浅井一視・大塚泰介・辻 彰洋・伯耆晶子 (2005) 群集解析に基づく汚濁指数 DAIpopH 耐性能. 渡辺仁治 (編), *淡水珪藻生態図鑑*, 内田老鶴圃, 東京 : 784p.
- Fujita, Y. and Ohtsuka, T. (2005) Diatoms from paddy fields in northern Laos. *Diatom*, 21, 日本珪藻学会 : 71-89.
- 藤田裕子 (2005) 水田で藻類の生態を探る. *熱帯生態学会ニュースレター*, 60 : 1-5.
- 藤田裕子・大塚泰介・松田 晃 (2005) 北部ラオス、ベン川流域の水田に生息する珪藻の多様性. *総合地球環境学研究所研究プロジェクト4-2, 2004年度報告書* : 153-157.
- 藤田裕子・小手川隆志 (2005) 北部ラオス、水田の藻類に影響を及ぼす要因は何か. *総合地球環境学研究所 研究プロジェクト4-2 2004年度報告書* : 158-161.
- 有田重彦・大塚泰介 (2005) 円弧構成モデルによる羽状目珪藻の殻外形の記述. *Diatom*, 21, 日本珪藻学会 : 135-141.
- 中井大介 (2006) 人工水路で濁流が付着藻類群集に与える影響. 京都大学農学研究科修士論文.

共同研究 03-04・エコトーン

- 金尾滋史 (2005) 琵琶湖周辺の水田地帯における魚類について. *関西自然保護機構会誌*, 27(2) : 41-46.
- 金尾滋史 (2005) 滋賀県におけるカラドジョウの初記録と定着について. *関西自然保護機構会誌*, 27(2) : 59-63.
- 前畑政善 (2005) *琵琶湖、淡水魚類の重要生息地に関する調査報告書*. 特定非営利活動法人日本国際湿地保全連合 (有限責任中間法人) 水生生物保全研究会, 東京 : 97-99.

共同研究 05-01・古環境解析

- 里口保文・高橋啓一・山川千代美・岡村喜明 (2005) 古琵琶湖層群下部の層序と足跡化石. *日本地質学会第112年学術大会 (2005年京都) 見学旅行案内書*, 日本地質学会 : 75-85.

共同研究 05-02・マシジミ

- 松田征也・大原健一・小林 徹 (2006) フローサイトメーターを用いた外国産シジミ類とマシジミとの区別方法の検討. *国際湿地再生シンポジウム2006 プログラム・アブストラクト集*, 国際湿地再生シンポジウム2006実行委員会 : 37.

共同研究 05-03・カワウ

- Hobara, S., Koba, K., Osono, T., Tokuchi, N., Ishida, A. and Kameda, K. (2005) Nitrogen and phosphorus enrichment and balance in forests colonized by cormorants : implications of the influence of soil adsorption. *Plant and Soil*, 268 : 89-101.
- Osono, T., Hobara, S., Koba, K., Kameda, K. and Takeda, H. (2006) Immobilization of avian excreta-derived nutrients and reduced lignin decomposition in needle and twig litter in a temperate coniferous forest. *Soil Biology and Biochemistry*, 38 : 517-525.
- 亀田佳代子・小嶋健司・近 雅博・武本大輔・八尋克郎 (2005) 飛ばない虫と飛ぶ鳥との遭遇－カワウの営巣と森林の甲虫類との関係－. 八尋克郎・榊永一宏 (編), *第13回企画展示解説書*, 琵琶湖博物館, 草津市 : 94-95.

共同研究 05-04・硝酸形成

- 草加伸吾 (2006) 第4章 土壌浸透水質から見た各伐採処理の評価. 籠谷泰行 [編] *平成17年度琵琶湖環境科学研究センター委託研究報告書* 小面積実験区における森林管理の影響評価. 森林環境研究会 : 22-32+15.
- 徳地直子 (2006) 第5章 小面積実験区の土壌窒素動態. 籠谷泰行 [編] *平成17年度琵琶湖環境科学研究センター委託研究報告書* 小面積実験区における森林管理の影響評価. 森林環境研究会 : 32-36+2.

*編集者注 : 総合研究・共同研究ごとに、博物館での管理番号順 (番号の後の語は、研究名の略称) にまとめて掲載した。

2005 年度の研究活動をふりかえって

昨年度は、研究部長、生態系研究領域担当、博物館学研究領域担当などのリーダーが替わり新たな体制で研究部の運営が始まったが、今年度はその体制が維持されたことでようやく組織体制としては安定してきた。この組織体制で 20 回の研究部代表者会議、12 回の学芸会議、さらに各研究領域ごとの会議も 4 回開催し、研究事業の推進を図ることができた。

研究・調査活動においては、総合研究 1 件、共同研究 11 件、申請専門研究 2 件、専門研究 31 件を行った。開館以来の総合研究や共同研究などの件数は減少傾向にあったが、ついに今年度は総合研究が 1 件となった。来年度は生態系研究や博物館学研究を課題とした総合研究を早急に立ち上げる必要性を強く感じる。

県費以外の外部の助成による研究は、11 人の学芸職員が 27 件行った。これは昨年よりも増加しており、今後も外部からの資金も活用しながら研究を活発化することが求められている。

成果の発信については、学術論文 35 件、専門分野の著作 48 件、そして一般向けの著作として新聞への原稿も含め 83 件が行われた。その他、学会・研究会・講演会での発表も 79 件が行われた。最も基本的な研究成果の発信である論文等の発表数が若干であるが昨年度よりも増加したことは評価できる。今後も継続して増加できるような研究体制の確立が必要である。

その他、館内事業としては、研究発表会、博物館講座（全 6 回）、研究セミナー、特別研究セミナーを開催した。毎月 1 回開催される研究セミナーへの学芸職員の参加率は年間平均 70.0%であり、昨年よりは出席率が若干上がったが、まだ同日に開催される学芸会よりも参加率が低いことに変わりはなく、個々の研究を鍛えるための研究セミナーの意義が軽視されているように思われる。

特別研究員については、4 名の外部研究員が琵琶湖博物館の施設を利用して研究を行い、またセミナーで発表を行った。その他、3 名の外部研究者が施設利用手続きの後、水族魚病研究室、液浸収蔵庫、生態進化実験室、共同利用研究室などの施設を利用した。外部の研究者との共同研究を活発化し、互いに議論をする中で研究能力が向上していくことを考えると施設利用者が増加する傾向が望まれる。

本年度は、琵琶湖博物館の中長期基本計画の第 1 段階の終了年である。博物館全体としては、今後の設備の老朽化の問題がでてくることが懸念されるが、現段階における研究施設・設備はひとまず整備されたといえる。来年度に出版予定の開館以来の 10 年間の研究成果のまとめの出版物がでることによって、これまでの研究の到達点と今後の課題が示される予定である。これらをもとに、第 2 段階の計画を進めていく必要があるが、現状においては、地域の機関、人々との研究協力体制がまだ十分とはいえない状態にあり、これらをどのようにして向上させていくかが、第 2 段階の大きな課題であると考えている。

琵琶湖博物館業績目録 第10号
2005年度

平成18年(2006年)10月発行

編集：滋賀県立琵琶湖博物館

発行：滋賀県立琵琶湖博物館

〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091

電話 077-568-4811(代)

©滋賀県立琵琶湖博物館 2006年

Performance Records of the Lake Biwa Museum

No. **10** Fiscal **2005**



LAKE BIWA MUSEUM

滋賀県立
琵琶湖博物館

〒525-0001 草津市下物町1091
TEL.077-568-4811代 FAX.077-568-4850

LAKE BIWA MUSEUM
1091 Oroshimo,Kusatsu,
Shiga 525-0001,Japan